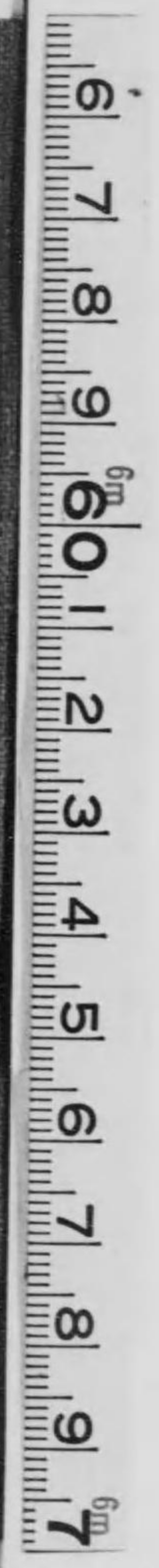


263.3
203



始



正 誤 表

頁及段、行	誤	正	頁及段、行	誤	正
八頁第一段二行終	「一つの時」は「一つの時間を」	十五頁一段七行	「下から下へ」は「下から上へ」		
十六頁第一段七行「I」	は「LA」	十六頁第二段一行「上や〇に」	は「オクターヴ上や下に」		
二十六頁第一段四行「1」	は「(1) p」	二十六頁第一段六行「(3) 今日」は「(3) 今日」	は「(3) 今日」		
二十六頁第二段三行「p」	は「p」	二十八頁第一段八行「習ひませう。が」	は「習ひませう。が」		
三十頁第一段七行「ドレミファソ、ファアミ……」	「ドレミファソ、ソファアミ……」	三十一頁第一段三行「(1) p」	は「(1) p」		
三十一頁第一段三行「答三〇」	は「答三拍」	三十一頁第一段六行「p」	は「p」		
三十三頁第一段七行「優秀兒數合」	「優秀兒數名」	三十三頁第一段八行「(1) p」	は「(1) p」		
三十八頁第一段一行「小節線」	は「小節縦線」	三十九頁第一段一行「答五つ」	は「答四つ」		
四十五頁第二段五行「(2) ドスイの半拍」	「(2) ドスイの半音程」	五十頁第一段九行「線上がド音」	は「線がト音」		
六十四頁第二段一行「スラーは」	「スラーのか、れるは」	六十四頁第二段二行「新出三度」	は「新出三度音程」		
六十四頁第三段十三行「(但し二十以内)」	「(但し二十以内)」	六十七頁第二段五行「シーシ」	は「スイーレ」		
七十四頁第一段一行「三四と呼つて」	「三四と呼んで」	七十八頁第一段二行「四分四の」	は「四分の四拍子の」		

岡山縣師範學校教諭 小笠原良造
岡山縣女子師範學校訓導 寺尾勝年
共著

本譜教授の實際

13. 8. 30
内交

東京 廣文堂書店發行

緒言

□本譜か畧譜か 小學校の唱歌教授には本譜畧譜の何れを採るべきかの問題は拾數年以前よりの懸案でありながら學制發布五拾余年の今日尙甲論乙駁殆んど其の歸結する所を知らない有様であります。

之は小學校施行規則そのものが極めて自由な解釋が出来る様になつて居るからであります、吾々は吾々の權威として何等かの信念を持たなくてはならないと考へます。

□本譜本位 兒童には兒童の世界があります、吾々は大人の理性によつて此の時代を解釋することの危険を悟らなくてはなりません。子供の世界まで降りて彼等を引き出さなくてはなりません。

著者多年の経験から見て其の方法さへ兒童の心理に順應するならば本譜教授は必ずしも困難ならずと斷言して憚らないのであります。勿論畧譜にも長所がありますが、著者は小學校唱歌教授に於ては本譜本位ならざる可らずと高唱するのであります。

□誰でも出来る、抑々唱歌教授は理論でなく實際であり理論でなくて要領であります。

近時歐樂の勃興につれて本譜教授の聲の漸く高まりつゝあることは斯道のため眞に慶賀す可き事でありますが、惜むらくは其の方法を得ざるため幾多の計畫が破壊せられつゝあることを目撃し他山の石たらん事を希ひ、敢て身の淺學非才を顧みず、著者等多年兩附屬小學校に實施せる具體案を公にした次第でありまして、全然創作であります。著者

の生命の迸つた物であります。大いに試みて下さい、大に研究して見て下さい、誰にでも出来ます。兒童は何等の苦しみもなく興味と期待の中になだらかに一步一步を建設して行く事と思ひます。

大正十三年七月三十日

著者識

未曾有の震災！其れはほんとに恨めしいものゝ一つであります。學制發布五拾年紀念に企てた私共の小さき計畫も出版の途次斯うした呪ひの焰を免れませんでした。焼失後更に起稿したものであります。

本書運用上の注意

- 一、唱歌時間を各學年共に毎週一時と見做して立案したものであつて唱歌教授の途中に於て約十分を之に當る方針である。(長くとも二十分を超過することは禁物)
- 二、本書の主眼は尋常三年四年の二ヶ年間に本譜教授の基本教練を行ふにあるのであるが、地方の状況によつては三ヶ年に伸ばしても差支ない(唯要はかくの如き順序を踏む事)
- 三、尙五年以上の學年に適用される場合にも此の順序に進まれん事を望むのであつて初めそれが如何に平易であらうとも途中から飛入りされる事は危険である。何となれば新出事項をのみ實際案によつて説明して居るからであ

つて只其の進行の遅速をのみ兒童の程度によつて斟酌せられんことを希望する。

四、樂譜の書方練習を早くより始めること、而して讀譜と書取とを並行して進めること。

五、名稱の記憶を後にして各種記號の機能を知らしむる事を先にすること。

六、樂典の科學的説明を避け成るべく平易に成るべく分り易く遊戯化し興味化して説明する事。

七、尋常五年以後に於ては歌曲の教授そのものを本譜で取扱ふ方針であるから本書の内容は極めて少くなつて來るのが當然であるが、音譜練習曲のみは尋常三年から系統的に立案したものであるから入念に取扱ふ事。

本譜教授の實際

目次

第一章 尋常科第三學年	一
第一節 第一學期細案	一
□ 譜表の教授	一
□ 高音部記號の教授	四
□ 音符の教授	七
第二節 第二學期細案	一四
□ 讀譜練習	一四
□ 譜表に於ける階名練習	二二
□ 音符の教授	二六
第三節 第三學期細案	三六

□ 小節小節線及終結縦線の教授……………三六

□ 音譜書取及讀譜練習……………四〇

第二章 尋常科第四學年……………四九

第一節 第一學期細案……………四九

□ 記號音符等の名稱教授……………四九

□ 縦線の教授……………五〇

□ 音譜書取及讀譜練習……………五〇

□ 讀譜練習並に音程練習……………五〇

第二節 第二學期細案……………五二

□ 拍子記號の教授……………五二

□ 音程並に讀譜練習(四度)……………五二

第三節 第三學期細案……………五七

□ 調子記號の教授……………五七

□ 讀譜並に音程練習……………一〇三

第三章 尋常科第五學年……………一一一

第一節 第一學期細案……………一一一

□ 音名の教授……………一一一

□ 嬰變及調子記號の教授……………一一五

□ 嬰變記號の書方教授……………一二七

□ 調子記號の教授……………一三三

第二節 第二學期細案……………一三七

□ 附點八分音符及十六分音符の教授……………一三七

□ 歷時練習……………一二九

□ 時間の呼び方の教授……………一三〇

第三節 第三學期細案……………一三六

□ 讀譜及音程(五度)練習……………一三六

第四章 尋常科第六學年……………一五〇

第一節 第一學期細案……………一五〇

□音程練習……………一五〇

第二節 第二學期細案……………一五一

□三連音符及變拍子の教授……………一五一

□變拍子の教授……………一五九

□三連音符及變拍子の練習……………一六一

第二節 第二學期細案……………一六一

□二重唱の練習……………一六一

第五章 高等科第一學年……………一七一

第一節 第一學期細案……………一七一

□二度音程練習……………一七一

第二節 第二學期細案……………一七五

□三度音程練習……………一七五

第二節 第二學期細案……………一八〇

□四度音程練習……………一八〇

第六章 高等科第二學年……………一八五

第一節 第一學期細案……………一八五

□五度音程練習……………一八五

第二節 第二學期細案……………一八九

□六度音程及複音練習……………一八九

第二節 第二學期細案……………一九五

□八度音程並に複音練習……………一九五

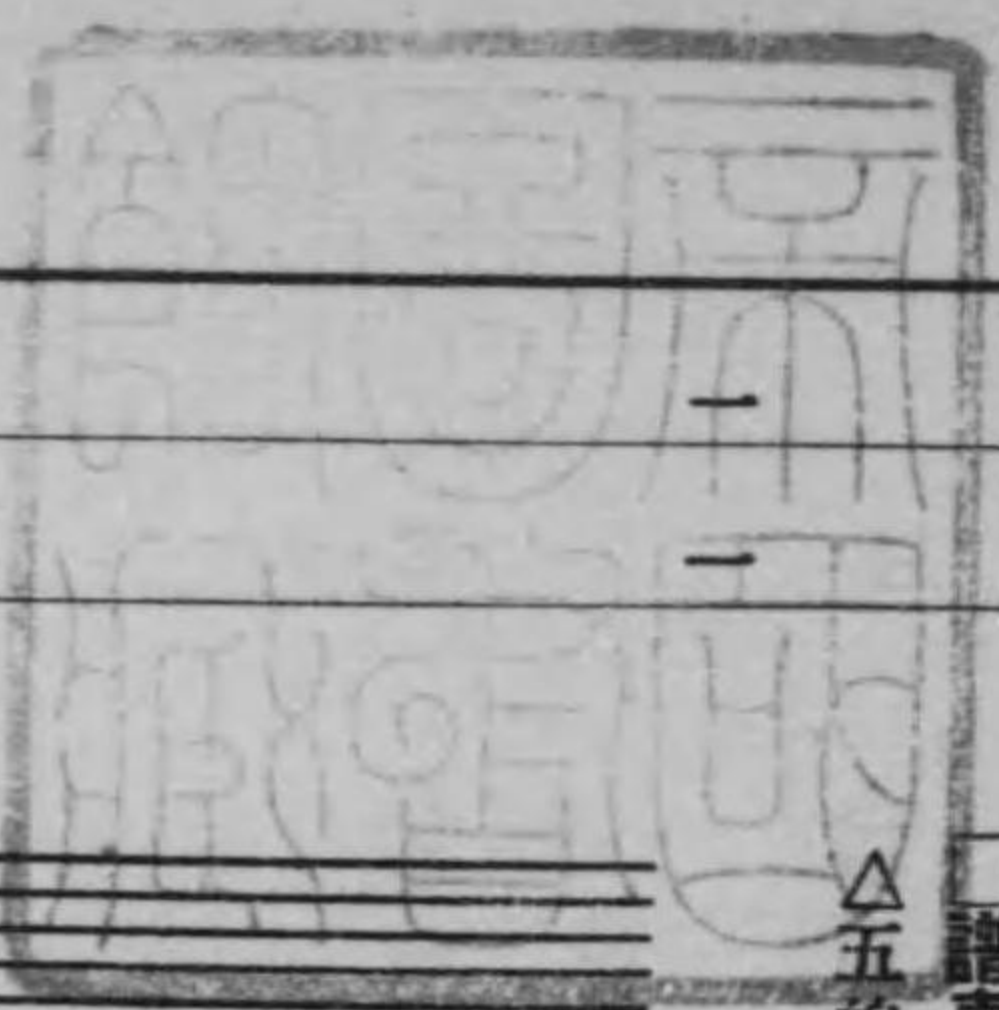
目次 (終)

本譜教授の實際

小笠原良造 寺尾勝年 共著

第一章 尋常科第三學年 第一節 第一學期細案

期週	教授事項並に教授方案	教授上の注意
一 一	<p>□譜表の授教 △五線の授教 實際案</p> <p>(1) 皆さん、此處に何本線が引いてありますか。(答五本)</p> <p>(2) さうです、五本でありますが、其の一つ一つを言ふ場合には下から順に第一線、第二線、第三線、第四線、第五線と申します。</p>	<p>○表の書方につきて</p> <p>一、五個直線は並行で水平でなければならぬ。</p> <p>二、同長にして同距離なるを要する。</p>



(3) 皆さん、一緒に線の名を言つて下さい。(教師バートンにて指示)

(4) よく覺わました、感心々々。今度は先生が飛び飛びに押へますから、よく見て居つて違はない様に指した線の名を言つて下さい。(超越的に指示)

△前時の復習
超越的に指示して線名を言はせる練習

△四間の教授

實際案

(1) 前時の復習

(2) 皆さんは大變早く覺わて呉れましたから今日から次

第一線、第二線、第三線の

如く系列として數ふる事は

機械的であるから案外苦痛

を感じないけれども一つ一

つを抜き出して來ると仲々

答へられぬものである。

教師は五線を超越的に指示

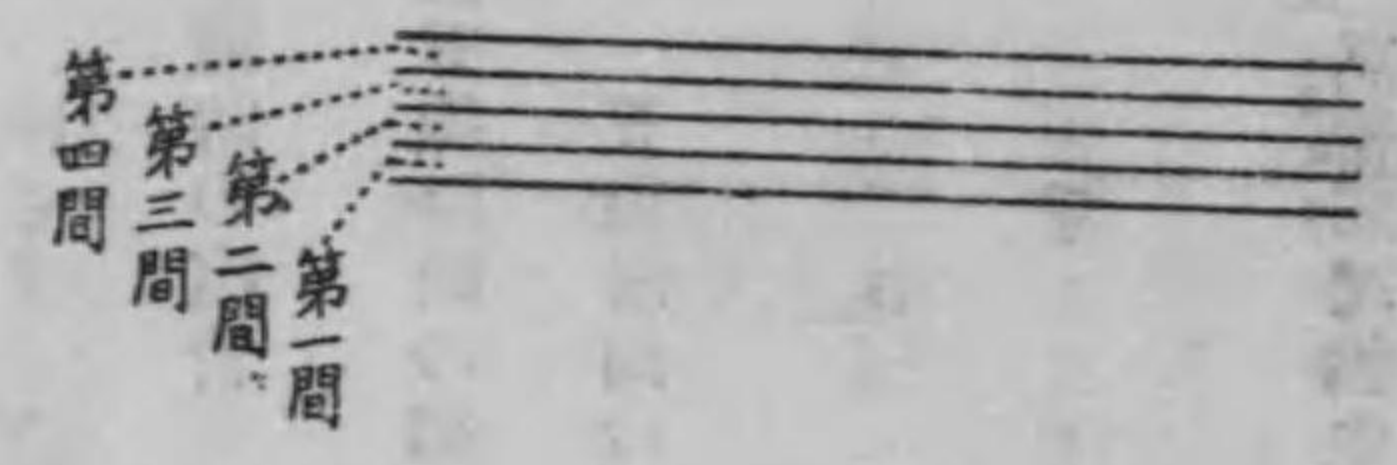
して兒童をしてその名稱を

反射的に直覺的に唱へ得る

まで反復練習して置く事が

肝要である。

へ進んで各線の間の名を習ふ事に致しませう。



(3) 第一線と第二線との間を第一間

第二線と第三線との間を第二間

第三線と第四線との間を第三間

第四線と第五線との間を第四間

と申します

(4) 皆さん、私が指した所の名を言つ

て下さい。(教師バートンにて指

示しつゝ)

(5) 皆さんの教はる唱歌の譜は此の五

線四間の上に記されるのであつて、此の表を譜表と申します。

△前時の復習

△五線四間の總復習


五線四間の名稱を系列的に又超越的に復習すること。

四 五

六

□高音部記號の教授

實際案

(1)教師  を示して之は樂譜を書く時に何時でも譜表の初めに書く記號シムンであります。今日はこれの

五線四間の名稱を超越的に取扱ふ事は將來の作業の進行を滑かならしむる上に非常に必要である。

兒童には樂譜練習帖を持たせること。

書き方を習ひませう。

(2)先づ第一線と第三線とに接觸する様にして渦をお書きなさい。

模範を示して後、兒童に書かしむ。(机間巡視して個人指導のこと)



(3)次に其の渦の端を第五線の上まで伸ばし、適當な所から下に向つてさげ、第四線の所で下から行つたものと交叉する様になさい。

大人が考へると、此の記號を書くことは非常に困難な様に思はれますが、子供には案外早く要領を會得させる事が出来ます。而も小さい時から汽車を書き、人形を描いた兒童には此の仕事が意外に面白いのである。

(机間巡視訂正の事)

(4)それから渦の中央を貫いて第一線の外に出で、之を左にお曲げなさい。(机間巡視して指導のこと)

△練習

(1)前の時間に習つた高音部記號を一つ書いてごらんなさい。誰かに前の塗板に出て書いてもらひませう。

(2)皆さんは大變よく書ける様になりました。しかし中にはおかしな事を書く人もありますから、先生がもう一度書きます、よく見て居つて下さい……分りましたか。

(3)それでは此の符號を十個お書きなさい。

初めからあまり拘束しないで自由に五個なり十個なり書かして筆順を覺わさせる事が第一である。

△練習

(1)前時の復習

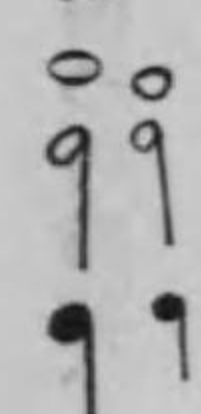
(2)今日は前の時間に習つた高音部記號を第二段にならべて成可く澤山書いてごらんなさい。

△練習

△總復習

□音符の教授 (其の一)

△實際例

(1)譜表に  の様なものを書いて音の長さや高さを表はすのでありますが、之を音符と申します。

兒童を順次に板書させて批評、訂正の材料としたい。高音部記號と言ふ名稱は一時に覺わさせないで、長い間に體得させる様にした方がいいものである。

今日はこの音符について習ひませう。

(2) ○は四つの時間、qは二つ、pは一つの時(間)を持つて居ります。

o 4 q 2 p 1



(3) それでは、私が塗板に書きます譜の長さを言つてもらひませう。皆さん、一緒に言つて下さい。

音符の書き方は次週の教材参照のこと。

符の形と時間とを結びつける爲に最も必要な作業であ

△音符の書き方教授

(1) 前時の復習。

(2) 大變よく覺わて居りましたが、今日は之等の音符の書き方を教へませう。

(3) 先づ下から始めるのであります。



(4) 皆さんは之等の音符の時間と書き方を忘れない様にしないで下さいませう。

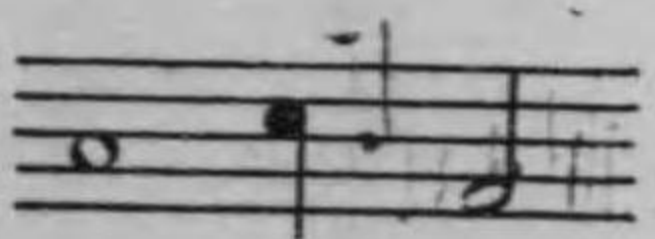
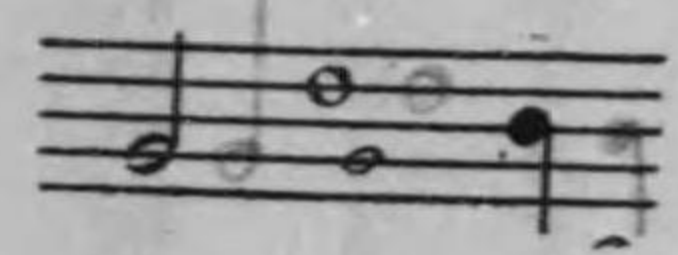
(5) 皆さんの持つて居る練習帖の譜表の間の広い所へ一

るから、教師は譜表上の色々な位置に色々な順序で書いて、直ぐその拍子を思ひ出さすべく練習することが肝要である。

寸先生のを見て書いてごらん下さい。(順序のみ覚わさせ
たらよいのである)

譜音符の書き方練習

- (1) 今日には譜表の上に音符を書く事を練習いたしませう。
(2) 線上の音符は此の様に音符の真中を譜表の線が貫き、
尚上下の線が之に觸らぬ様にするのであります



教師は模範を示しつゝ之等
の注意をあたへてよく理解
せしめなくてはならぬ。

- (3) 又間の音符は上下の線に接觸させる様に書くのであ
りますが、線外に少しでも出てはいけません。
(4) 先生が書くのを真似て書いてごらん下さい。

△練習



- (1) 譜表の第一線の上に四拍の音符を十個書いて下さい。
(2) 第一の間に四拍の音符を五つ書いてごらん下さい。
(第二線に、第二間に、以下同じ)
(3) 譜表の第四線上に二拍の音符を五つお書き下さい。
(4) 四拍の音符を第三間に十個お書き下さい。

二三名の児童に板書させる
こと。
第三線より上位の音符の符
尾は下に向け、下位の音符
の符尾は上に向けて書くべ
き事を注意せよ。

(5) 一拍の音符を第一線の上に五つお書きなさい。

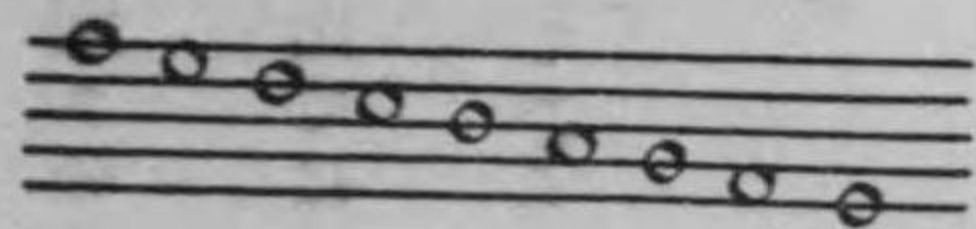
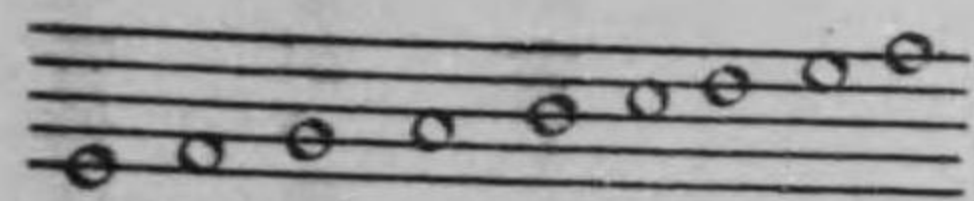
△練習

(1) 第一線から第五線まで四拍の音符を順次にお書きな

さい。

(2) 第五線から第一線まで四拍の音符を順次にお書きな

さい。



前の音符と次の音符とは重
らぬ様に少しづつ斜にすべ
きことを特に注意する必要
がある。此の書き方は初め
ての子供には仲々六つかし
い。

(3) 今度は二拍の音符で前の様に書いてもらいなさい。

(4) 次に一拍の音符で書いてもらいなさい。 9

△總復習

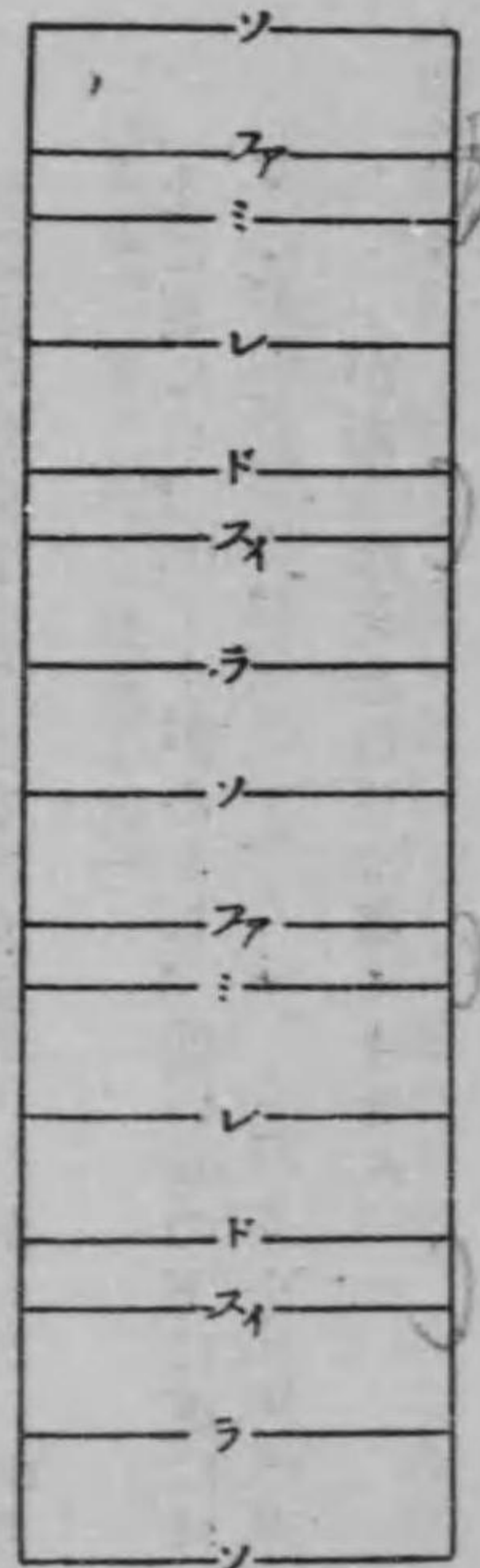
符尾の向け方に注意するこ
と。

第三線上の音符の符尾は前
後の音符との関係を考へて
上に向くも下に向ふも何れ
にても宜しい。

第二節 第二學期細案

期	週	教授事項並に教授方案	教授上の注意
二	一	<p>△復習 前學期に授けた事を復習す(譜表各位置の名稱、高音部記號の書方等の復習)</p> <p>△復習</p> <p>(三種の音符の書方及拍數等の復習)</p> <p>□讀譜練習 (其の一)</p> <p>△階名の教授</p> <p>實際案</p>	<p>音階練習と二度音程練習とは平行して進む可。</p>
三	二	<p>(1)皆さんは此處に掛けてある圖を度々見て居つたでせうが、一體これは何の圖でせうか?知つて居る人がありますか?</p>	
	三		

(2)さう、よく知つて居りましたネ。これは音階圖と言ふものです。そして音階を書き表はしたものであります。



(3)皆さんは此の音階の各段の名が言へますか、ドレミファソラシド……

下から下へ順に言つてごらん下さい、
上から下へ順に言つてごらん下さい、
(上行下行共に充分に練習のこと)

階名

1 2 3 4 5 6 7 1

DO RE Mi FA SOL LA Si DO

兒童は上行よりも下行に苦しむものである。特に下行猛練習のこと。

△音階の描圖

實際案

(4) その中で、何の音が一番基になるのでせうか。

(5) そう do であります。そして音階にはこんなに七つの階段しかありませんが、實際に於てはたゞそれだけでなくて、上にも下にも同じものが連続して居て大變澤山な音を出すものであります。だから高い do の上に更に re、mi……があるし、低い do の下に更に si、la……がある事を忘れてはなりません。

オクターブが
上や⑤に連続することは子供には六つかしい様であるから音階圖と對照しつゝ連續の一部分であることを徹底せしめなくてはならぬ。

(1) 前の時間には音階の稱へ方について稽古しましたが、各段の名が覺わられましたか。

(二三の兒童に言はしむ、齊唱もよろし)

(2) 大變よく覺わて居りました子、感心です。ところが、其の各段の距離は同じでせうか、それとも長短があるのでせうか。(兒童の答)

(3) そう、同じでないのであります。狭い所と廣い所とがあります、狭い所が幾つありますか。

(4) そう、二つてありますが、何處と何處でせうか。

(5) そう、ミ、ファの間と、スイ、ドの間とであります。

これを半音と言ひます。

二アクト

音階圖を此の時に揭示してやつて之をよく觀察させること。

五

今若し普通の所が一尺とすれば、半音の所は幾らで
せうか。……(五寸)

(6) そう、五寸でよろしい。皆さん、半音の場所とその
距離がよく分りましたか。今度又問ひますからよく
覚えて居て下さい。

△音階の描圖

(1) 前の時間には半音の位置とその距離とについて習ひ
ましたが、よく分つて居りますか。一つ、先生が問
うて見ませう。

半音は何ヶ所ありましたか。

半音は何處と何處でしたか。

普通の所が三寸とすると、半音は何寸でせうか。

(2) 今日 皆さん、音階圖を書いてもらひませう。三角
や圓でもつて三寸の所と一寸五分の所とをこしらへ
てもらひませう。そして、その右側へ名を書き入れ
てごらん下さい。(机間巡視)

ソファミレドスイラソファミレドスイラソ
△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△

(3) も一度大きな聲で音階の名前を呼んでもらひませう。
(上行下行共に數回)

あまりに程度高く取扱つて
はいけない。大體の觀念が
出來ればそれでよいのであ
る。

二三名の兒童に板書させて
共同修正させるのも一法で
ある。

△音階圖指唱

(教師はバートンで次の如く指示しつつ次の如く歌はしむ)

(1)ド レ ミレ ミレド

(2)ドスイ ラソラ スイド

(3)ミファ ミレドスイド

(4)ミレドレドスイド

(5)類似の二度音程……

△問答

(1)皆さんは前々音階について色々習ひましたが、今日は

音程の基礎であるからなるべく正確に歌はしめ度い。決していそいではならぬ。個人個人について念入りに矯正すること肝要である。

それを復習して見ませう。

(2)ドの上は何ですか、アアの上は?

ラの上は? スイの上は? ソの下は?

ファの下は? ラの下は?

(3)今度は音階圖を見ないで言つてもらひませう。(音階

圖をはづして)(同前)

ソの上は? ラの上は? ミの上は?

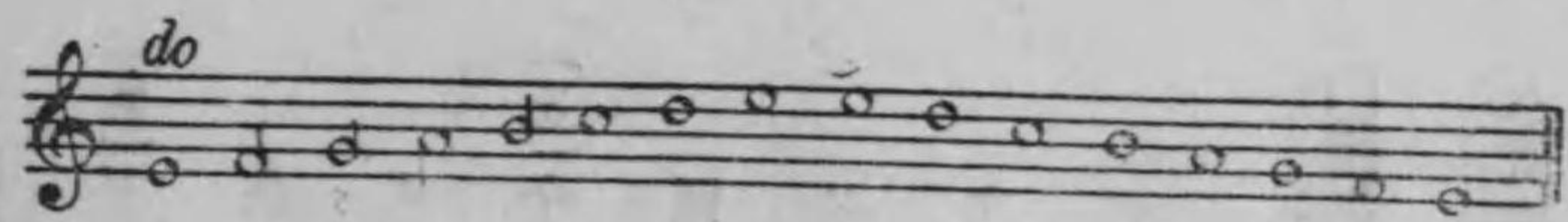
ラの下は? スイの上は? レの下は?

ドの下は?

□譜表に於ける階名練習

△實際案

教師が言つた階名の一つ上又は一つ下を言はさせる練習が必要である。教師は或る階名、例へばラを唱へ、更にバートンを上に振らばラの上スイ、下に振らばラの下ソを唱へしむる様な練習をする事は極めて効力がある。



(1) 皆さんは今迄長い間音階とか譜表とかに就いて習つて來ましたが、大變よく覺わて呉れましたので、今日から此處にある様な樂譜を讀むことを稽古致しませう。

(2) 讀むのは何處を基音ドにしてもよろしいのであります。今日は第一線をドにして讀んでごらん下さい。(教師はバートンで順序に指示しつゝ)

これは？
レ
これは？
ミ

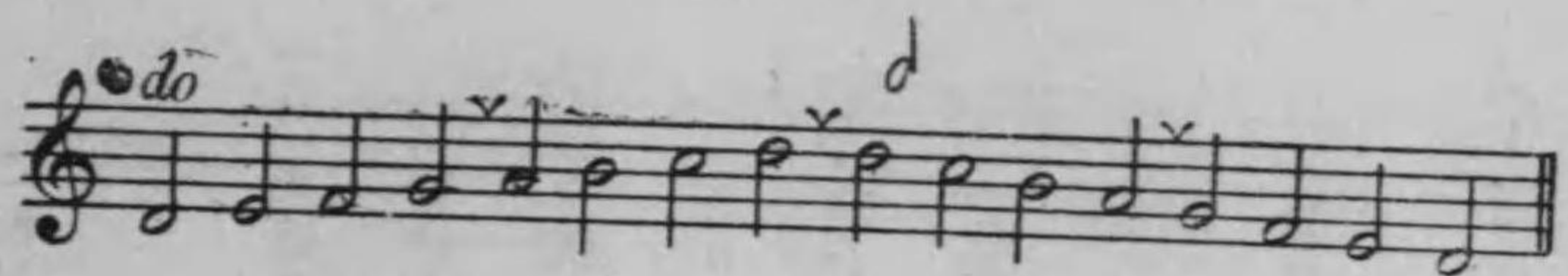
譜表上の何處を基音ドにするとも直ちに讀める様に取り扱はなくてはならぬ。ハ調なら讀めるが、他の調子では困難だと言ふ様な取扱をしては視唱法に這入つてから差支を生ずる。上行下行共に順列に指示する事は極めて肝要である。超越的に階名を呼ばしむる事は此の程度に於ては絶対に禁物である。

△二分音符による讀譜練習

- (1) 今日、此處(下第一間)を基音ドにして讀んでもらひ
- (2) 此等の音符の一つ一つは各何拍の時間を持つて居るでせうか。……答四拍。
- (3) 一個を四拍に數へつゝ手を拍つてごらん下さい。先手がピアノを弾きませう。
- (4) 拍子がわかりましたら、階名で歌つてごらん下さい。(教師はニ調又はハ調で樂器を奏すること)

本時の目的は譜表上に於ける階名を知らせることにあるのだ。若し歌はせることが主目的と見るならば本教材は程度が高すぎる感がある。故に(4)の歌はす仕事は副次的作業のつもりで取扱ひ度い。

前時同様の注意を持つて



ませう。

これは？

レ

これは？

ミ

これは？

ファ

……(以下同じ)

(2)此の音符の一つ一つは何拍でせうか。

答二拍

(3)先生がピアノを弾きますから拍子をとつ

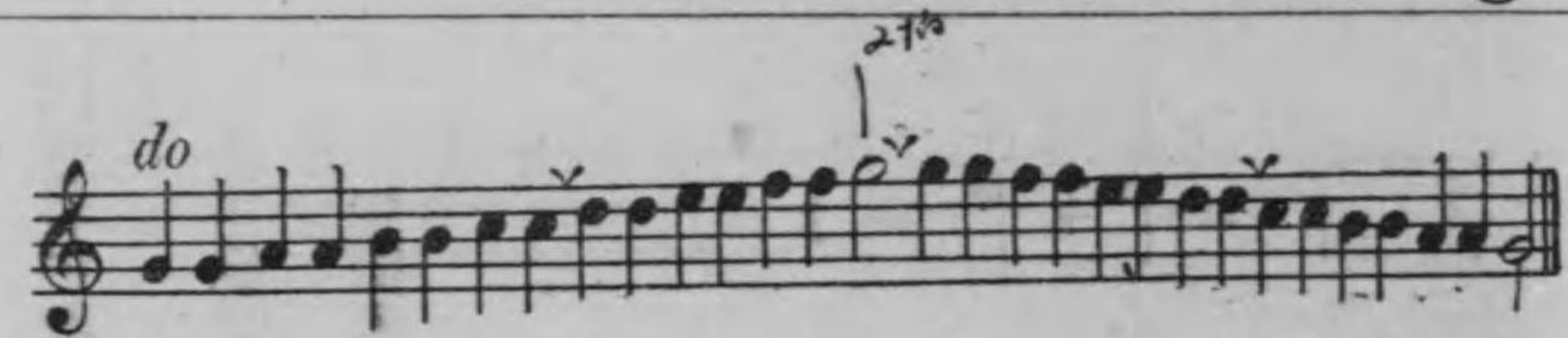
てごらん下さい

(4)さう、よく拍子がとれました。皆さん、

一緒に先生と歌ひませう。

(練習)

児童には此の位置で示し度
い。然し楽器は、ハ調又は
ニ調で奏すること



△四分音符による練習

(1)今日は第二線をドにして讀んでもらひませう。

これは？

ド

これは？

レ

これは？

ミ

……(以下同じ)

(2)何拍の音符が主でありますか、二拍の音符は幾つありますか。

(3)拍子を考へながら歌つてごらん下さい。

……(練習)

前時並に前々時の注意を持つて。

楽器はハ調で奏すること。

児童は上行には馴れて居るが、下行は劣いものであるから特に注意する必要がある。



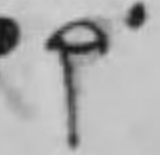
次第に音階の歌ひ方を正確に導き度い。本教材は最も適當と思つて居る。

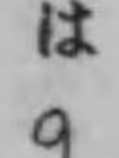
□音符の教授(其の二)

△附点二分音符の教授

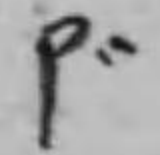

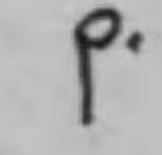

實際案

$$p \cdot = \overset{2}{p} + \overset{1}{p} = 3$$

- (1) は何拍でしたか (答二拍)
- (2) は何拍でせう (答一拍)
- (3) 今日  について習ひませう。之には右上に點が附いて居りますからこんなものを附点音符と申します。時間は點のないものゝ一倍半になるのであります。そこで式に書きますとこんなになります。

附点音符と言ふ名稱を授けるのが主目的ではない。要は  の機能を知らしむるにあるのだ。名稱は以後長い間に何時となく記憶させたらよいのだ。




- (4) それでは此の譜が分るでせうか。
 この符は何拍ですか(答三拍)
 これは? (答一拍)
 これは? (答三拍)
 これは? (答一拍)
 ……(數回練習)
- (5) 大變よく覺わしました、感心です。今度は二、三、(四)と言つて手を拍つて下さい。
 (教師はバートンで符を指示しつゝ)
- (6) 此の譜は第二線をドにして讀んでもらひますから拍子を考へながら、ドー(一、

教師バートンにて順次に指示しつゝ、
 注入教授を避けて成るべく誘導的に取扱ひ度い。試行錯誤に出發し度い。

$$\overset{.}{\text{p}} = \overset{.}{\text{p}} + \overset{.5}{\text{p}} = 1.5$$

△附点四分音符の教授

(個唱、齊唱を繰返して正確になるまで取扱ふこと)

(1) は何拍でしたか。 (答三〇拍)

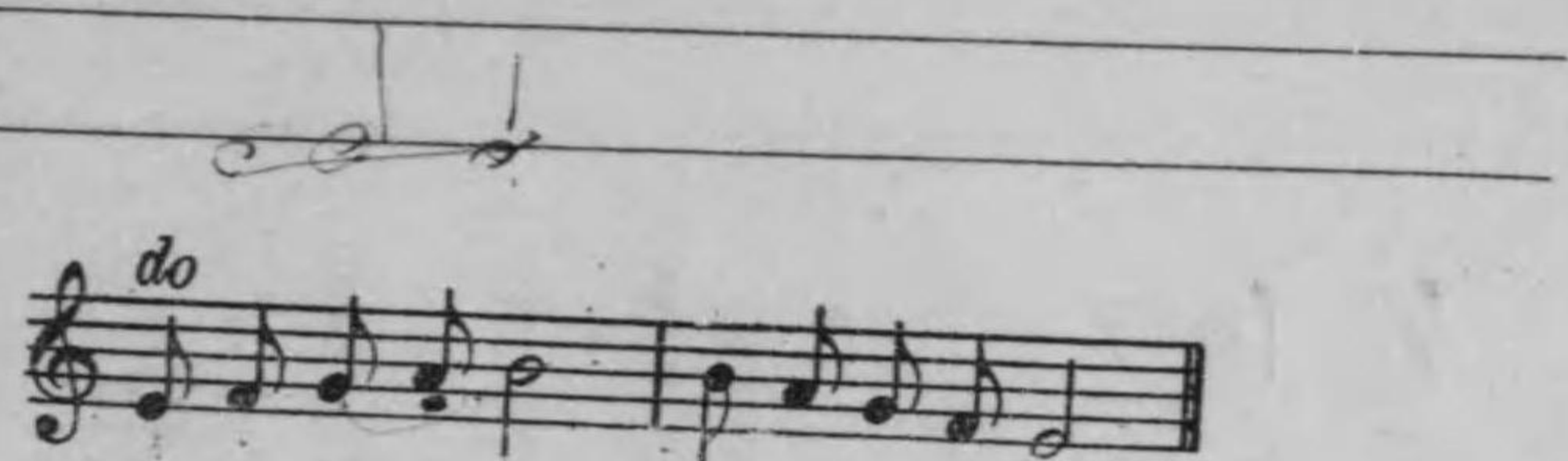
(2) 附点があるときはどんなになるのでしたか。(答)


(3) さうです、無いものゝ一倍半になるのであ

ります。それでは は何拍でせうか。


(答一拍半)

(4) そう、一拍半でよろしい。式に書くとこんなになります。



 これは? 半拍

これは? 半拍

これは?  二拍

……(以下同じ)

(8) 今日第一線をドにして読みませう。皆

さん自由に読んでごらん下さい。

(各自自由に、ドレミファソ、ファミレドを繰返す)

(9) それでは先生がピアノを弾きますから、

皆さん一緒に歌つてごらん下さい。(數

回練習)

(10) 誰か一人で歌つてもらひませう。

拍節しながら唱はしめ一拍

に八分音符二個唱ふべきも

のなる事を會得せしめる。

音程、拍子、讀譜共に正確

ならしめなければならぬ。

(5) さあ、皆さん。次の譜を読んで見ませう。

今日のは第一間がドであります

これは？ ド

これは？ レ

(6) 拍子はどうでせうか

これは？ 一拍半

これは？ 半拍

これは？ 一拍半

これは？ 半拍

(以下之に同じ)



最後の休止符は一拍の休である事を臨時的に説明しておく。

楽器はへ調で奏すること。

最後は何拍ですか (答三拍)

その次の休止符は (答一拍)

(7) それでは拍子と音程とを考へつゝ自分で自由に歌つてごらん下さい。(數回繰返す)

(8) 誰か一人で歌へる方がありますか。それでは何某さん、歌つてごらん下さい。

(優秀兒數合に歌はせる)

(9) 皆さん、一緒に歌ひませう。(ピアノ伴奏で)

自由に歌はせること、それはあまりによい方法でない然し傳達より創造に導く過程としては必要だ。

四拍子の強弱を考へて歌はしめること肝要である。強弱のことは兒童にはまだ早いが、教師はその心して教授に當らなくてはならぬ。

△練習(取扱方法同前)

(1)


(2)

(1) 楽器ト調のこと


(2) 楽器はへ調のこと

□休止符の教授

△實際案

(1) 皆さんは今迄に度々  に着いて長さを教はつて居ると思ひますが、此の符號は何拍の休みでしたか。

(答一拍)

(2) 二拍休む時には第三線の上に  をつけます

(3) 四拍休む時には第四線の下に  をつけます


(1)


(2)


(3)

四分休止符は今迄に度々臨時的に取扱つてある筈である。

四分休止符の書き方

1 

2 



(4) 練習

これは 何拍? 一拍

これは ? 二拍

これは ? 四拍

(順序不同に取扱ふ)

△休止符の復習並に書取

實際案

(1) 第一線上に三拍の音符を五つ書いてもらなさい。♪

(2) 第一間に一拍半の音符を十個お書きなさい。♪

(3) 第三線に半拍の音符を五つお書きなさい。♪

第三線より上に書く場合に

- (4) 一拍の休止符を十個お書きなさい。
- (5) 二拍の休止符を五つお書きなさい。
- (9) 四拍の休止符を五つお書きなさい。

は符尾を下に向けることを注意すること。

第三節 第三學期細案

期
週

教授事項並に教授方案

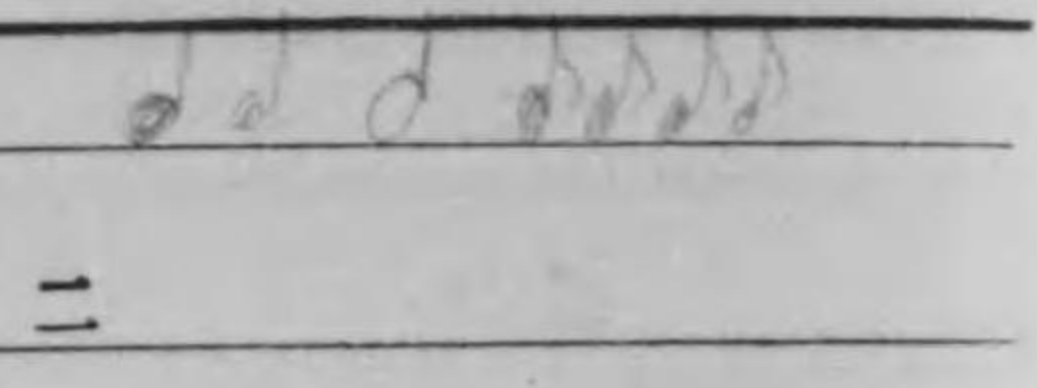
教授上の注意

三
二

□小節 小節線及終結縦線の教授
△實際案



- (1) 譜表を幾つかに區劃する線を縦線と申ます。
- (2) そして最後に二本並んで居る縦線はもう終りになつたことを表はす線でありまして、之を終りの線と申ます。
- (3) 縦線と縦線との間を小節と申ます。
- (4) 上の譜表には小節が幾つありますか。



二

△練習

- (1) 譜表の第一段を縦線で十に分けてごらん下さい。而して終の線をも書いて下さい。(兒童一二名に板書させる)
- (2) 第二段を十五小節に切つて、終りに終りの線を書いてごらん下さい。
- (3) 各小節が二拍の長さになる様に任意の音符を入れて

(答五つ)

縦線が何本ありますか。……(答四本)

終の線が何本ありますか。……(答一つ)

兒童の板書を批正の材料にすることは最も有効である

六小節作つてごらんさい。

(4) 各小節共四拍の勘定になる様に二拍の音符、一拍の音符、四拍の休止符、二拍の休止符、一拍の休止符を取り混ぜて五小節作つてごらんさい。

(5)
(6)
(類似の方法によつて)

□ 楽譜書取及讀譜練習

△ 實際案

(1) 寫譜帳を出して先生の言ふ通りに書いて下さい。

机間巡視して個人指導を行ふこと肝要である。

(2) 第一線に一つで四拍の音符、次に縦線、第二間に二拍の音符二つ、縦線、第一線に二拍の音符一つ、二拍の休止符一つ、次に終結縦線……(机間巡視しつつ)

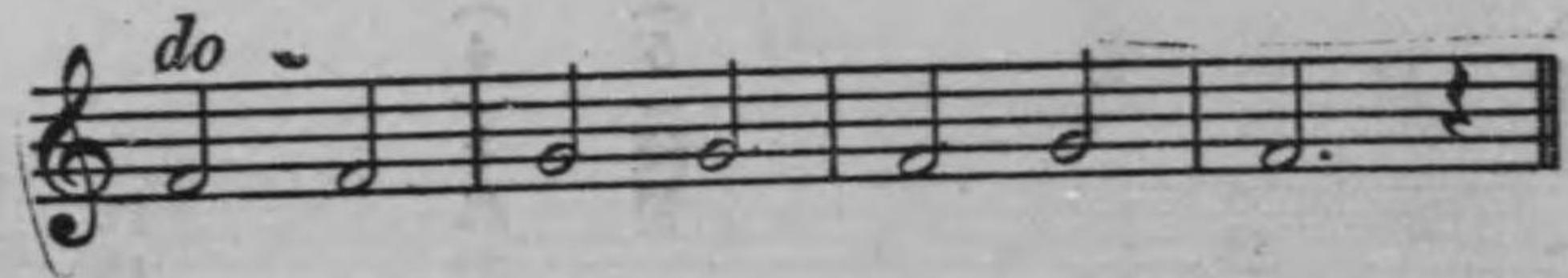
(3) 此の譜を第一線をドにして讀みませう。

do

これは? レ
これは? レ
これは? ド

高音部記號は常に樂譜の始めに書くべき事を注意すること。

兒童の共同缺點は特に板書して説明を加へること。



(3) 拍子の問答

これは？
ド

これは？
レ

.....

(2) 読譜練習

符二つ、縦線第一間に二拍の音符一つ
第一線に二拍の音符一つ、縦線、第一
間に三拍の音符一つ、一拍の休止符一
つ、終結縦線(机間巡視、訂正の事)

第一間をドにして読んでごらん下さい。

譜表の始に高音部記號の入

ることを重ねて注意するこ

と。

四

(4) これは何拍子でしたか。(四拍)。

これは？ (三拍) ↓

これは？ (二拍)

これは？ (二拍)

これは？ (二拍)

(5) 音程と拍子を考へつゝ正しく歌つてごらん下さい

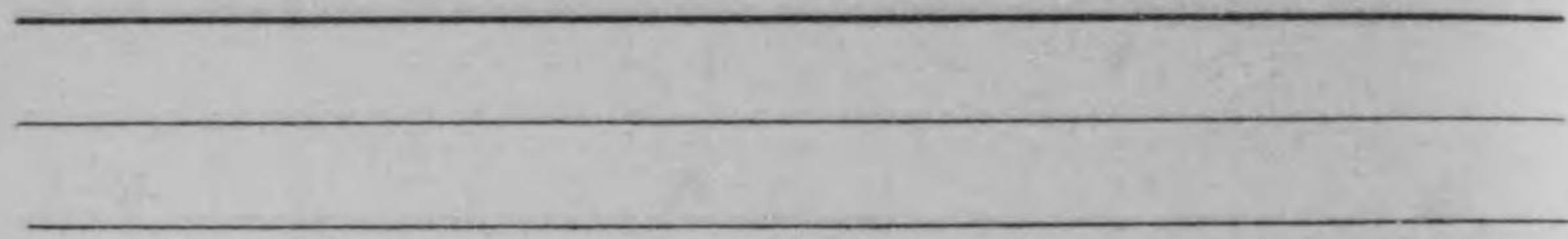
.....練習

△書取及読譜視唱の練習

實際案

(1) 第一間に二拍の音符二つ、縦線、第二線に二拍の音

二度音程の練習であるから
正確でなくてはならぬ。特
に個人指導を十分に行ふこ
と。



(1)

do

(2)

do

(3)

do

(4)

do

楽器の調子

(1) ト調

(2) ハ調

(3) イ調

(4) 変ロ調

(2) ドス^ミの半拍に注意

(4) 同前

五

△練習 (方法同前)

(4) それでは拍子と音程とを正しく歌つてごらん下さい。
 (5) 練習 (ピアノ伴奏)

これは何拍? 二拍
 これは? 二拍

.....

楽器はヘ調が本體であるが
 上下に半音づつ、移調して練習することも必要である。

九

(9)

mi

(10)

sol

(11)

mi

(12)

sol

(11)特に猛練習のこと

楽器の調子

(9)	(10)	(11)	(12)
變ホ調	ト調	ト調	ハ調

七

(5)

do

(6)

mi

(7)

do

(8)

mi

(8) ミフアの半音程に注意
すること

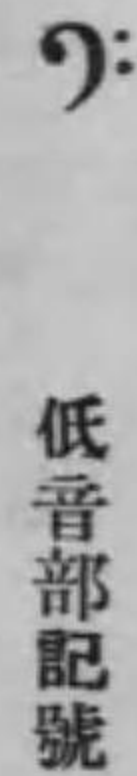
楽器の調子

(5)	(6)	(7)	(8)
ハ調	ト調	ト調	ハ調

ありますから、今後は譜を寫すときにも書取の時に
も常に高音部記號と呼ぶ事に致しませう。

△備考

(1) 普通用ふる音部記號に高音部記號と低音部記號との
二種がある。

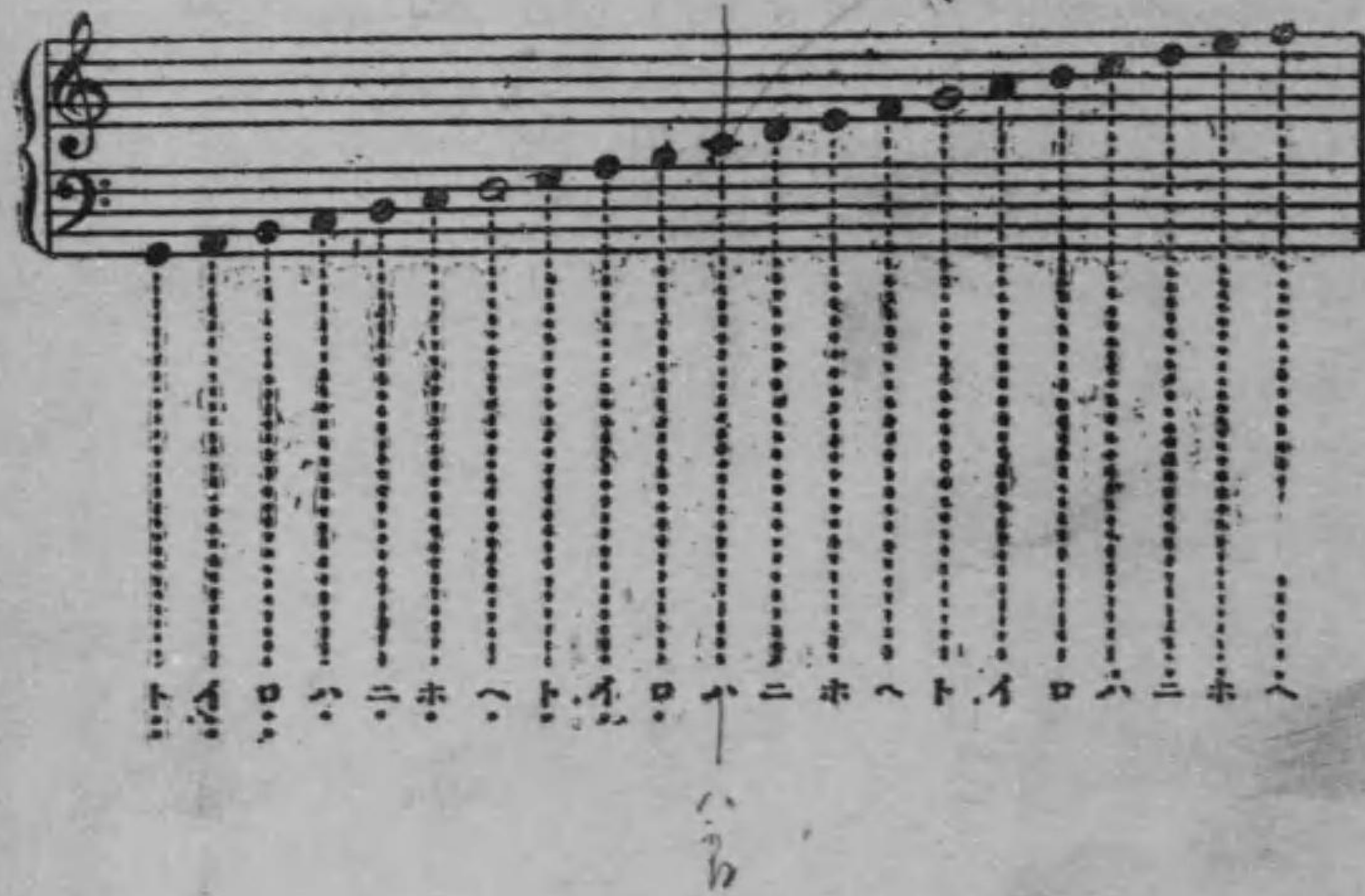


(2) 高音部記號は譜表の第二線上に其の主要部を置いて
居る。即ち其の線がト音であると言ふことを示し
て居る。故に之をト音記號(ト字記號)とも言ふ。又
ヴァイオリン樂譜に用ひる所から、ヴァイオリン記
號とも言ふ。

時間の都合によつては書取
練習に加ふること。

(前學期の復習と高音部記
號の書方練習を兼ねる意味
に於て)

大譜表の上の音の位置



(3) 低音部記號は第四線上に其の主要部を置いて其の線
上がへ音であることを示すものである。

□圖の如く高音部譜表と低
音部譜表とを連結したる
ものを大譜表と言ふ。
□低音部譜表は唱歌に於て
は單獨に使用することは
無い。

△音符の名稱教授

△實際案

- (1) ○ は何拍でしたか 答四拍
- (2) ♩ は何拍でしたか 答二拍
- (3) ♪ は何拍でしたか 答一拍
- (4) ♪ は何拍でしたか 答半拍

(5) 今日 は それ 等 の 別々 の 名 前 を 教 へ て あ げ ま す。

(表示) (説明)

□各部分の名稱



□説明の後で指示した音符の名稱が直ちに唱へられるまで練習することが肝要である。

- △休止符の名稱教授
- △實際案
- (1) 〰 は何拍の休でしたか 答二拍
 - (2) 〰 は何拍の休でしたか 答四拍

○	全音符	四拍
♪	二分音符	二拍
♪	四分音符	一拍
♪	八分音符	半拍
♪.	附點二分音符	三拍
♪.	附點四分音符	一拍半

□本時の教材は比較的分量が少いのであるから、樂譜練習帳へ書方の練習をさせること。

(3))とは何拍でしたか。

答一拍

(4) 今日はいこれ等の名をけいこ致しませう。

全体止符

四拍

二分休止符

二拍

四分休止符

一拍

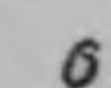
△復習(書取練習)

△實際案

(1) 四分音符を二つかけ。



(2) 全音符を四つかけ。



(3) 四分休止符を三つかけ。



□ 譜表上の位置は兒童の任

意にさせる。

三

加線の教授

△實際案

(1) 楽譜の根本となるものは横に引いた同じ長さの同じ

隔りを持つた五本の線であつて、之を譜表と名づけ

ることは、皆さんの早くから知つて居ることであり

ますが、實際に唱歌やピアノ・ヴァイオリン等の譜

を書いて居ると、尙之だけでは不十分な時が度々

あります。

符尾の向け方に注意するこ

と

♪♪。

四

(3) それでは、先生が指した處の名稱を言つて下さい。
(順序不同に指示して)

△練習(書取)

實際案

- (1) 下第一線に附點四分音符二つ。
- (2) 上第二間に全音符三つ。



(2) そんな時には圖の様に
加線と稱へる短い線を
つけ加へるのでありま
す。
加線及加線間の名稱は圖の
通りであります。

今學期始めからの教授事項
は總復習する意味に於て取
扱ふこと。

(3) 上第一線に八分音符五つ。

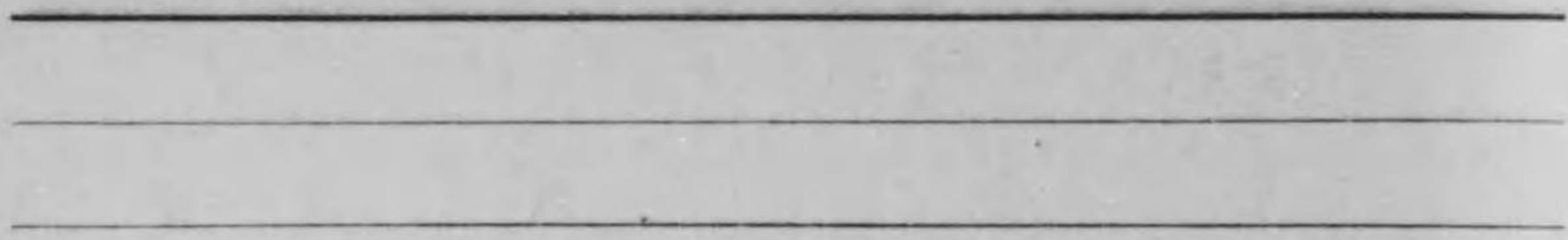
□ 楽譜書取及讀譜練習

△ 實際案

(1) 高音部記號を描け。次に第二線に全音符、小節縦線次に第二間に四分音符二つ、第三線に四分音符二つ小節縦線、第二間に二分音符二つ、小節縦線、第二線に二分音符、次に二分休止符を描き、終結縦線

符尾の向け向け方を注意する。

尋常三年時代の書取問題提出の方法よりも一段の進歩と發達を來して居るから、前と比較して、その呼吸を會得すること肝要である。



(2) 第二線をドにして讀みませう。

これは?

レ

これは?

レ

これは?

ミ

(3) 皆さん一緒に拍子を言つて下さい。

(教師はバートンで順次に指示)

四拍、一拍、一拍、一拍、一拍

二拍、二拍、二拍、二拍

(4) 音程と拍子とを正しく歌つて見て下

さい……………(練習)

樂器はト調のこも、半音宛上下に移調して伴奏するこ

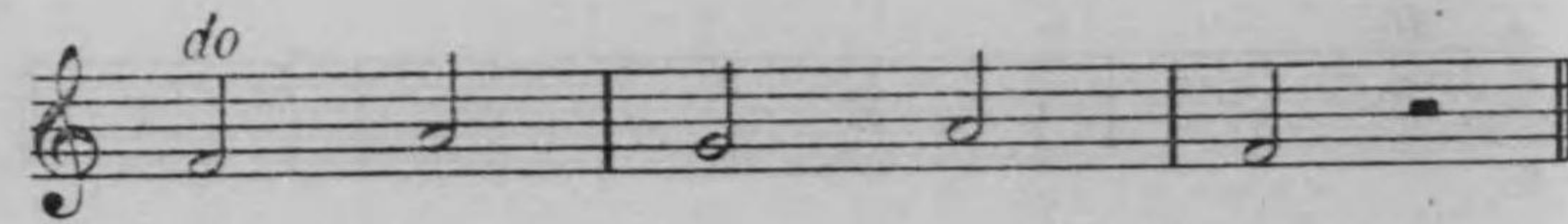
七

第六週

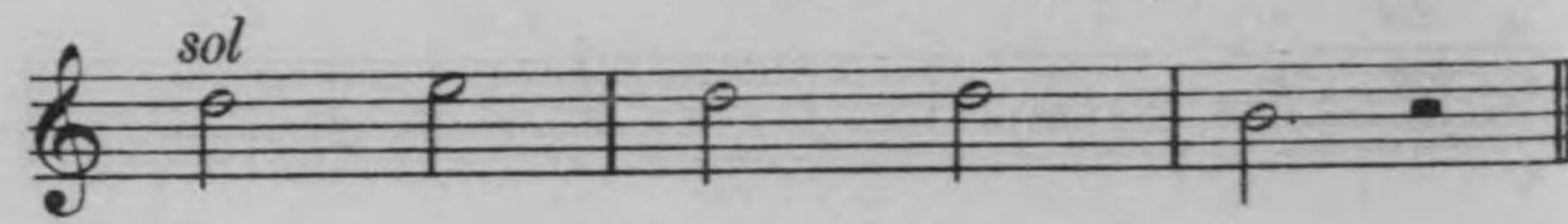
(1)



(2)

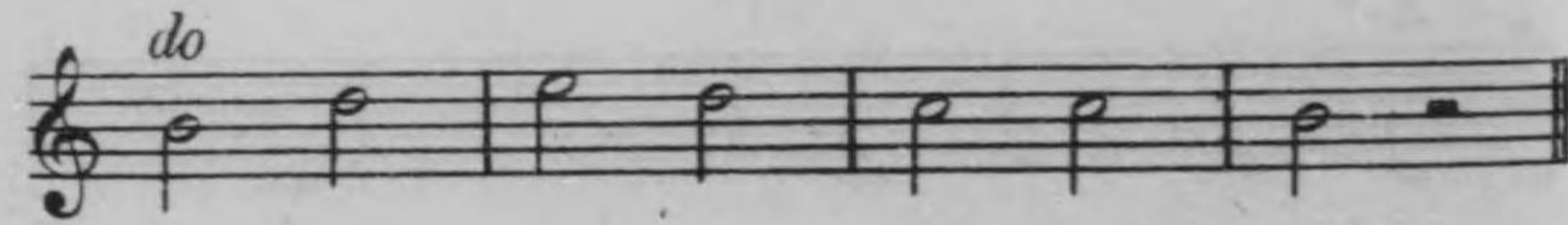


(3)



第七週

(4)



□ 樂器の調子

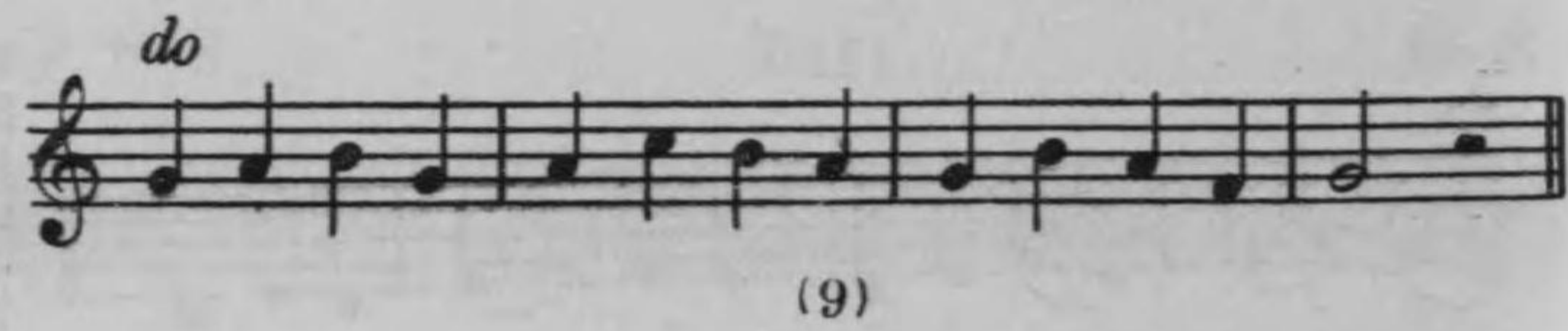
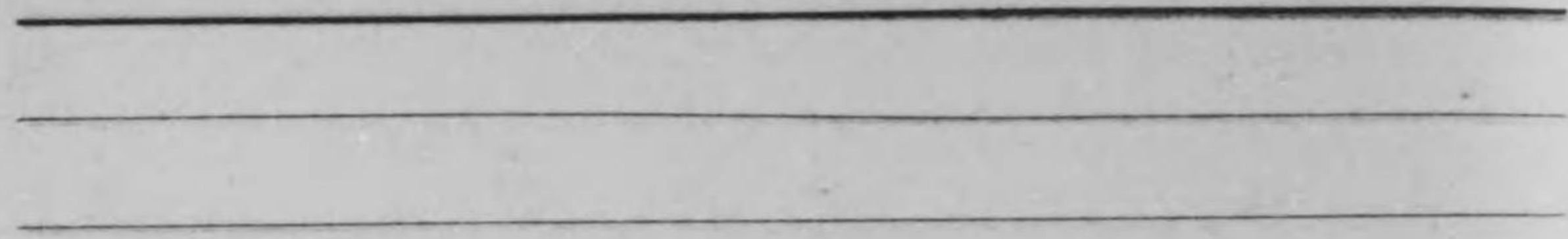
(4)	(3)	(2)	(1)
變	ト	ハ	變
口	調	調	ホ
調			調

六

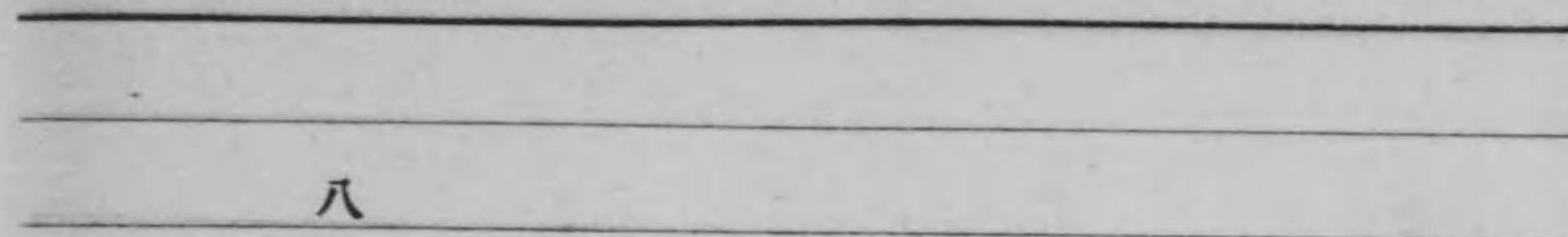
△ 練習

以後二週間をば全く樂譜書取と讀譜練習とに配當してゐるが、取扱の方法は前と全く同様であるから練習材料のみを記載して置く。

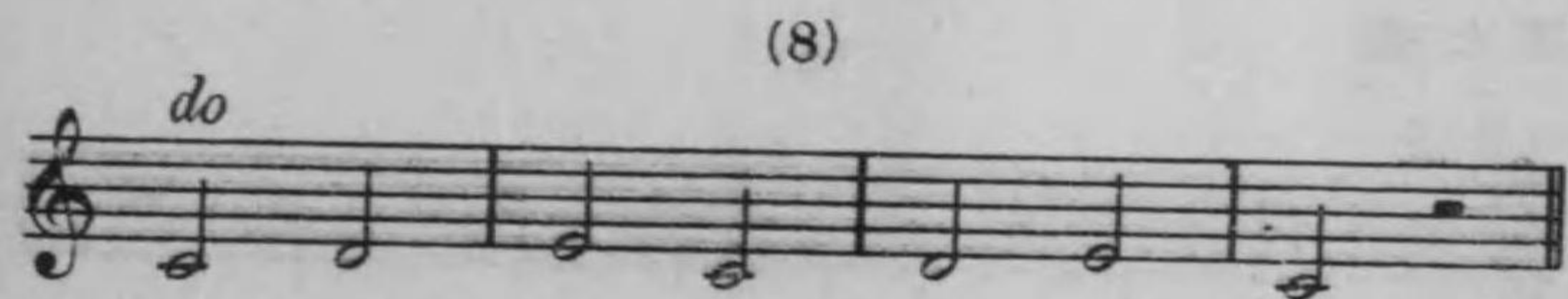
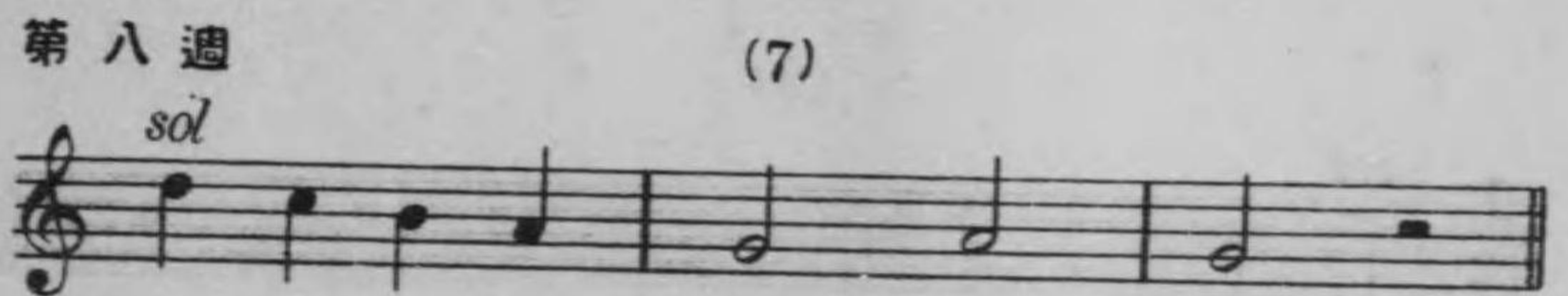
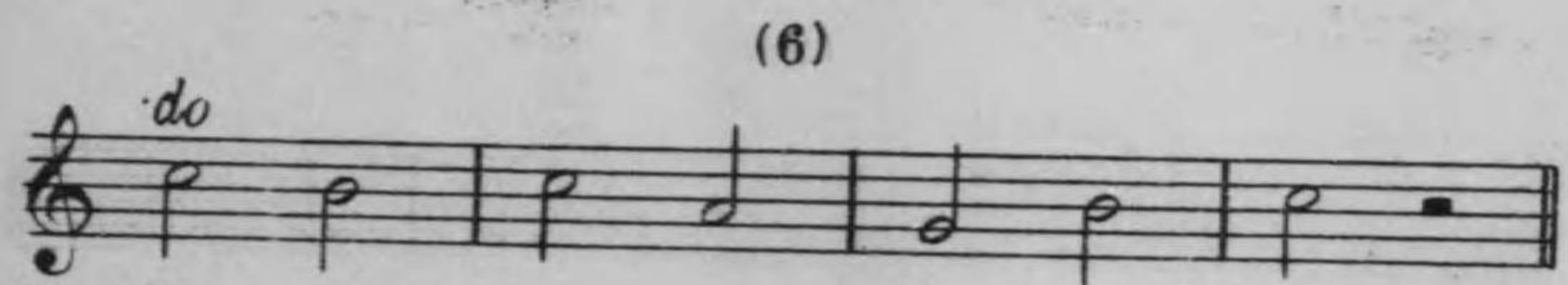
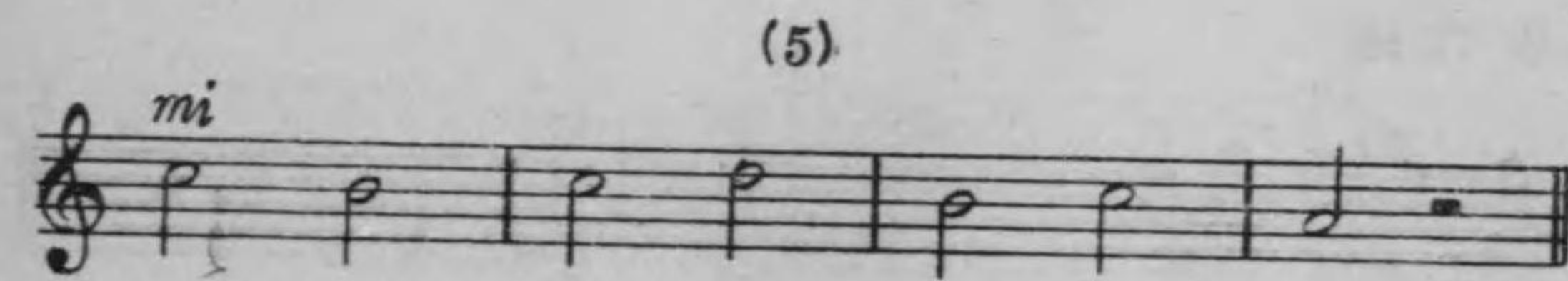
とも、聴覺の鍊磨上面白い方法である。



□ 楽器の調子
(9) ト 調



八



□ 楽器の調子
(8) ハ 調
(7) ト 調
(6) ハ 調
(5) イ 調

三度音程の初歩十分に注意
するべし。

第十遍 (5)

mi

(6)

mi

□ 楽器の調子

(5) 變ホ調

(6) へ調

□ 新出三度

ミーン ライド・

ライファ レイスィ・

□ 音程練習の初歩に於ては音階圖と關係づけて取扱ふべし。

第九遍 (1)

do

(2)

do

(3)

do

(4)

do

□ 調譜練習並に音程練習(三度)

□ スラーは三度音程 (つかひ)

ドイミ ソイミ

レイファ ソイスィ

□ 楽器の調子

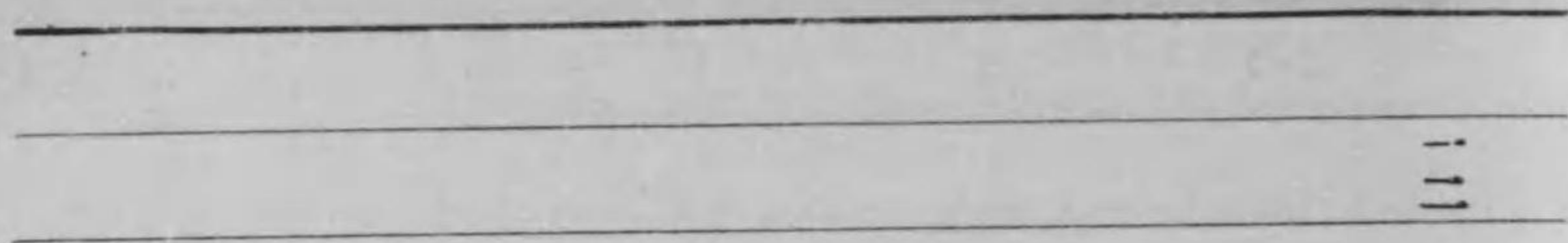
(1) ハ調

(2) ト調

(3) ハ調

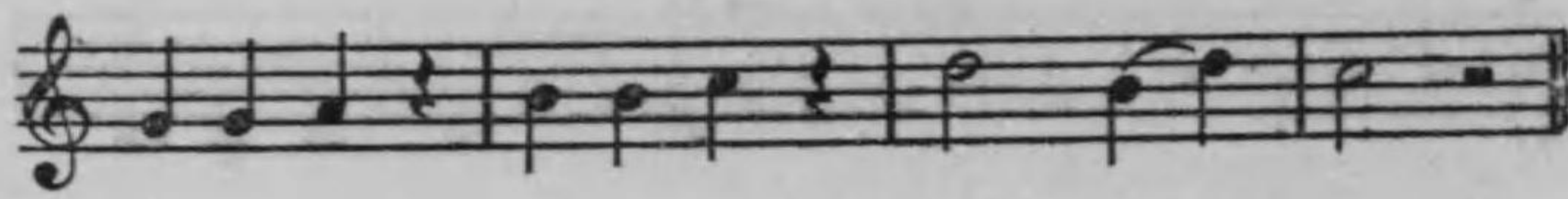
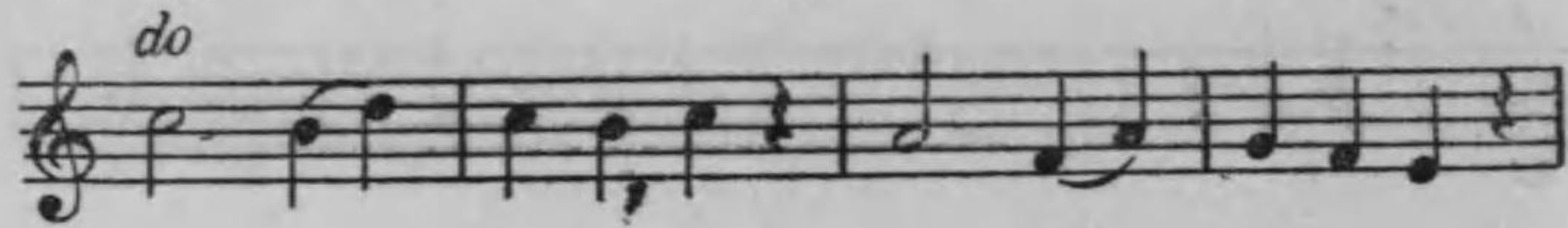
(4) イ調

□ 音程練習には稍々長い時間をかけて正確に練習すること。(但し二十以内)

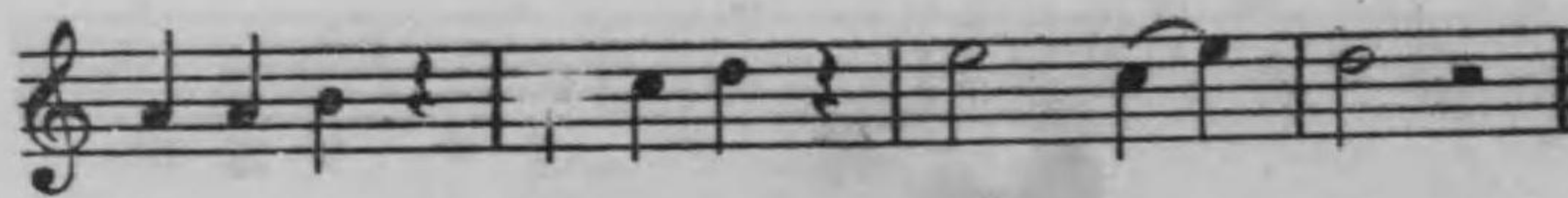


第十二遍

(9)



(10)



□ 楽器の調子

(9) ハ調

(10) ニ調

□ 新出三度音程



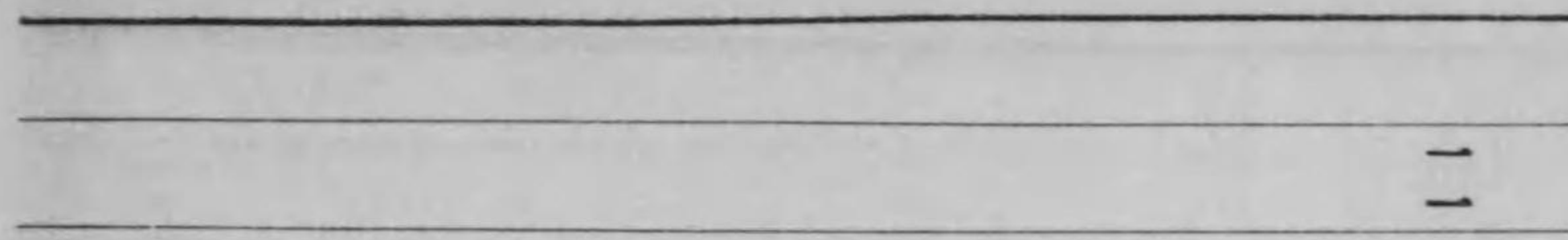
フーラー

□ 第二小節より第三小節に

わたる三度音程は至難で

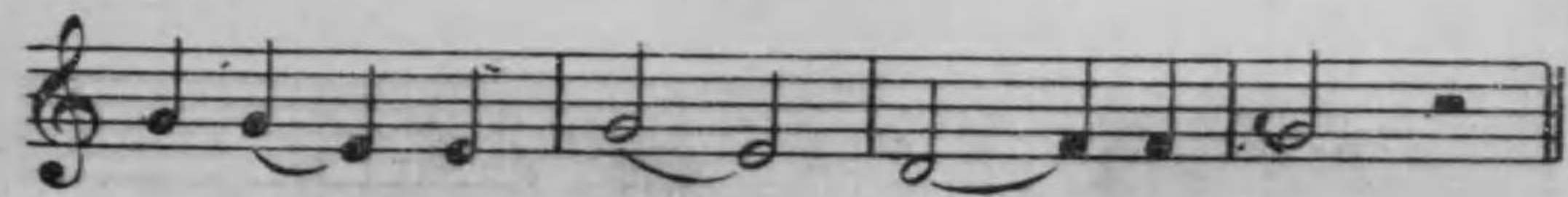
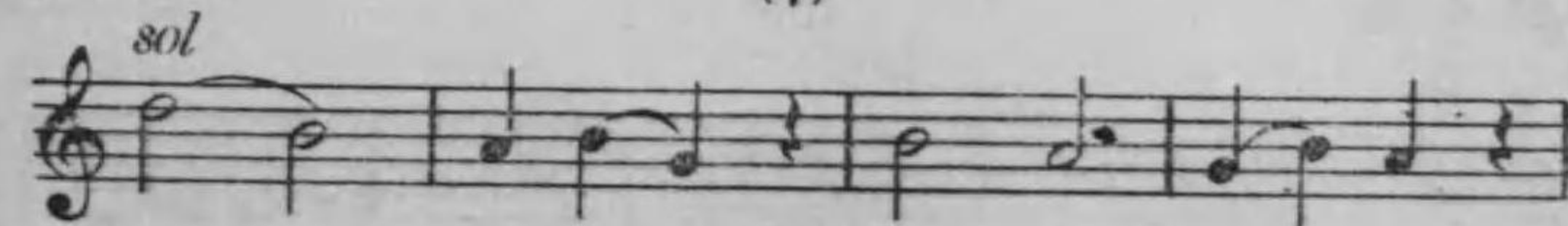
あるから特に注意するこ

と。



第十一遍

(7)



(8)



□ 楽器の調子

(7) ト調

(8) 変ホ調

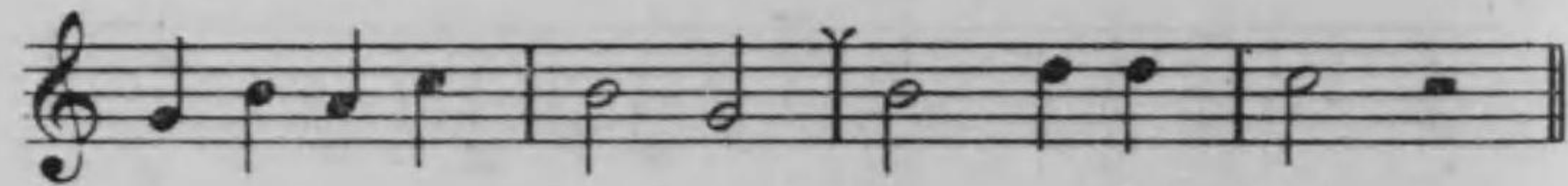
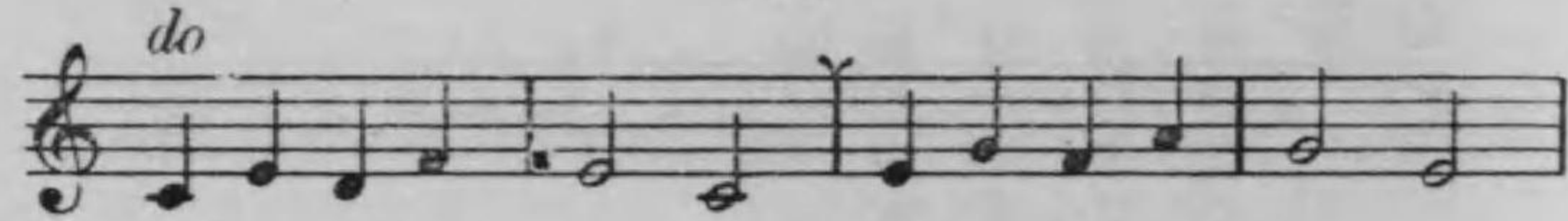
□ 新出三度

ミード

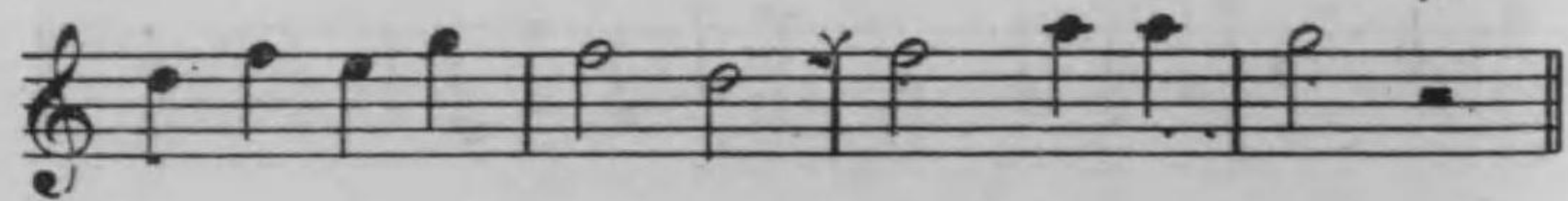
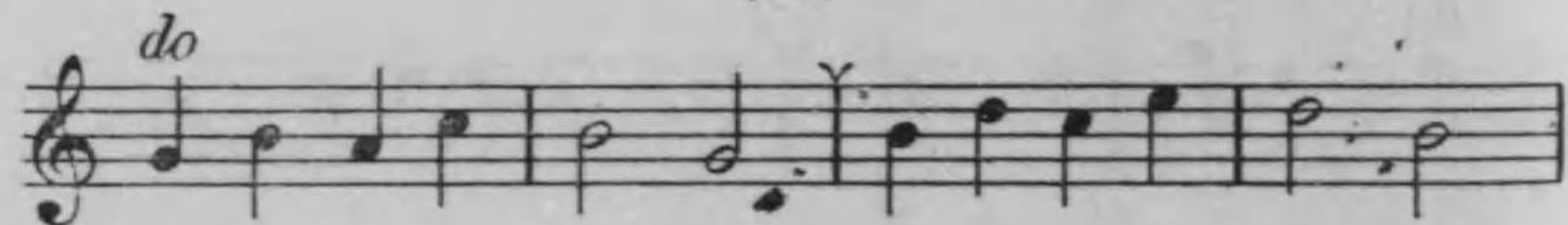
ドーラ

第十四連

(13)



(14)



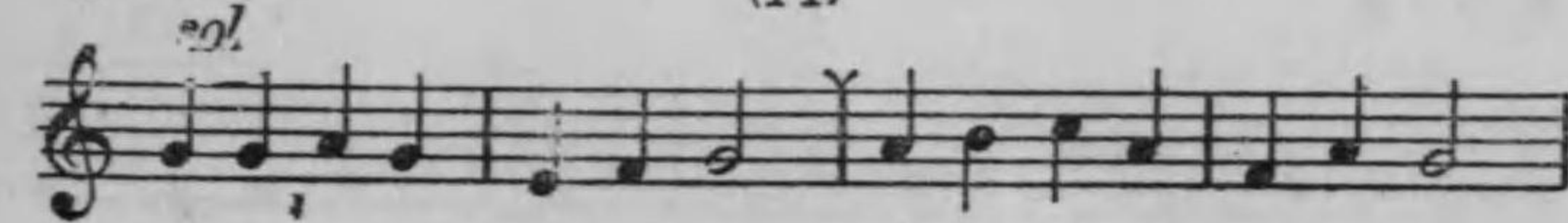
□ 樂器の調子

(13) ハ 調

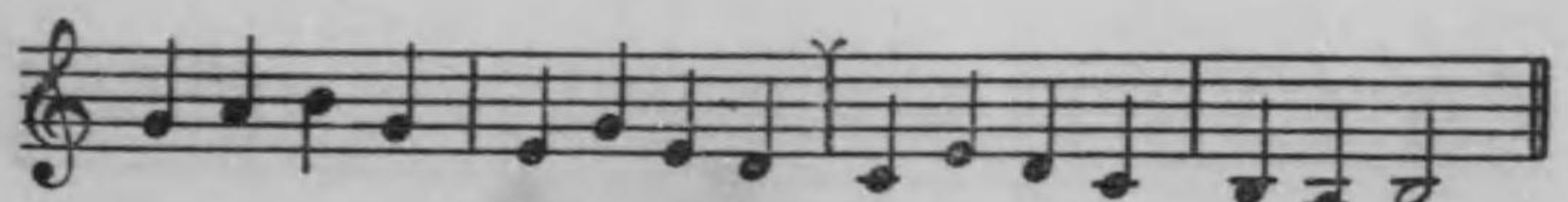
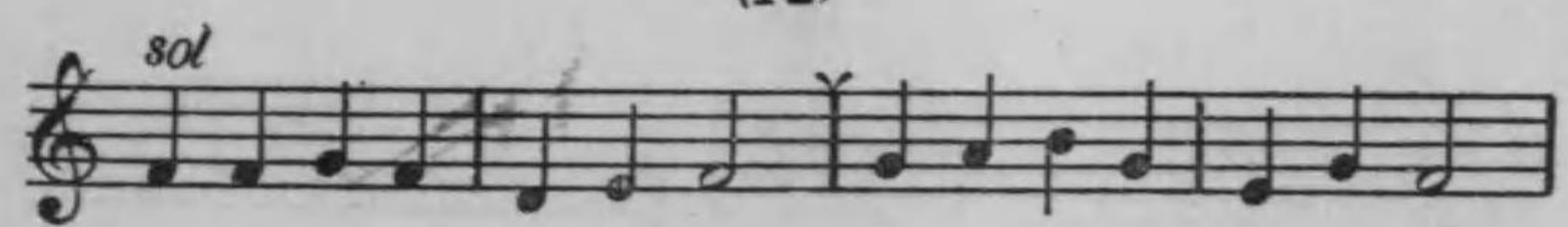
(14) ト調なれども、兒童の聲區外の高調ある故實際伴奏する時は此ト調の樂譜を見せ、ハ調か、ニ調かにて奏させる。

第十三連

(11)



(12)



□ 樂器の調子

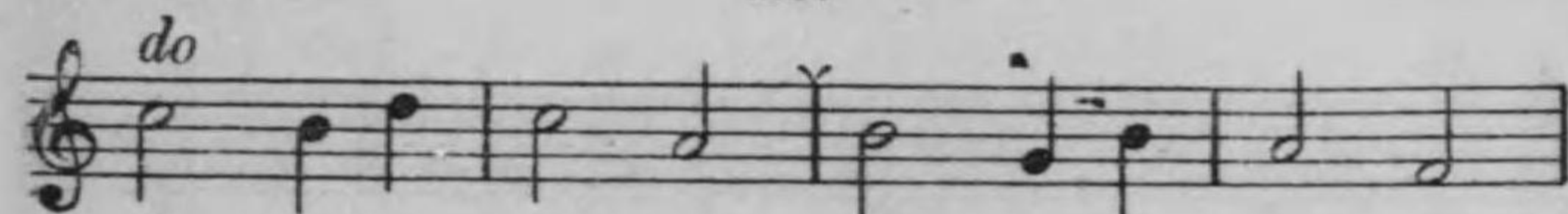
(11) ハ 調

(12) 變ロ 調

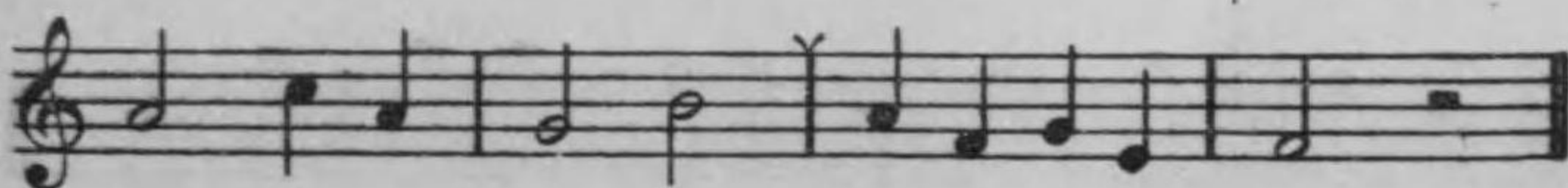
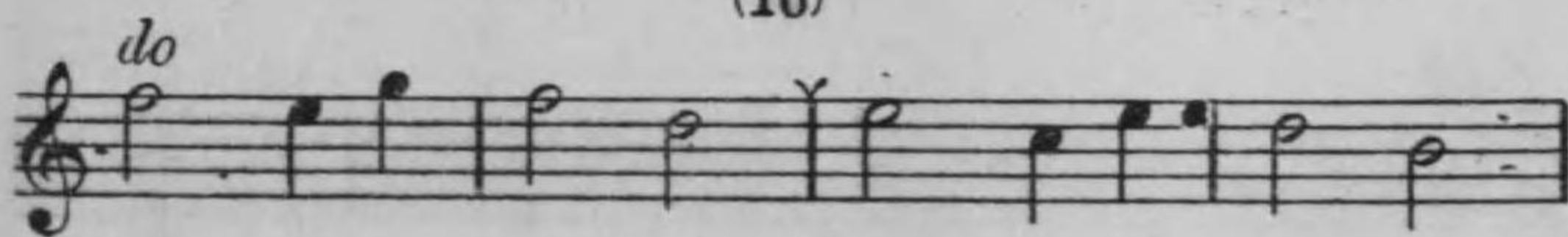
□ 新出三度音程はないが、三度が連發して居る爲に稍々困難であらう。大に練習して正確を期することを肝要である。

第十五週

(15)



(16)



□ 樂器の調子

(15) ハ調

(16) ハ調の樂譜なれども
やはりハ調にて奏す
るがよい。

△ 復習

□ 備考

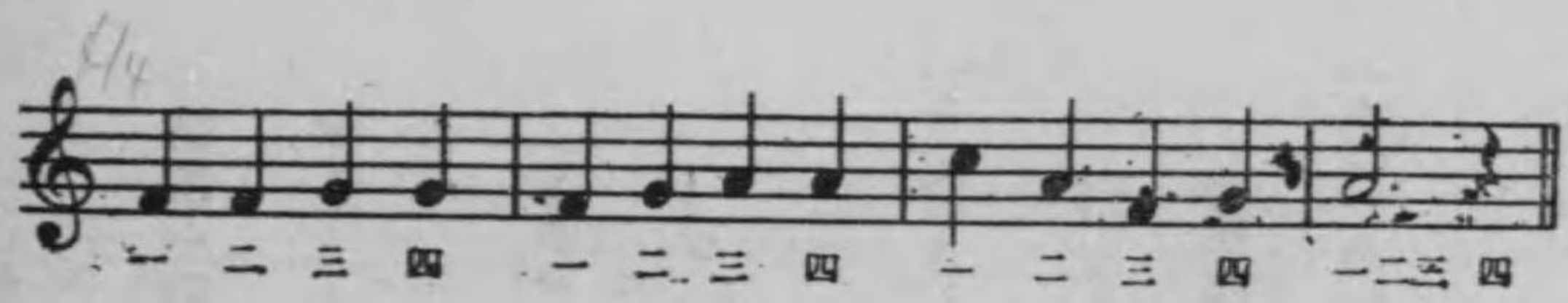
(1) 讀譜及び音程の材料は此の外に幾つでも作ることが
出来るであらう。尤も旋律的に作る事を忘れぬ様に
せねばならぬ。

(2) 樂譜の書取りは最早練習する必要がない。

第二節 第二學期細案

期	週	教授事項並に教授方案	教授上の注意
二	二	<p>□拍子記號の教授 △實際案</p> <p>(1) 皆さん、此處に書いてある音符には幾通りの種類がありますか。</p> <p>(2) さう、三通りありますね、何々でせうか。</p> <p>四分音符 一拍 附點二分音符 三拍 四分休止符 一拍</p> <p>(3) 第一小節には四分音符が幾つありますか。</p> <p>第二小節には 答 四ツ 四ツ</p>	<p>第一週は前學期の復習や、今學期の準備等の爲に費されること、思つて、特に二週より始む。</p> <p>□樂器はへ調で奏すること</p>

<p>第三小節には 四ツ</p> <p>第四小節はちつと變つた音符がありますが、合計何拍でありますか(四拍)</p> <p>四拍</p> <p>(5) 皆さん、一緒に拍手して下さい。先生が歌つて見ます。あなた方もずつと歌へれば合して歌つて下さい。(誘導的に)</p> <p>(6) 一小節を幾つづつに拍つたらよいでせうか。………</p> <p>答 四ツ</p>	<p>第一問を基音ドにすることのみ注意。</p> <p>他はあまり問題にしないで、すぐ視唱せしめ度い。</p>
--	---



(7) 今度は一二三四と呼んで手を打つて下さい(教師バートンで指示)……(数回練習)。

(8) 皆さん、こんな具合に一小節が四拍づつの曲の時には之を四拍子と言ひますそして高音部記號の次に4/4又はCを書くのであります。だから高音部記號の次に此の記號がありましたら、すぐに四拍子の曲だと氣が附かなくてはなりません。

單に拍子を読むのみならず旋律的に呼節し得るまでに進んだならば一層可あである併しそれは本時の主目的ではない。
尋一教材の人形である。

三

△四分の三拍子の教授

實際案

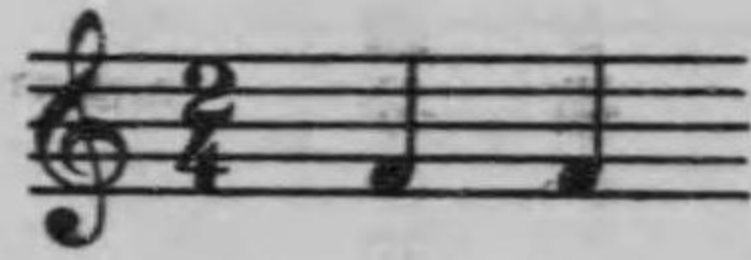


(1) 皆さん、此處にある曲は何拍子でありませうか……

答三拍子

(2) さうよく分りました。感心々々。何れの小節も皆三拍づつでありますから、三拍子と言ふのであります。

三拍子は四分の三拍子に限りませんが、子供に教へる順序としてこんな簡單な言ひ方にした。



△四分の二拍子の教授

實際案

(1)各小節が二拍づつになつて居りますから、此の曲は二拍子であります。

(2)二拍子の時には高音部記號の次に2/4と書きます。

尋一教材の『日丸の旗』の一節でありますから時間が許すなら大いに歌はして下さい。

二拍子は四分の二拍子に限りませんが、順序上こんな言ひ方にしたのである。



(3)一緒に拍手しながら、一二三と呼節して下さい。(教師バトンで順次に指示)

(4)三拍子の時には高音部記號の次に3/4と書きます。

時間の都合では視唱させ度い。

樂器はへ調のこと。

(1) $\frac{4}{4}$ sol

(2) do $\frac{3}{4}$

(3) sol $\frac{3}{4}$

(4) mi $\frac{3}{4}$

(5) do $\frac{4}{4}$

高音部記號の次に拍子記號
を書けるだけ十分にあげて
おくこと。

△練習

四分の二、四分の三、四分の四の各樂譜を示して適當な拍子記號を描かしめ、訂正指導するを以て本時の目的とする。

實際案

(1) 今迄四時間ほどかゝつて拍子のことについて習つて來ましたから、皆さんは大抵分つた事と思ひます。で、今日はそこに配つてある樂譜の高音部記號の次へ適當な拍子記號を入れてもらひたいと思ひます。

(2) 問題

問題は前以て謄寫版で印刷して置くこと。

□音程並に讀譜練習(音程四度)

△實際案

(A)第一段(一番の教授)

- (1)皆さん、此の曲は何拍子でありますか。(答四拍子)
- (2)なせ四拍子と言ふことが分りますか。

答 (甲)四分音符を一拍とすれば一小節が四つづつ
でありますから。

(乙)Cと書いてあるから。

(3)ごちらもよい答です、皆さんは兩方知つて居なければなりません。

(4)今日は第二線をソにして讀んでもらひませう。
(バートンで指示しつゝ全體を數回讀ませる)

□讀譜練習の方法は従前の通り。

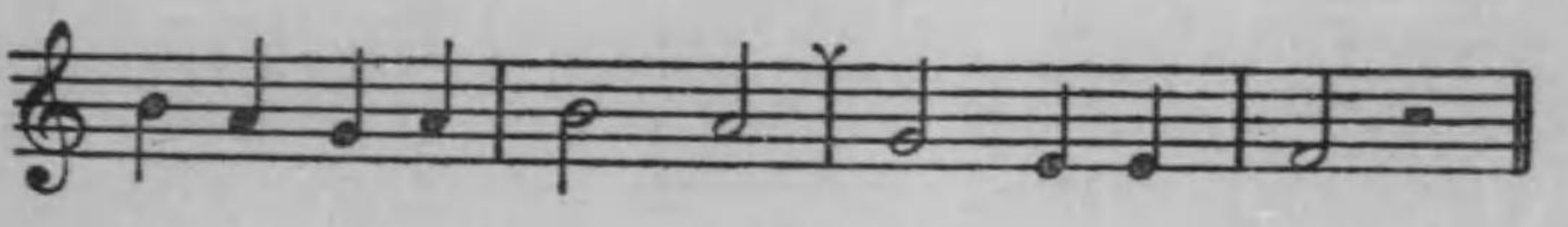
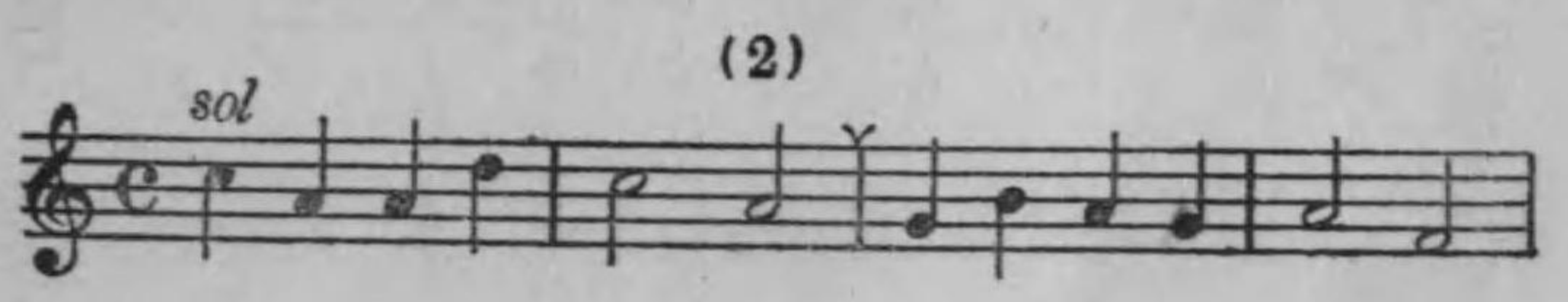
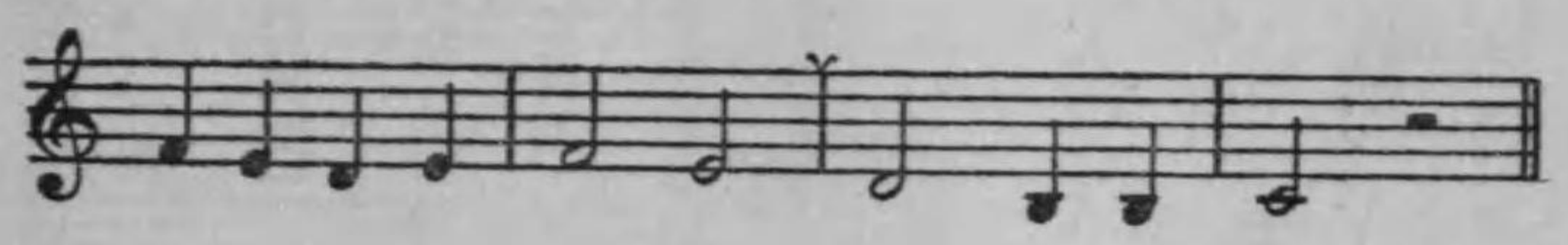
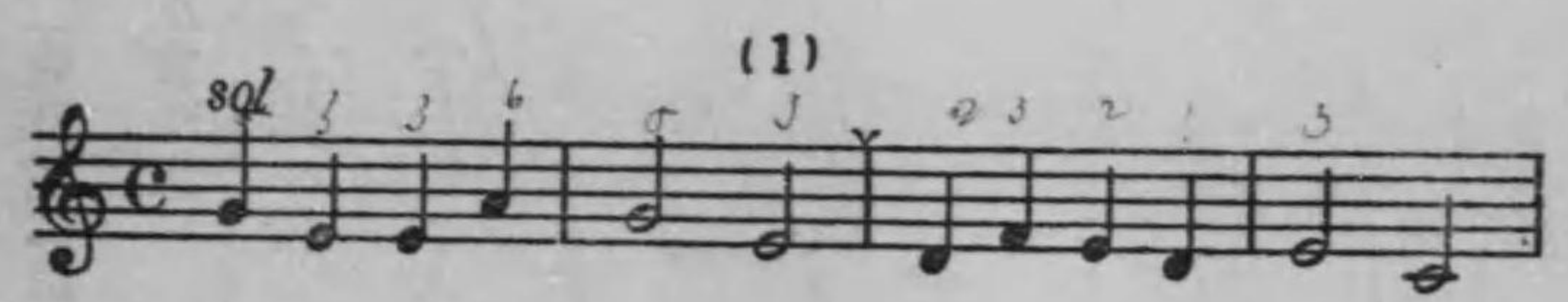
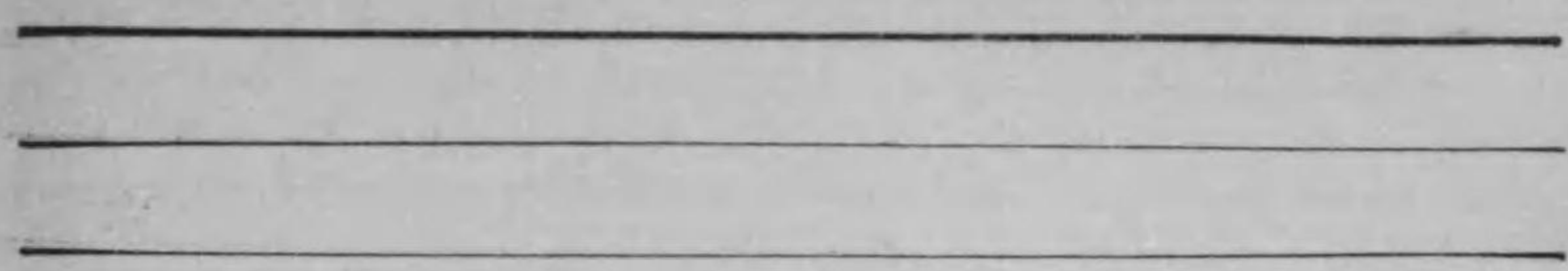
(6)

(7)

(8)

(9)

(10)



□ 樂器の調子

(1) ……ハ調の樂譜なれ

どへ調にて

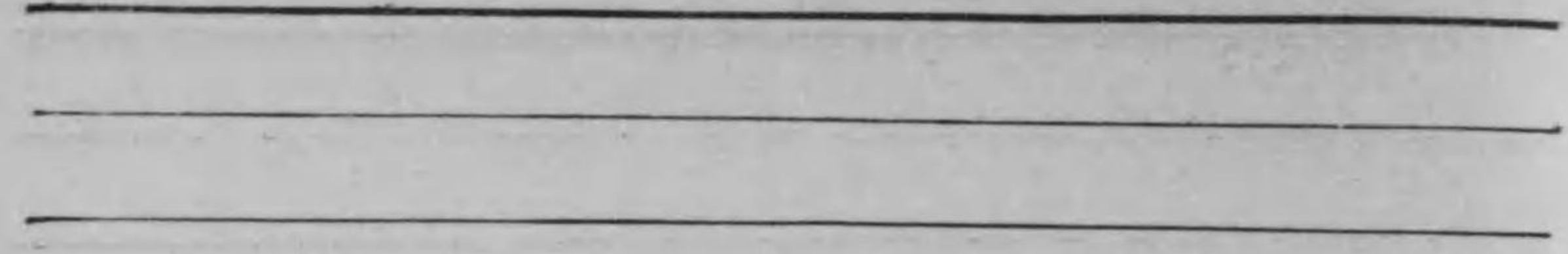
(2) ……へ調

□ 新出音程

ミーラ

ドーファ

□ 第一段より第二段に移る
四度音程に注意する事



(5) 今度は拍子について調べて見ませう。

これは何拍ですか

一 拍

これは

一 拍

これは

一 拍

これは

二 拍

……

……

……

(6) 今度拍子と高低とを考へつゝ小さい聲で歌つてご
らんなさい。

…… 數回練習 ……

音程上の難點を自覺せしめつゝ……

□ 一々バートンにて指示し

て拍數を答へさする事、

機械的反射的に答へる弊

を除く爲に超越的取扱を

するもよい。

□ 教師は羅針盤となればそ

れでよい。基音のソを與

へ兒童が歌ひ出したら、

教師はなるべく歌はない

様にする。つまつた時、

(7) 今度は先生が歌ひますから、手を拍ちつゝ聴いて居て下さい。……(階名にて)

も一度先生が拍子を唱へて歌ひますよ(拍子を旋律的に歌ひ出して兒童に拍子を正しく悟らせる。)

(8) 練習 さあ皆さん一緒に立つて、ピアノに合わせて歌ひませう。

……………(反覆)

(B) 第二段(二番の教授)

(1) 二番は第三間をソにして讀んでもらひませう。

これは	?	ソ
これは	?	ミ
これは	?	ミ
これは	?	ラ
……………		

(2) 拍子はやはり前の通りで譜表の位置が變つただけであります。一緒に譜で歌つて見て下さい。(教師ピアノ伴奏)

(3) 大變お上手に出来ました、感心であります。今度は先生と一緒に歌ひませう。

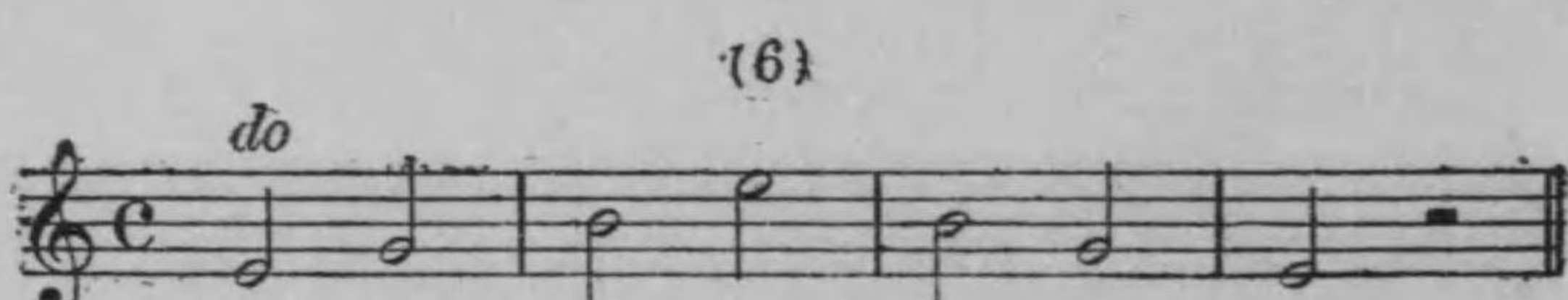
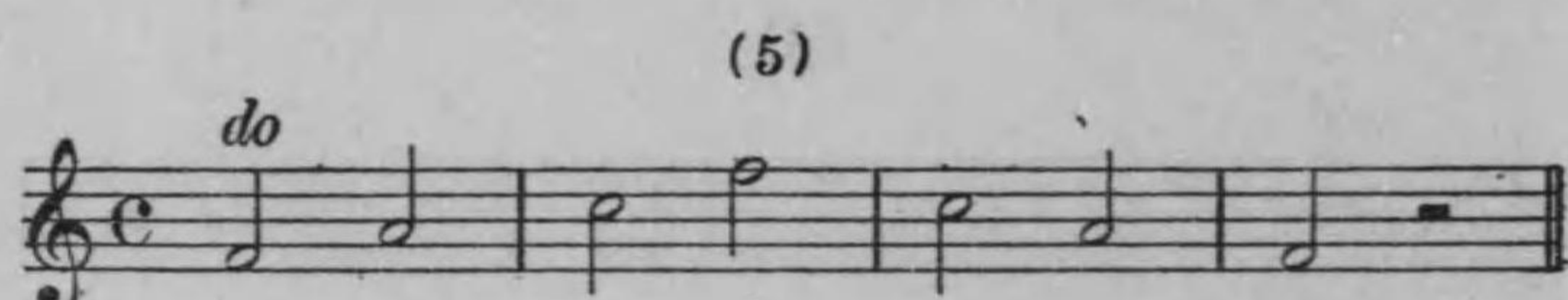
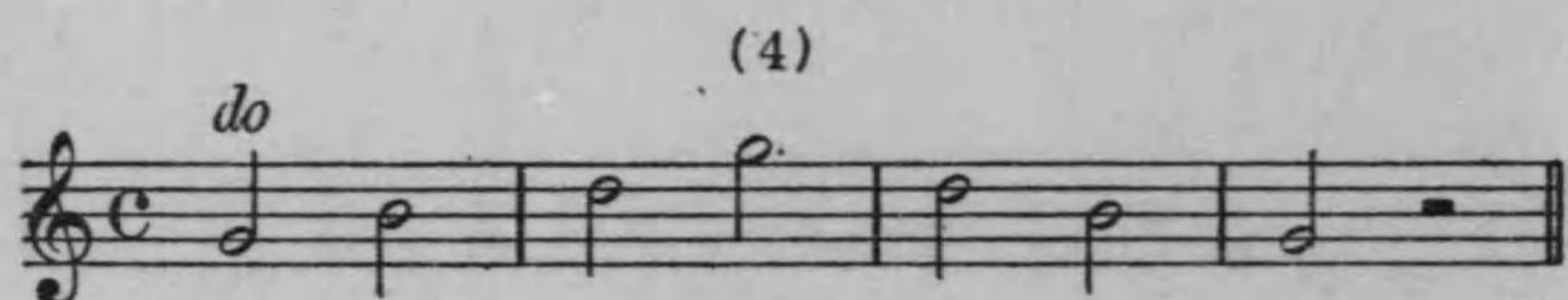
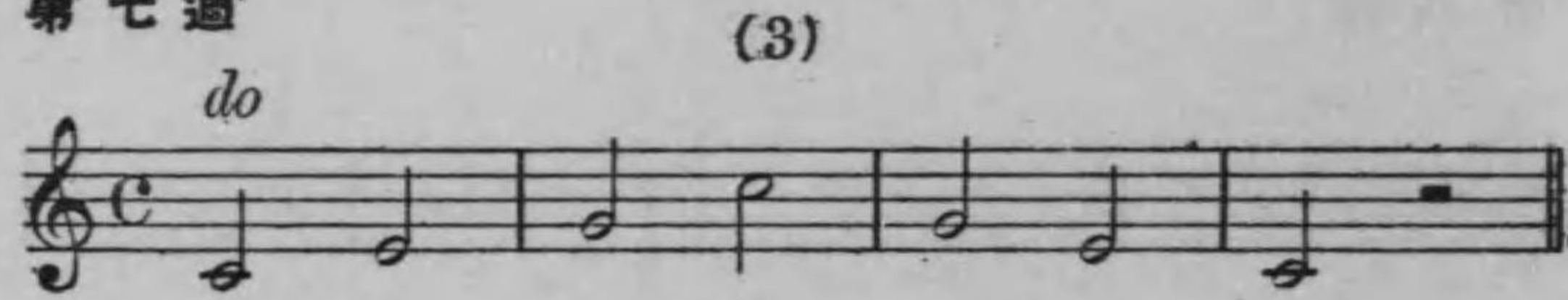
…………… 數回練習

音程の間違つた時其處を連絡してやればそれで十分である。かくて共通の難點を兒童に悟らしめなくてはならぬ。

□ 四度音程の初歩だから余程念入りに取扱ふ事(但し長くとも二十分以内)

□ 模倣的唱歌教授は時代遅れだ。法令に示す如く平易なる歌曲を歌ひ得る能力をつくり上げる爲にはどこ迄も誘導的であり補導的でなくてはならぬ。歌へないだらうと豫測す

第七適



□樂器の調子

(3)……ハ調にて

(4)……ト調なれどハカニ調にて

(5)……ヘ調なれどニカ變ホかにて

(6)……變ホ調にて

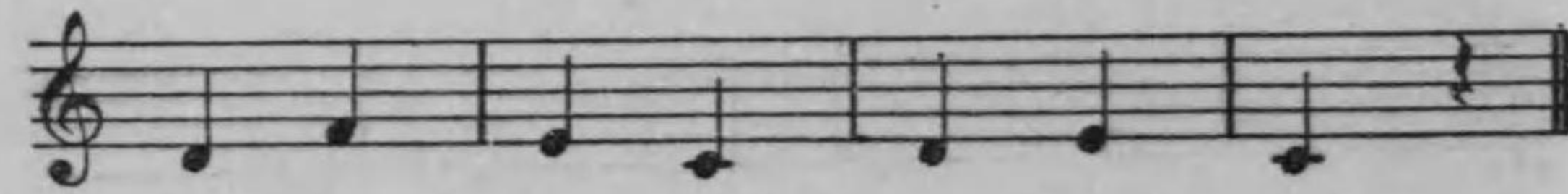
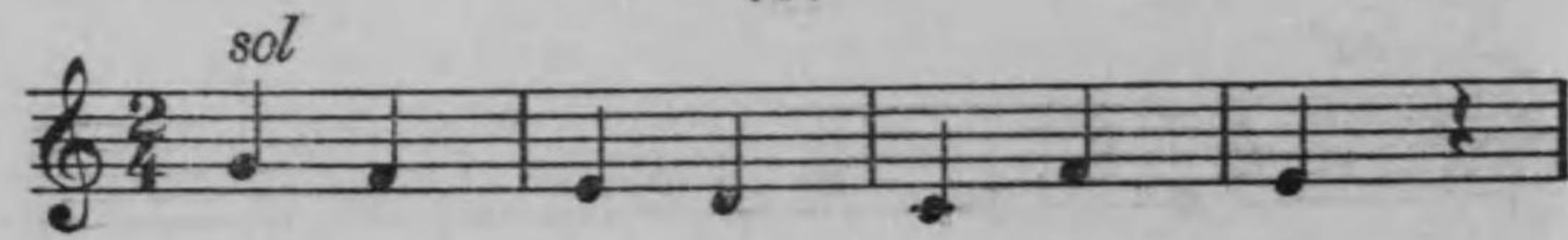
□新出四度音程
ソ——ド
ソ——ド
□本教材は比較的平易であるから前時の復習をも行ふこと。

(4)皆さんは譜では大變よく歌へる様になりましたから譜を見て高さや長さを考へつゝラと言ふ聲で歌つて見て下さい。
……………(曲節的歌謠)……………練習
□備考
(以下音程練習の取扱法之に準ず)

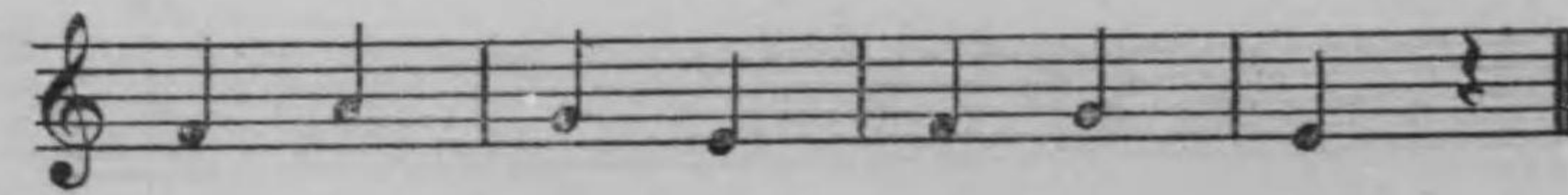
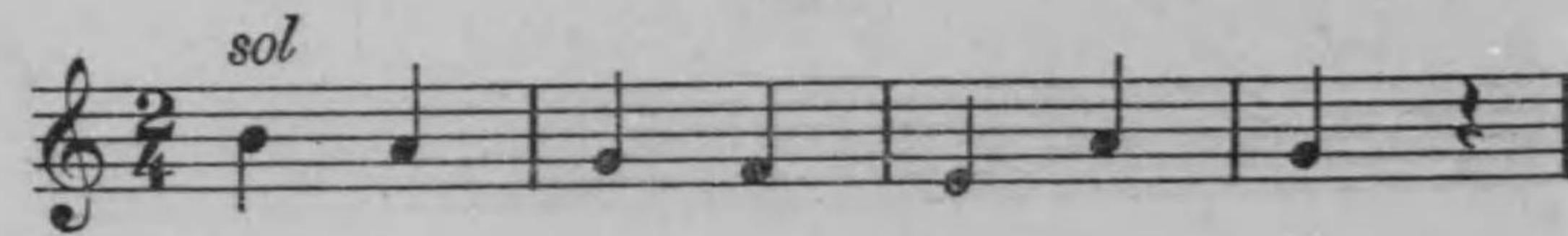
る教師心を捨てなくてはならぬ。つまつたらつなぎ、調子のはづれたら矯し、運よく終まで兒童が自力で満足に歌へたら更に幸福だ。

第九遍

(9)



(10)



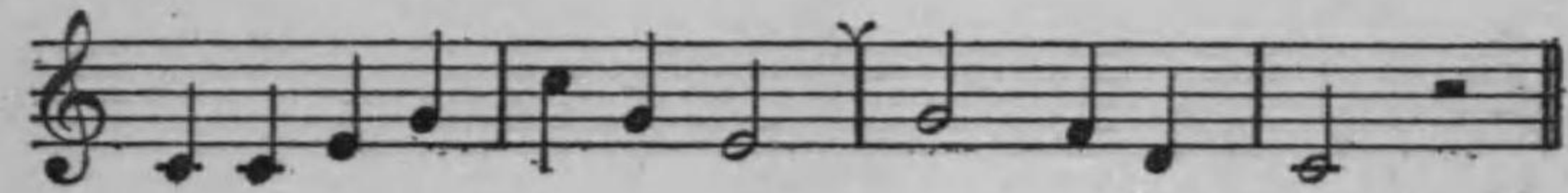
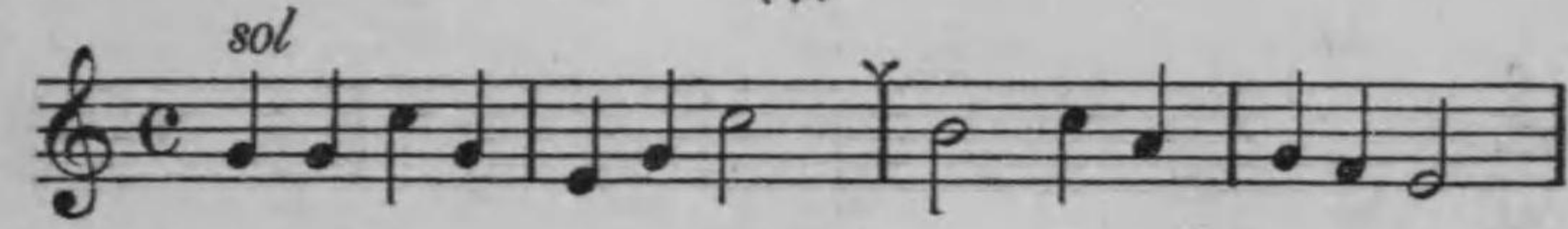
□ 樂器の調子

(9) ……ハ 調
(10) ……ホ 調

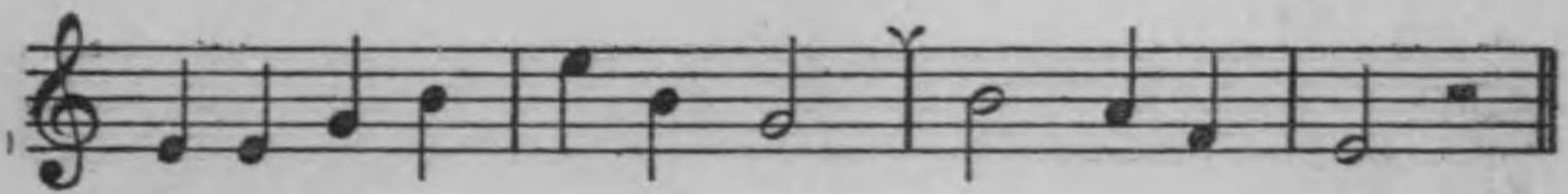
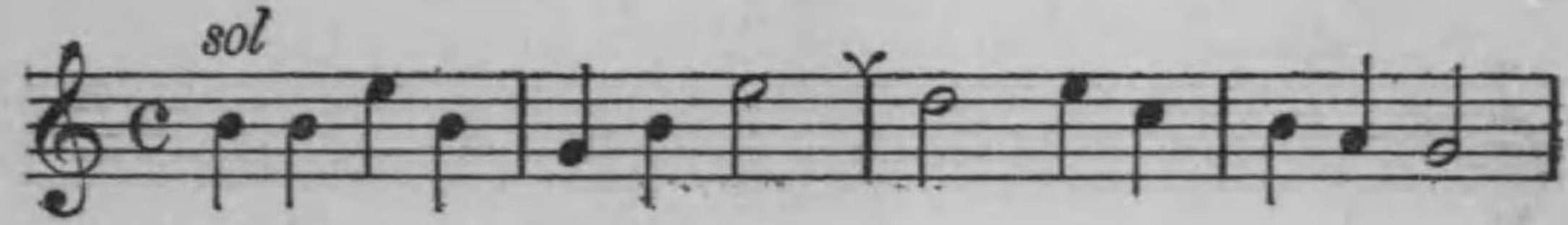
□ 本時は比較的平易な材料であるから時間の余裕があつたら前時間の教材を復習すること。

第八遍

(7)

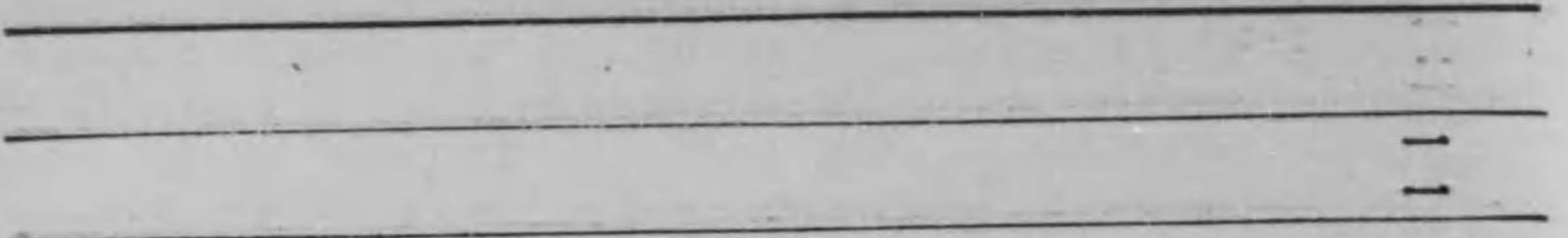


(8)



□ 樂器の調子

(7) ……ハ 調
(8) ……變ホ調

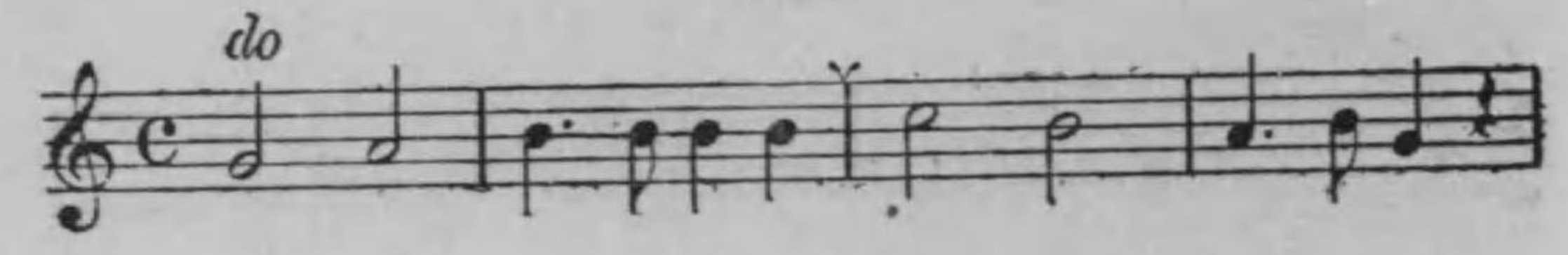


第十一遍

(13)



(14)

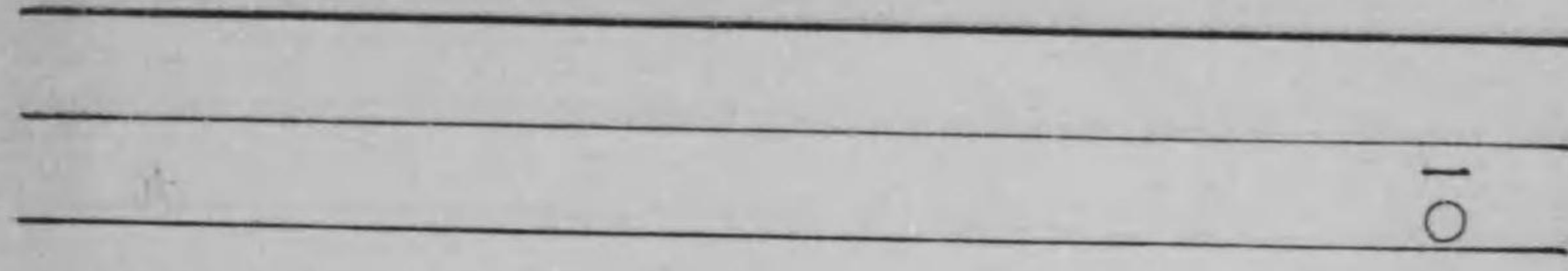


□ 樂器の調子

(13) …… ホ 調

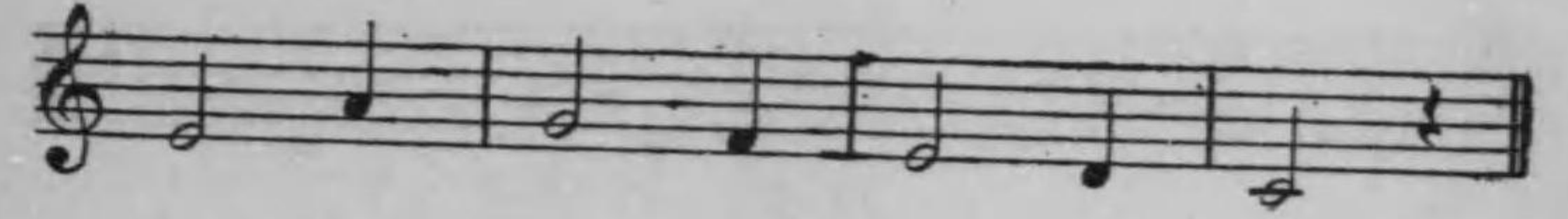
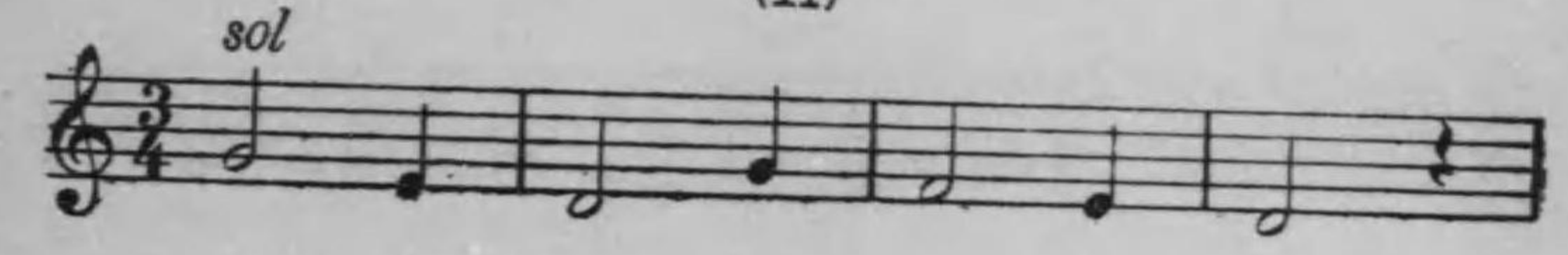
(14) …… ト 調

□ 附點音符の歌ひ方に特に注意すること。

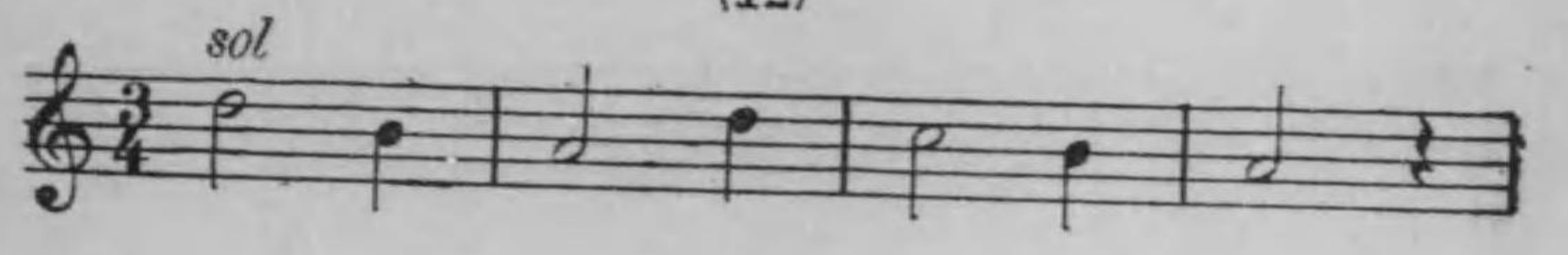


第十遍

(11)



(12)



□ 樂器の調子

(11) …… ハ 調

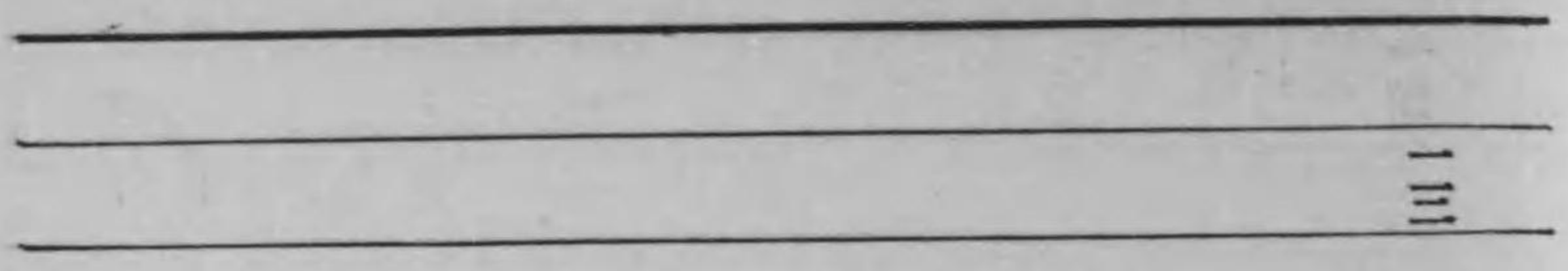
(12) …… ト 調

□ 新出四度音程

レ—ツ

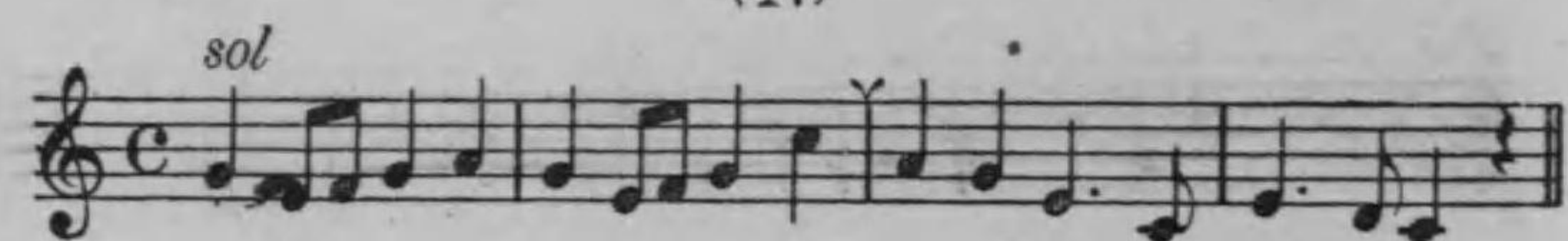
ミ—ラ

□ 三拍子の強弱を考へて歌はしむべし。

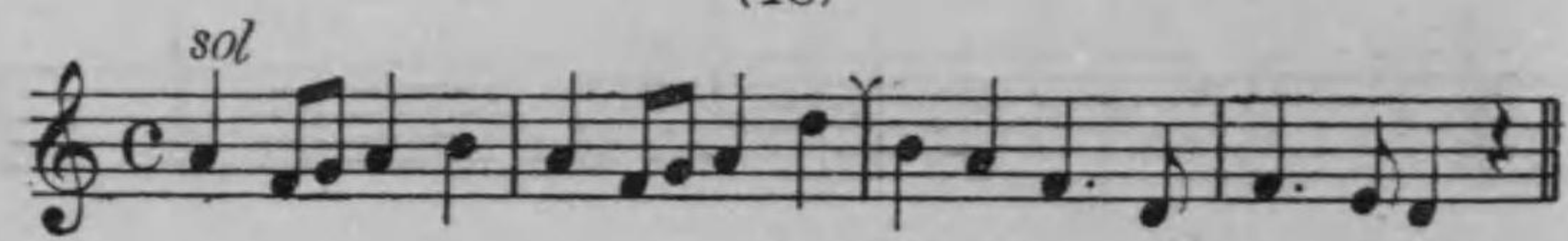


第十三遍

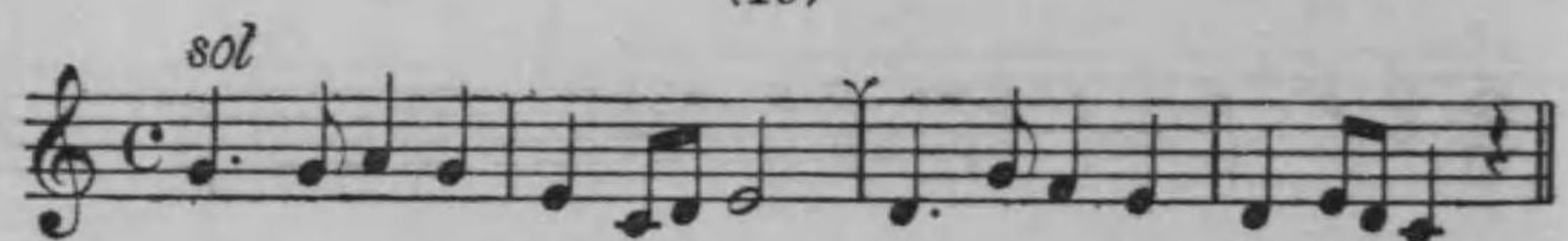
(17)



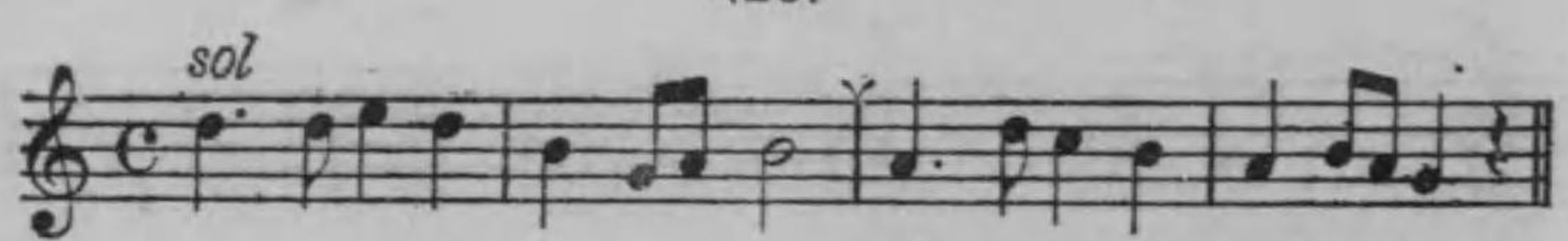
(18)



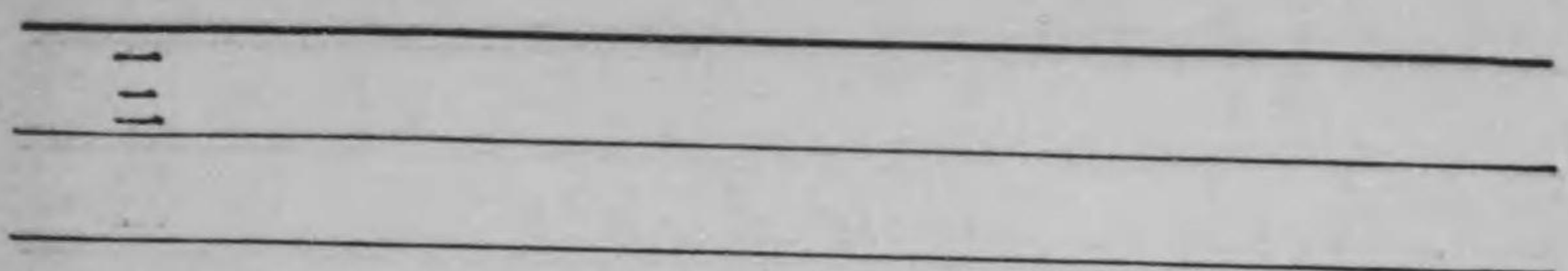
(19)



(20)

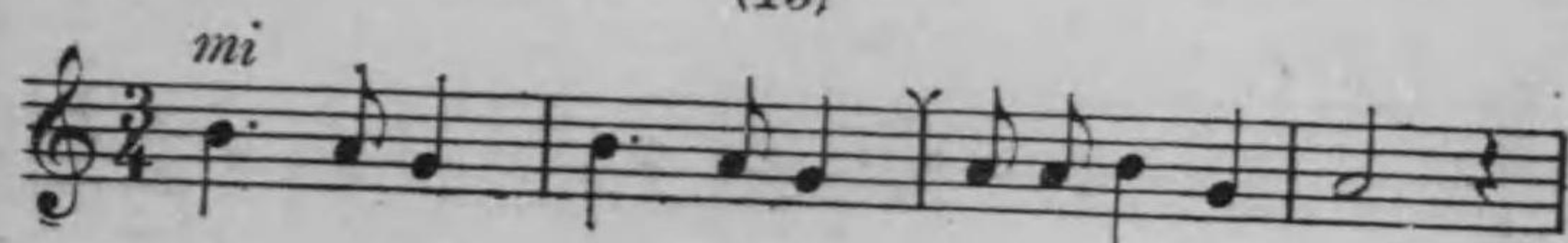


	□	(20)	(19)	(18)	(17)	□
「富士山より」	「春が来たより」	ト	ハ	ニ	ハ	楽器の調子
(19)	(17)	調	調	調	調	
(20)	(18)					

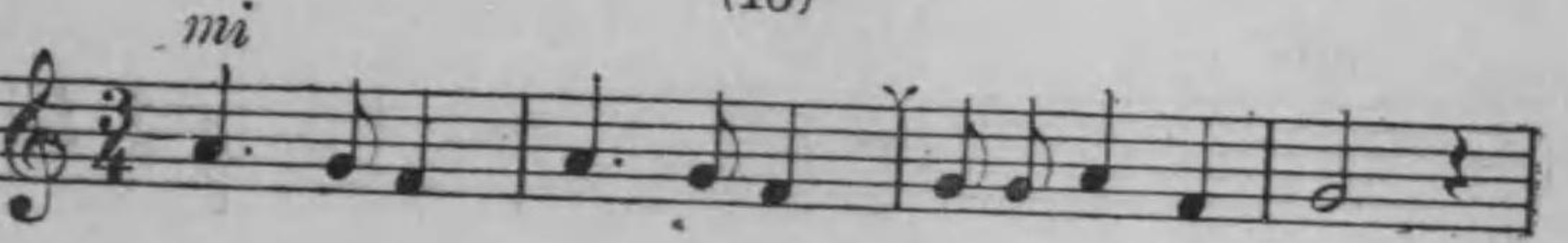


第十二遍

(15)

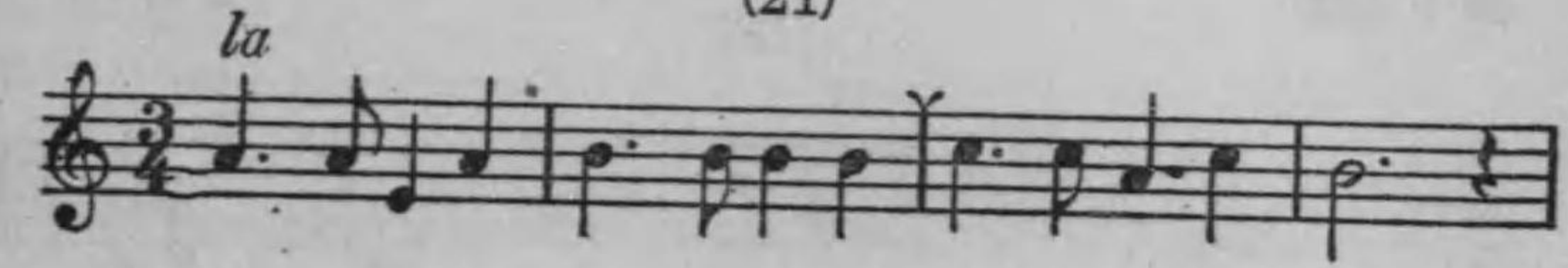


(16)

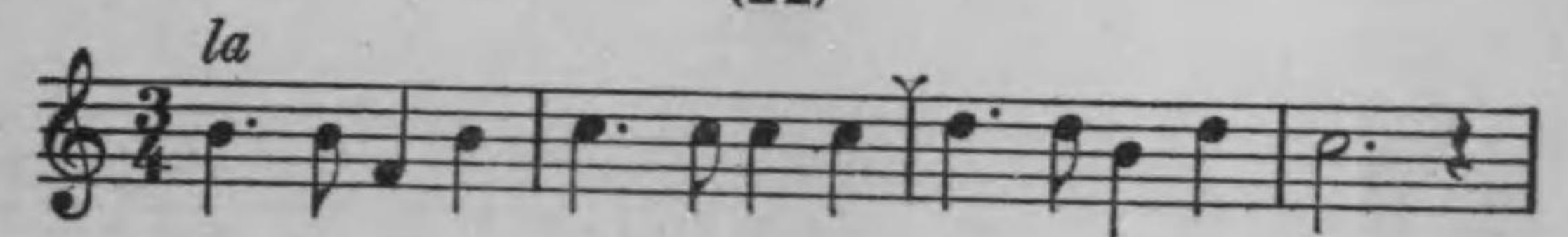


	□	(16)	(15)	□
	第二段第二小節より第三小節に至る四度音程に注意。(新出音程なり)	ト	ハ	楽器の調子
		調	調	

第十四遍 (21)



(22)



□ 樂器の調子

(21) ……イ 調短旋法

(22) ……ロ 調短旋法なれど

前と同調にて

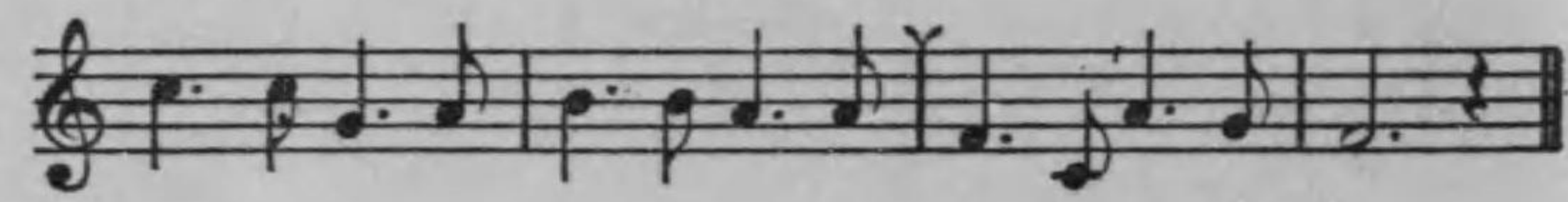
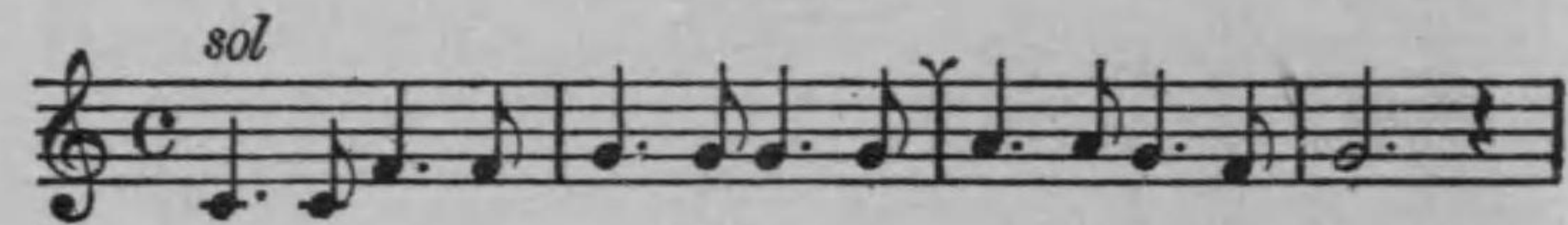
□ 「橋中佐より」 (21) (22)

□ 新出音程

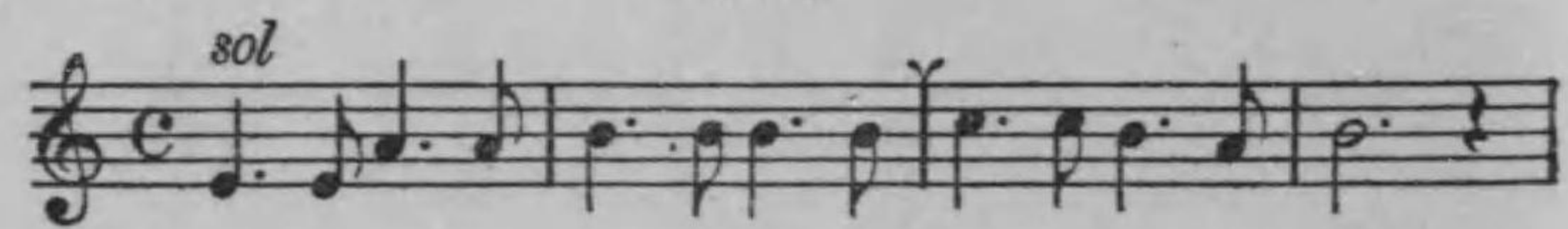
スイ—・ミ

第一段より第二段に移る
場合の音程

第十五遍 (23)



(24)



□ 樂器の調子

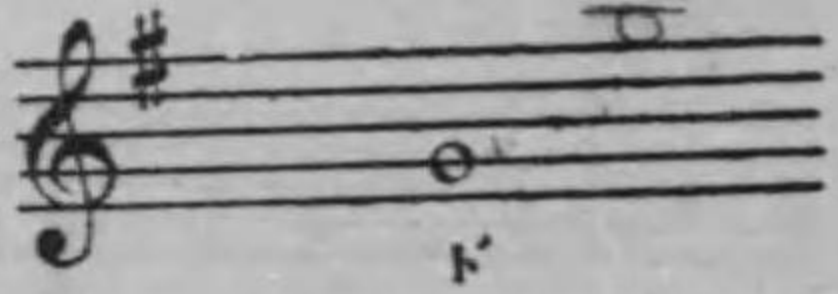
(23) ……へ 調

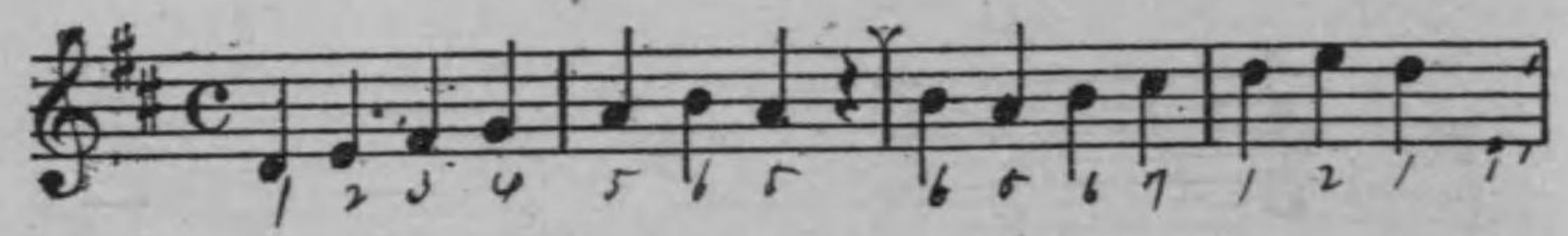
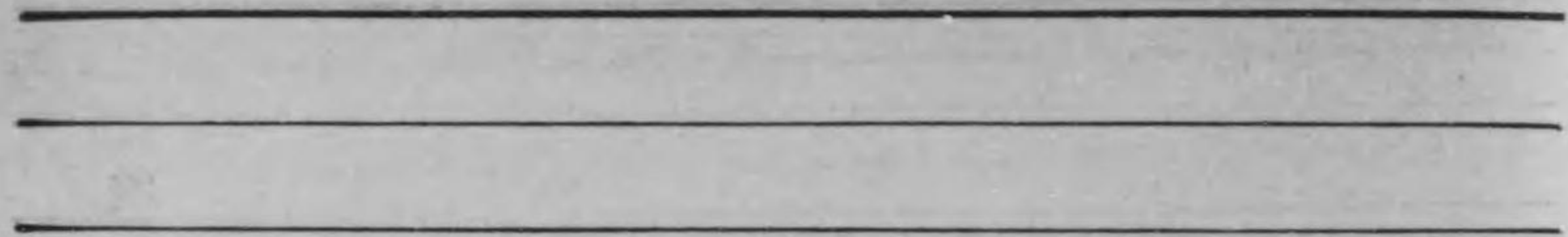
(24) ……イ 調

△復習

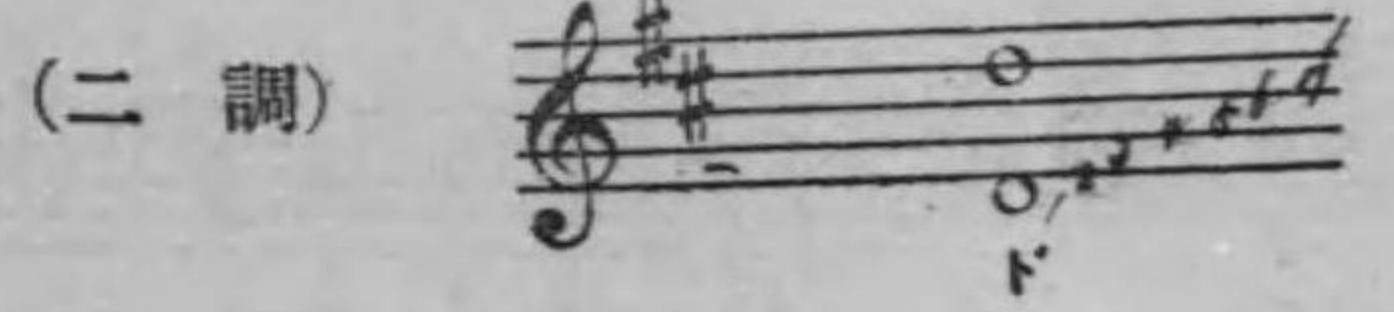
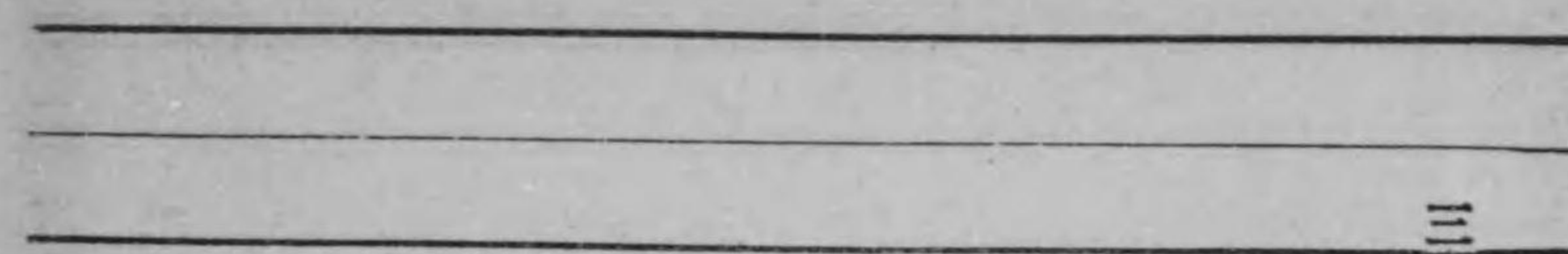
四度の音程練習曲の中未熟な曲を撰擇して適當な方法によりて復習すること。

第三節 第二學期細案

期 週	教 授 事 項 並 に 教 授 方 案	教 授 上 の 注 意
三 一	<p>□調子記號の教授 △ト調の教授 實際案</p>  <p>(ト 調)</p> <p>(1) 此處にある様に高音部記號の次、第五線に#の記號がある時には第二線がDになるのでありまして之をト調と申します。</p> <p>(2) 皆さん練習帳を出して#を書いて見ませう。</p> <p> # の順序です、そして必ず第五線にお書きなさい。(机間巡視訂正のこと)</p>	<p># の横の線は稍斜に且つ少し太く</p> <p># は不可</p> <p># は可</p> <p> 縦の二線の幅は成るべく狭く</p>

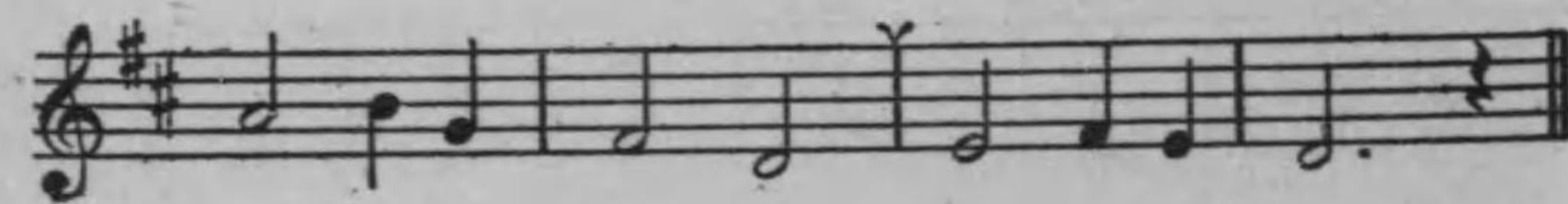
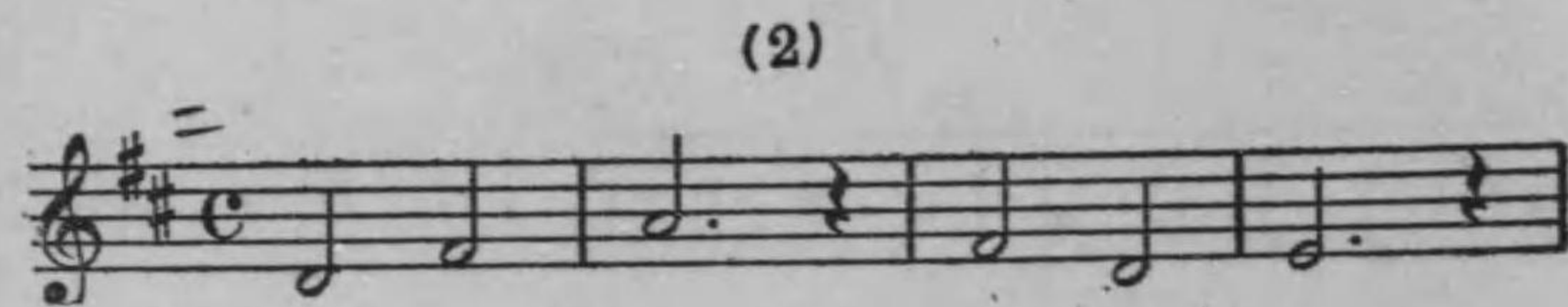
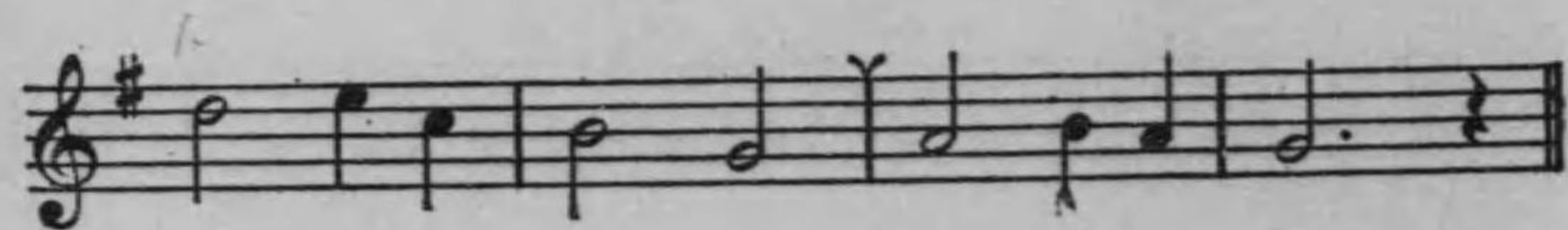
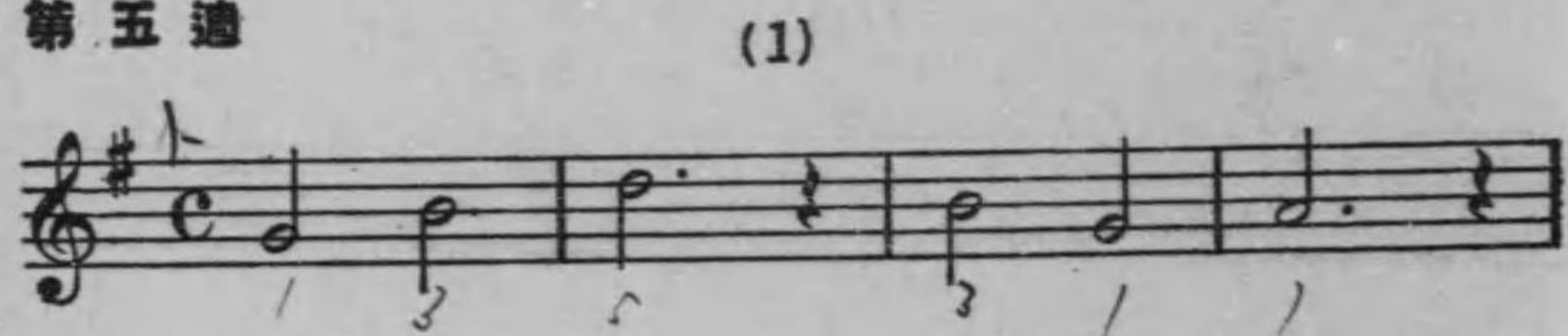


- (4) 此の曲は何拍子でありますか……(四拍子)
- (5) 拍子と音程を考へ一づゝ小さい聲で歌つてごらんさい……。
- (教師補導)
- (6) さあピアノに合はして歌ひませう。
- (數回練發)

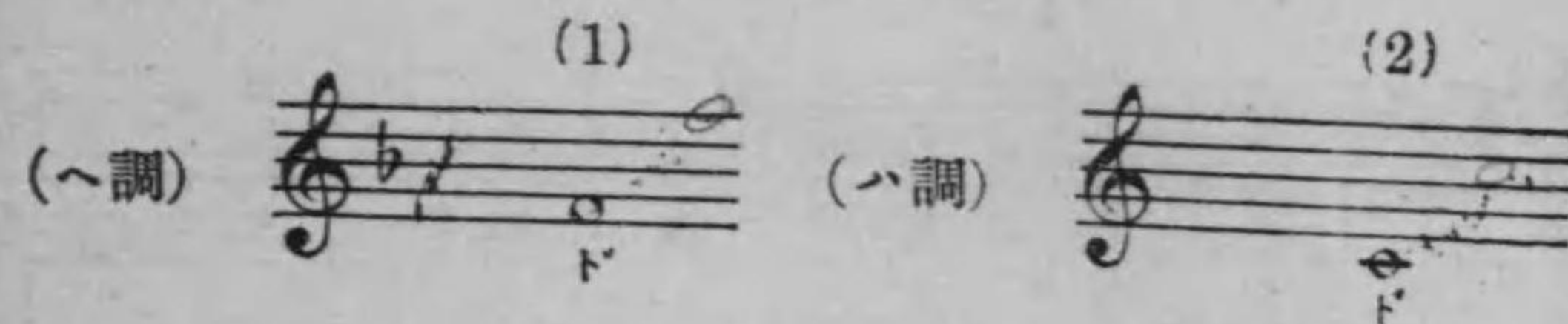


- (二 調)
- △二調の教授
- 實際案
- (1) 此の様に # を第五線と第三間とに置くときは下第一間と第四線とがドになるのであつて之をニ調と申します。
- (2) 練習帳を出して位置を間違へない様に # の記號二ツつけてごらん。
- (3) 今度は此の譜を讀んでもらひませう。
ド、レ、ミ、ファ、ソ、ラ、ソ、
……

第五遍



第一段より第二段に至る四
度音程は此迄二度出では居
るが可成りに注意してほし
い。



△ハ調ハ調の教授

(1) 高音部記號の次、第三線に「リ」がつ
いて居る時は第一間がドでありまして
ハ調と申します。

(2) 高音部記號の次に何も無かつた時は
ハ調であつて下第一線がドでありま
す。

(2) 次の曲を歌つて見ませう。
(練習)

第六遍

(3)



(4)



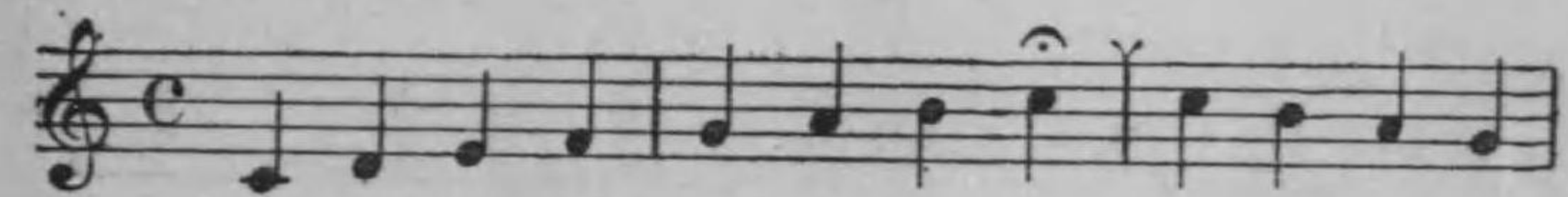
□ 既授曲の復習

第三小節の四度音程は既授音程ではあるけれども特に注意すること。

(1)



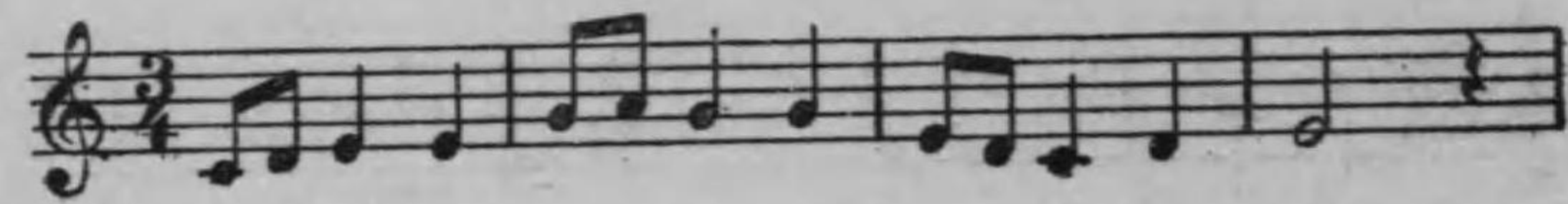
(2)



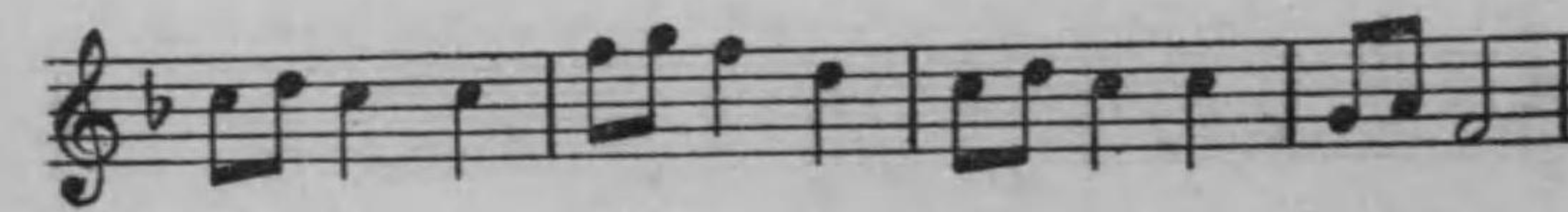
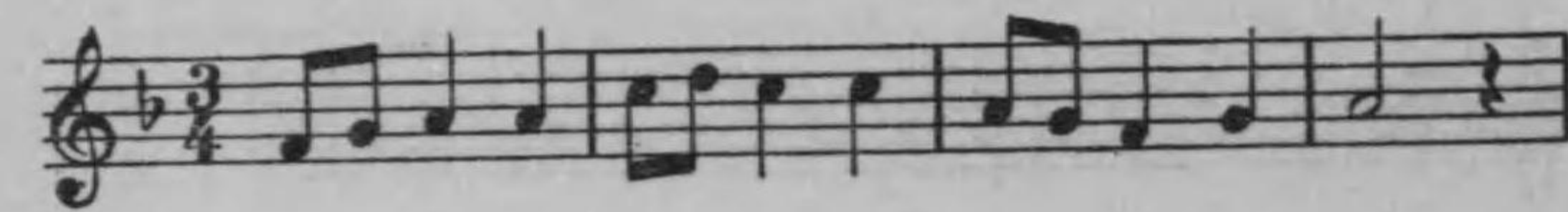
□ 讀譜並に音程(四度)練習 (方法は前に準ず)

第八週

(7)



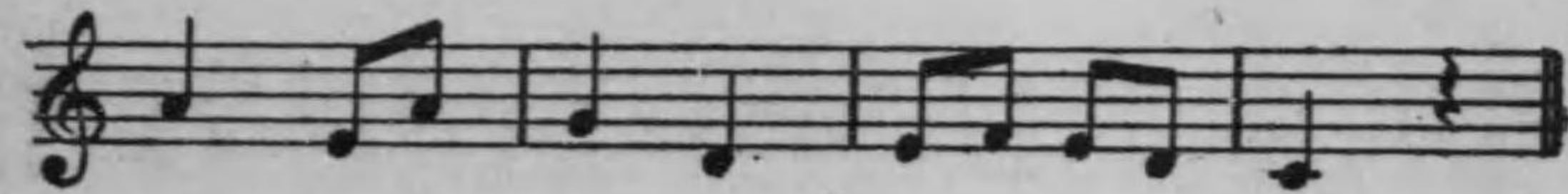
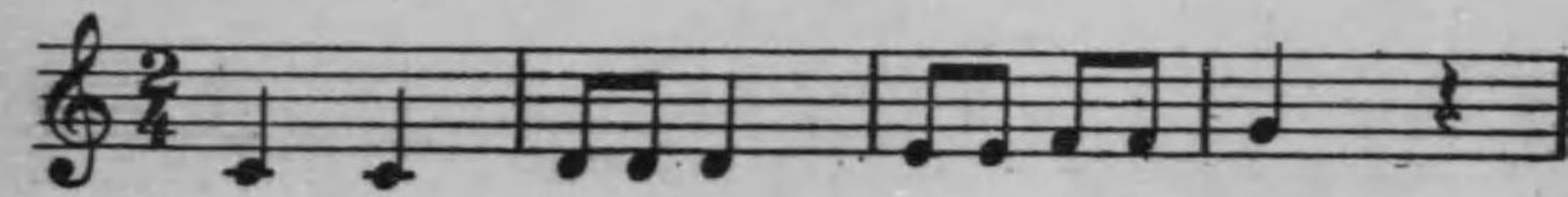
(8)



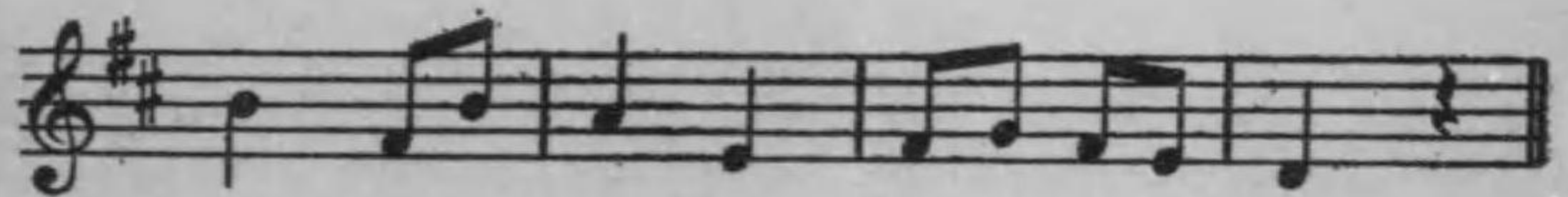
(8) ……奏法は變ホ調位にて
奏すること。

第七週

(5)



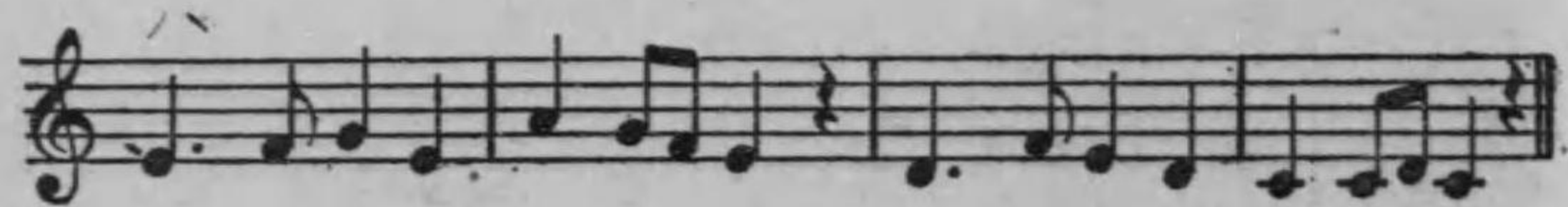
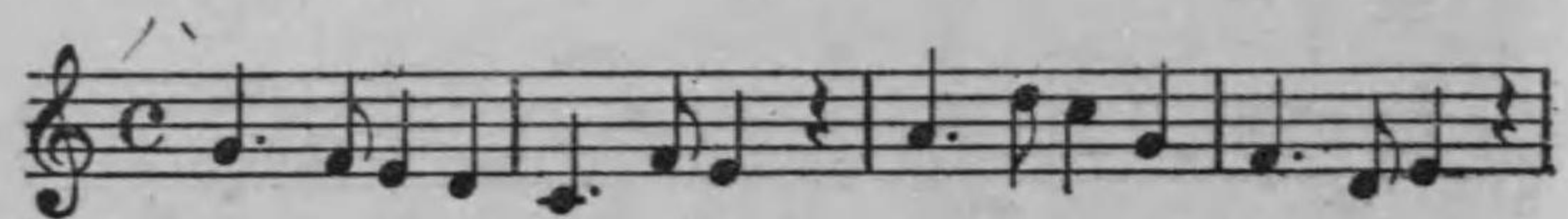
(6)



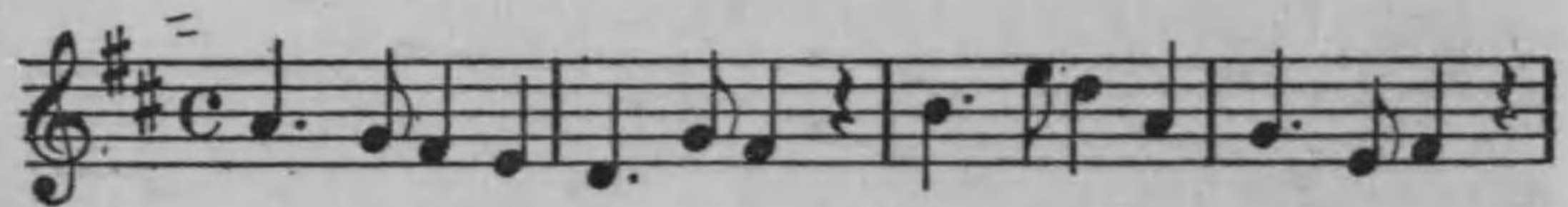
新出四度音程は無いけれど
もラーミとソーレの四度に
留意すること。

第十遍

(11)

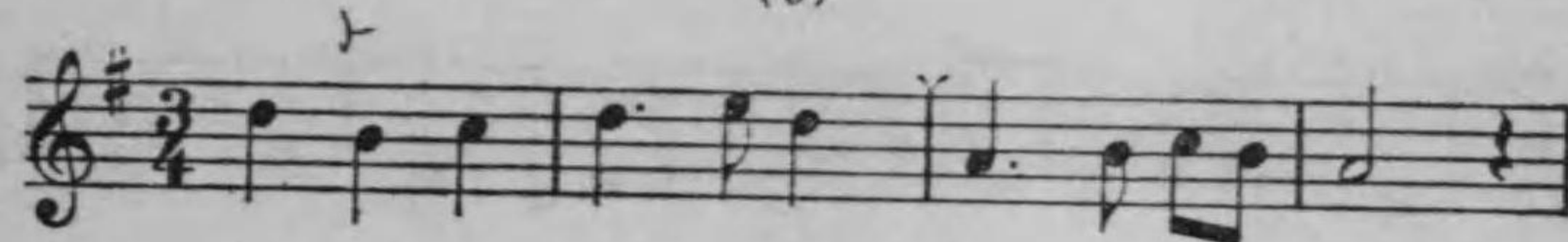


(12)

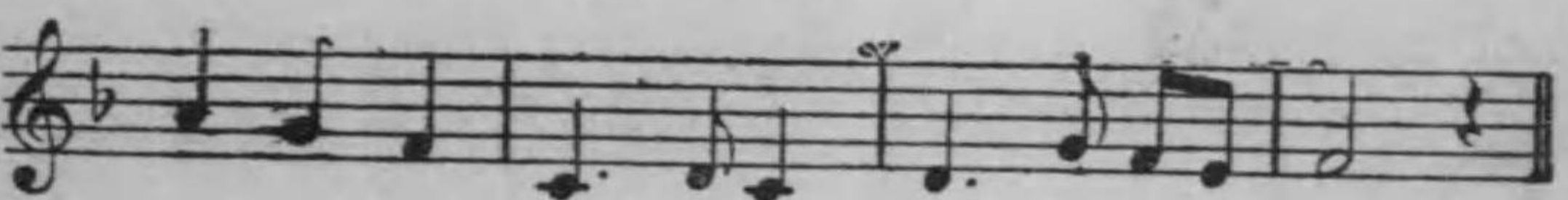
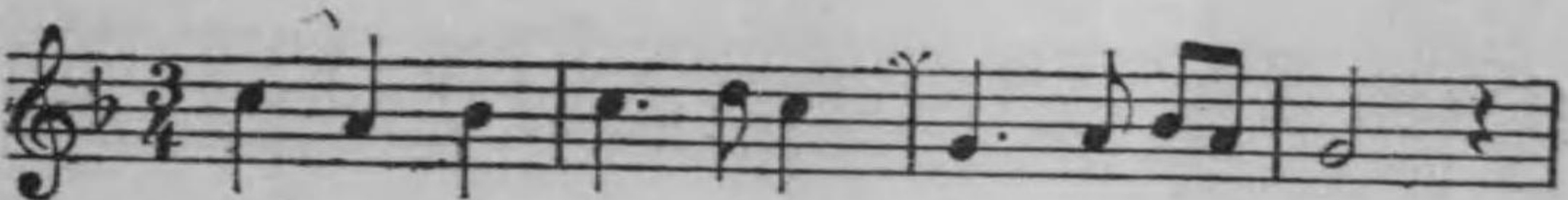


第九遍

(9)



(10)



新出四度音程
ラ—レ

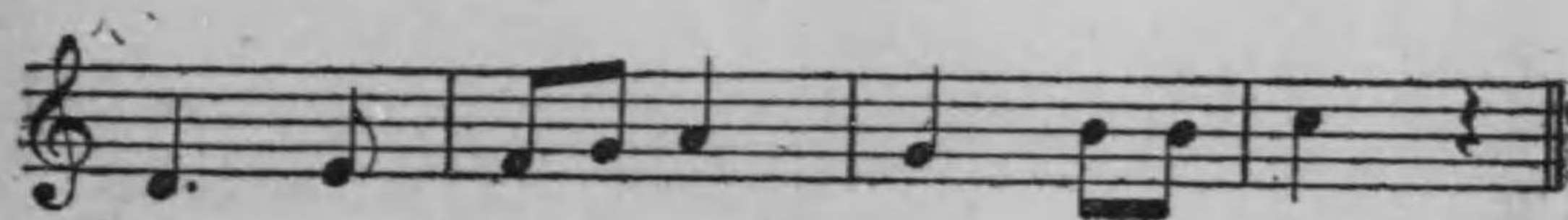
第三章 尋常科 第五學年

第一節 第一學期細案

期	週	教授事項並に教授方案	教授上の注意
一	一	<p>復習 (既授事項の要點問答)</p> <p>□ 音名の教授</p> <p>△ 實際案</p> <p>(1) 譜表の各位置にはド、レ、ミ、ファ……………と呼ぶ階名の外に、音名と云うてイロハニホヘトと呼ぶ名前があります。之は大抵の場合其の名前が變ることはありません。</p> <p>(2) 高音部記號は譜表の第二線を標準にして書いたでせう(既授)。此の高音部記號は一名ト音記號とも言ひまして、此の記號を譜表に書いて置けば譜表の第二線は何時でもト音と言ふことになるのであ</p>	
二	一		

第十一週

(13)

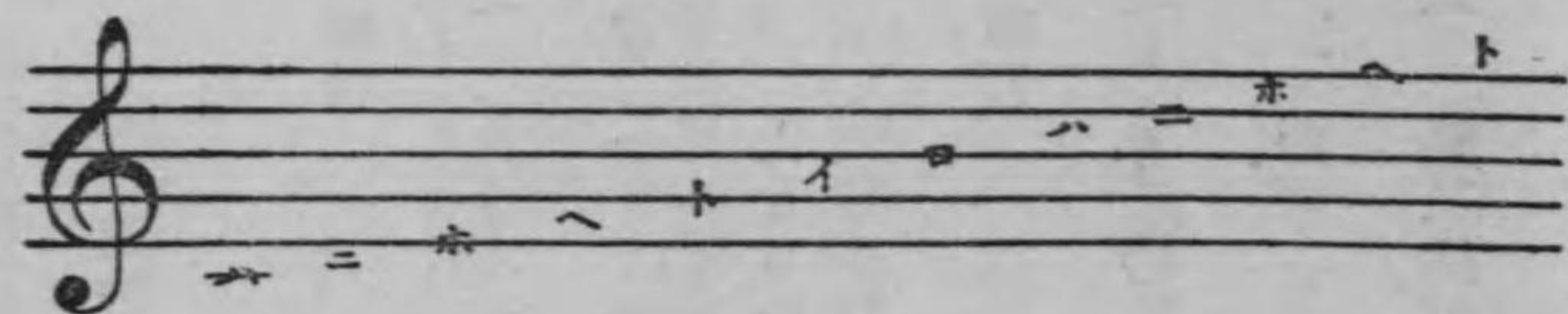


(14)



ります。

(3) 一ヶ所ト音と言ふ事が極れば、他の位置はイロハニホヘト、イロハニホヘト……と云ふ順序になるのですから、直ちに想像することが出来ませう。試に譜表に示して見ますと次のやうになります。(あなた方が今迄稽古しました階名の外に、之からは音名をも覚えて居なくてはなりません)



(4) 音名は階名のように其の位置と名称とが變る事がないから覚え易いのであります。

只何時でも第二線かトであると言ふ事を忘れない様にすれば、あとは順序を繰れば直ぐ分ります。之から其の練習を致しませう。……教師鞭にて指しつゝ音名を稱へしむ……
齊唱さしたり個人に呼ばしたりする。

□ 譜表上の上下の加線までは使用せぬこと。(但し下第一線は例外)

□ 調子記號の置かるゝ位置の音名を特によく練習すること。

(5) 先生が押へた所の音名を言ってもらひませう。
(超越的練習)


△練習

(1) 前時の復習

(2) 今日練習帖を出して譜表に音名を記入してごらん下さい。(前時参照)

三

△練習

(1)  記號があつたら何處が基本になるのですか。……………第二線

(2) 第二線が何音になるのでせうか。

……………ト音

四

(3) 第二線のト音から順次に上行の音名を言つてごらん下さい。

(4) 今度は下行の音名を言つてごらん下さい。

(5) ト音の上は何? 其の上は何?

其の上は……………其の上は……………

(6) 超越的の練習(バートンにて)

□嬰變及調子記號の教授

△實際案

(1) ある音を其の高さより半音上げる時には其の音符の置かれた同位置の左方に嬰と言ふ#記號を置きます。

さうすると、其の音の名前は「嬰何」と言ふ音名

七 六

△練習（前時の如き方法にて）

□嬰変記號の書方教授

△實際案

(1) 練習帖を出して嬰記號變記號を書いてもらひませう。

(2) 嬰記號の順序は

1 2 || #3 #4

(3) 各自練習（机間巡視訂正）

(4) 變記號の順序は

1 | 2 b 可 b 不可 D

□ 尋四の練習を復習的に取扱ふこと。
 || は細く間を狭く書く。
 = は稍斜に少し太く書く。

に變ります。

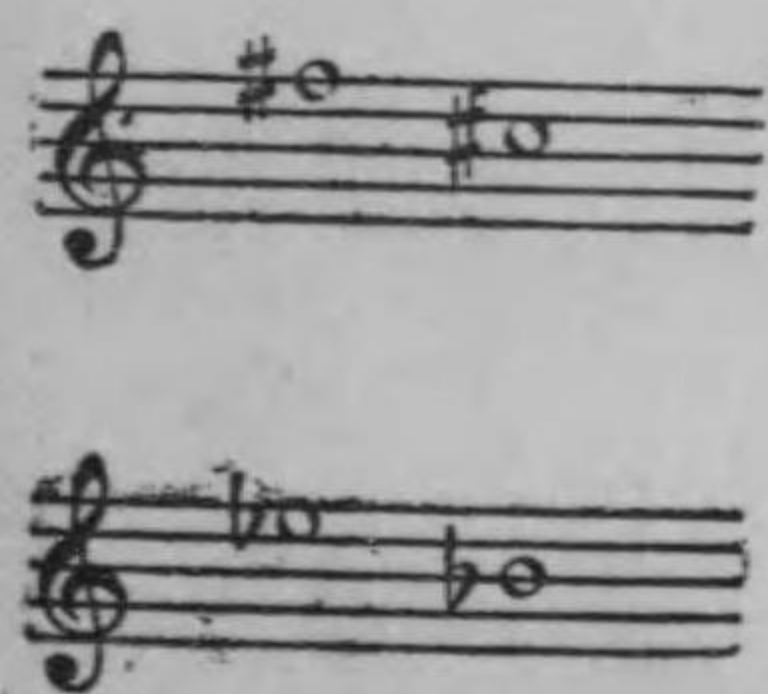
(2) 又反對に半音下げる時には變記號と言ふ b を置きます。さうすると「變何」と言つて音名が變ります。

(3) 練習

教師は任意に次の様に譜表に記して兒童に音名を唱へしむ。

b _♮	# _♮
b _♭	# _♭
b _♯	# _♯
b _♮	# _♮
b _♭	# _♭

□例




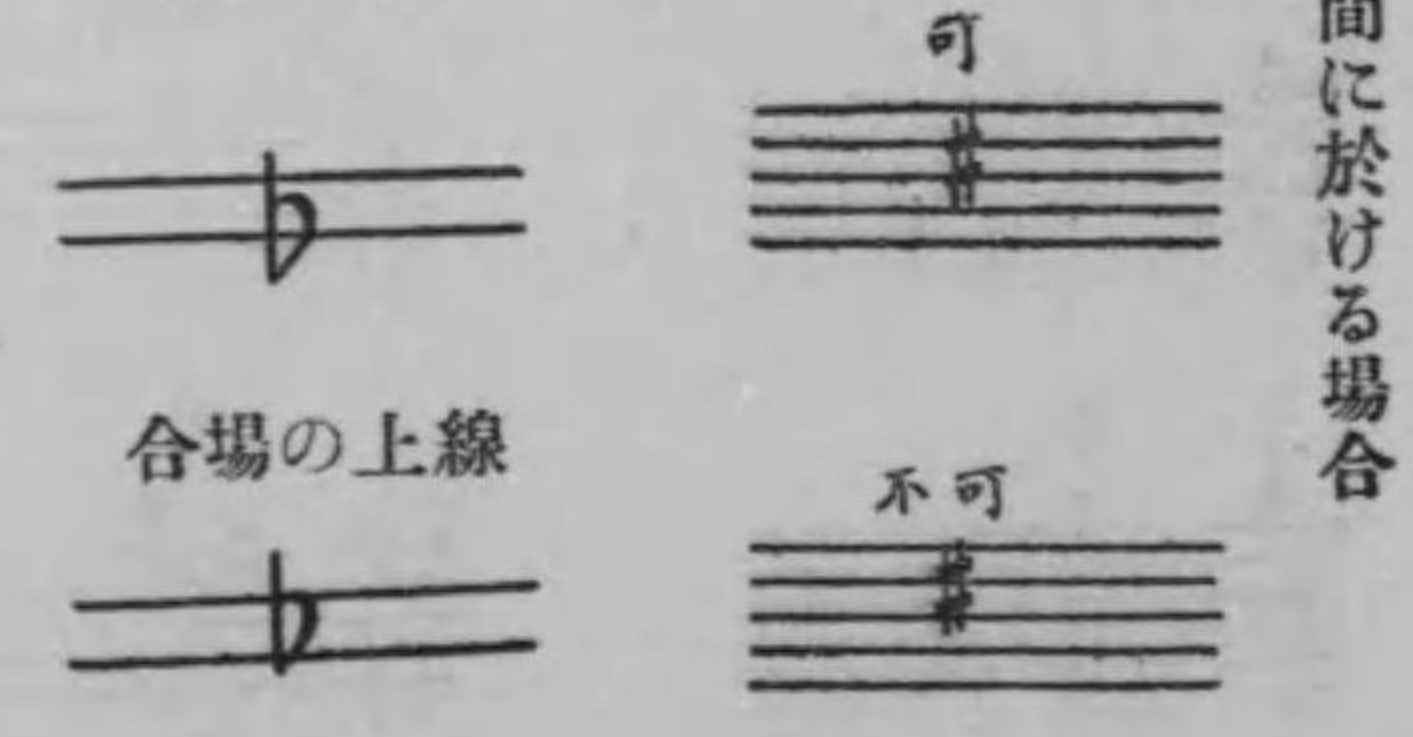
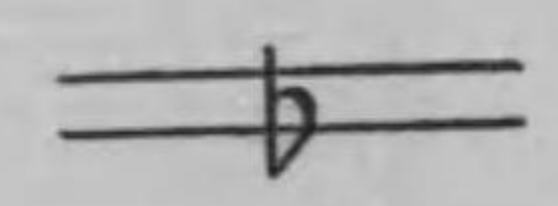
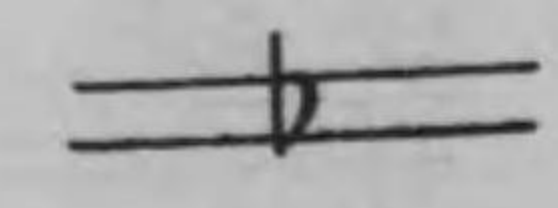
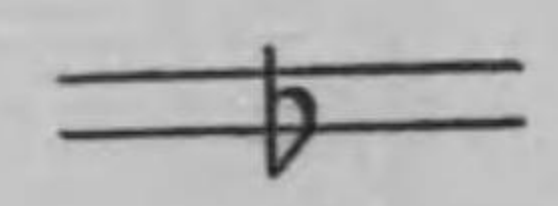
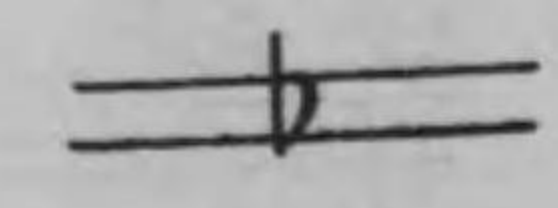
九

△變記號の書方練習

變記號を各線各間に前の例によつて書かせる。

- (1) 變記號を ロの位置にお書きなさい。
- (2) 變記號を ホの位置にお書きなさい。
- (3) 變記號を イの位置にお書きなさい。

(机間巡視、個人指導)

<input type="checkbox"/> 五線上の場合 	<input type="checkbox"/> 間に於ける場合 
合場の間 	合場の間 
合場の間 	合場の間 

(5) 各自練習 (机間巡視訂正)

△書方練習

嬰記號の書方練習

- (1) 嬰記號をトの位置にお書きなさい。
- (2) 嬰記號をヘの位置にお書きなさい。
- (3) 嬰記號をハの位置にお書きなさい。

(1) 

(2) 

(3) 

<input type="checkbox"/> 線上に於ける場合 	<input type="checkbox"/> 實例を示して注意を與ふ 合場の間 
合場の間 	合場の間 

△書方練習

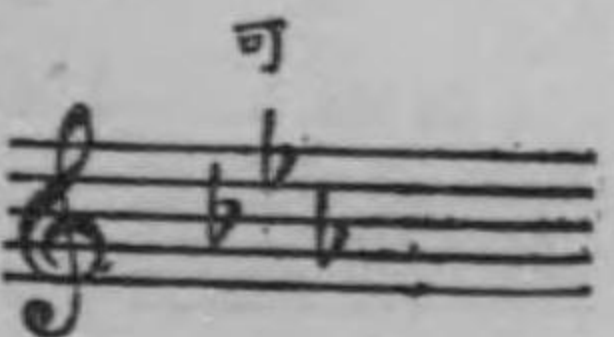
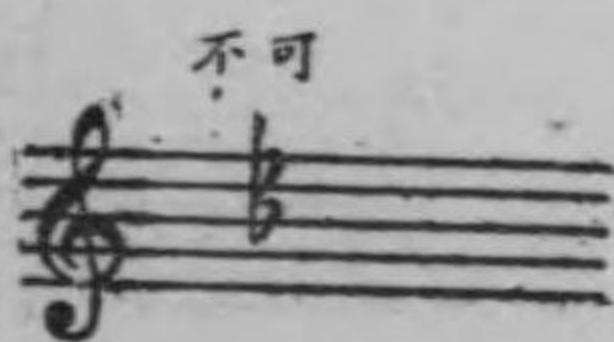
(1) 嬰記號を・への位置に一つ、・ハの位置に一つ書け。

(2) 嬰記號を・への位置に一つ、・ハの位置に一つ、上一間即ち・トの位置に一つ書け。

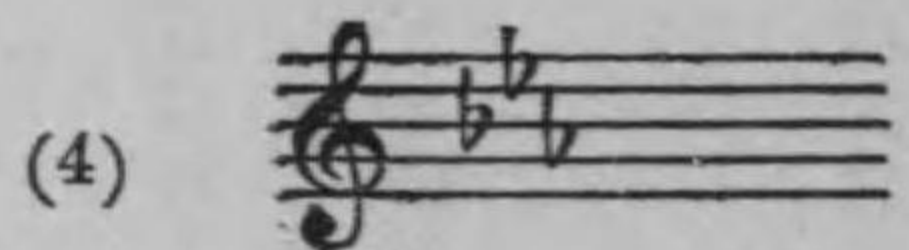
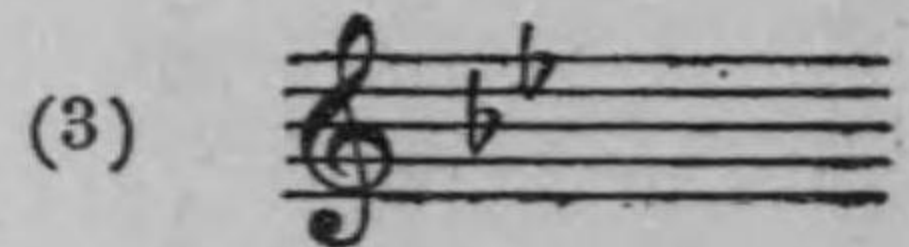
(3) 變記號を ロの位置に一つ、・ホの位置に一つ書け

(4) 變記號を ロの位置に一つ、・ホの位置に一つ、イの位置に一つ書け。

□ 嬰變記號は縦に重らぬ様に書くこと。



△練習



□調子記號の教授

△ト調ニ調イ調の教授

實際案

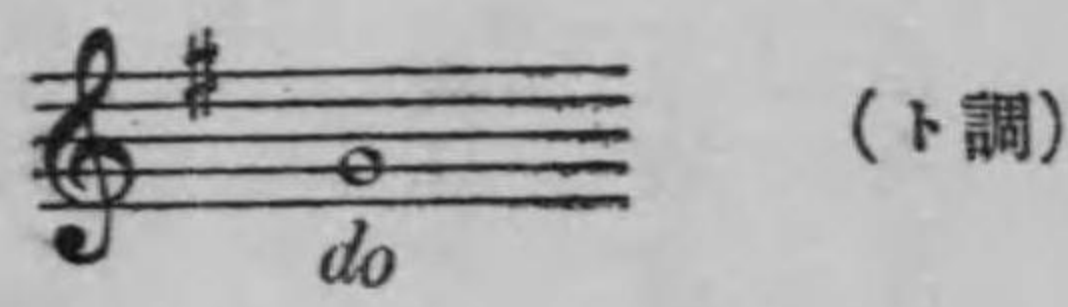
(1)への位置に(即ち第五線) # (即ち嬰記號)のついた樂譜は之をト調と言ひて第二線ト音をドレミファのドと何時でも呼ぶのであります。

今迄の様に何處をドと極めますと言はなくとも第五線に#があれば直ちに第二線をドと讀んで下さる。

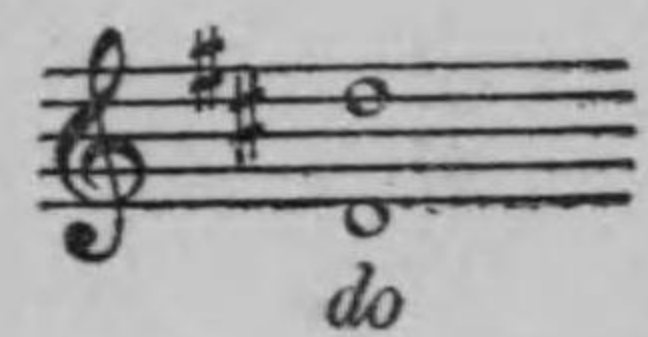
(2)次に第五線と第三間とに#があれば之はニ調と

云ひまして下第一間及び第四線がドであります。

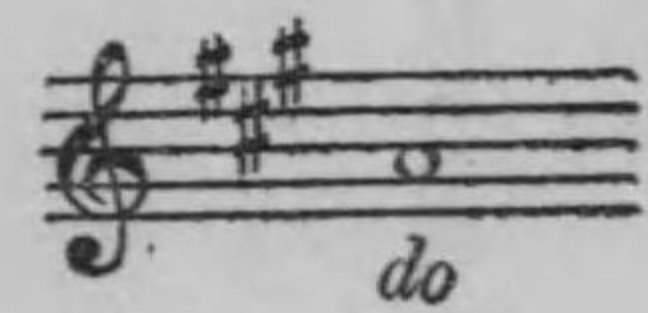
(3)尙更らに上第一間に#が加へられる時はイ調と言ひまして第二間がドであります。



(ト調)



(ニ調)



(イ調)

尋四、三學期に出たものは簡單に取扱ふこと。
(1) (2)は共に簡單でよいのだが順序上一應その取扱方を書いたのである従つて本時の主眼は(3)にあるのだ。

△へ調變ホ調ハ調の教授

實際案

- (1)次に第三線に **♭** が一ツある時はへ調と申しまして第一間がドであります。
- (2)尙更らに第四間に加へられると變ロ調と申しまして第三線がドになります。
- (3)尙更らに第二間にも加へられると變ホ調と申しまして第一線がドになります。
- (4) **♯** も **♭** も無い時にはハ調と言ひまして下第一線がドであります。

△練習

	は何調か		は何調か		(へ 調)
				do	
	は何調か		は何調か		(變ロ調)
				do	
			ドの位置は何處か		(變ホ調)
				do	
			ドの位置は何處か		(ハ 調)
				do	


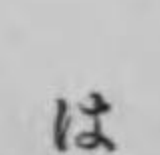
等既授の調子名と主調音の位置とを問答す。

△復習

△復習(此の學期中の既習教材の難點の復習)


一五
一六

第二節 第二學期細案

期	週	教授事項並に教授方案	教授上の注意
二	一	<p>△復習</p> <p>全音符 ○ 全休止符</p> <p>二分音符 ○ 二分休止符</p> <p>四分音符 ○ 四分休止符</p> <p>八分音符 ○ 八分休止符</p> <p>並に</p> <p>の歴時について問答</p> <p>□附點八分音符及十六分音符の教授</p> <p>△實際案</p> <p>(1)  の如く八分音符の右側に小點のある音符は附點八分音符と言ひますそして其の歴時は  の時間に更らに其の半分の時間が加はるのであります。</p>	<p>兒童は既に附點四分音符を習つて居て附點の機能は充分に知つて居る筈であるから注入的傳達の取扱を避けなるべく應用的ならしむること。</p>
二	二		

三


△復習

- (2) 八分音符の半分の音符は  の様に書きます。而して其の名稱は十六分音符と申します。
- (3) 皆さん十六分音符を書いてごらん下さい。

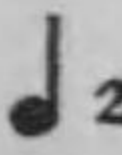


- (1)  は何と言ふ音符でありましたか。

(八分音符)

その歴時はいくらでしたか。(半拍)

- (2)  は何と言ふ音符でしたか。(十六分音符) その長さはいくらでありますか。(四分の一拍)

の順なり。

● 1
 2
 3
 4


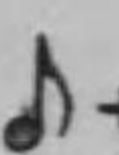

五 四

△復習

□歴時練習

△實際案

- (1) 皆さんが今迄に習つて来た各種の音符の時間の関係は次の様になります。

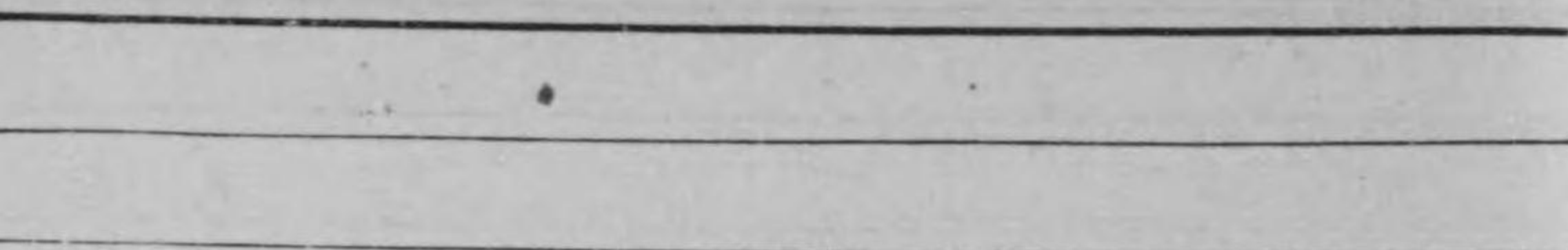
 =  + 



(3) 式に書く此の様な関係になります。

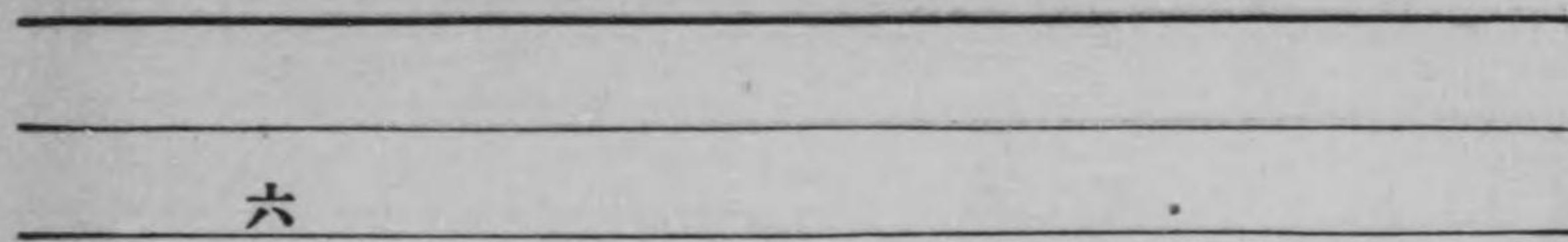
- (4) 練習帖を出して第二線上に附點八分音符を五ツ書いてごらん下さい。

- (5) 十六分音符を第一線上に五ツ書いてごらん下さい。

50



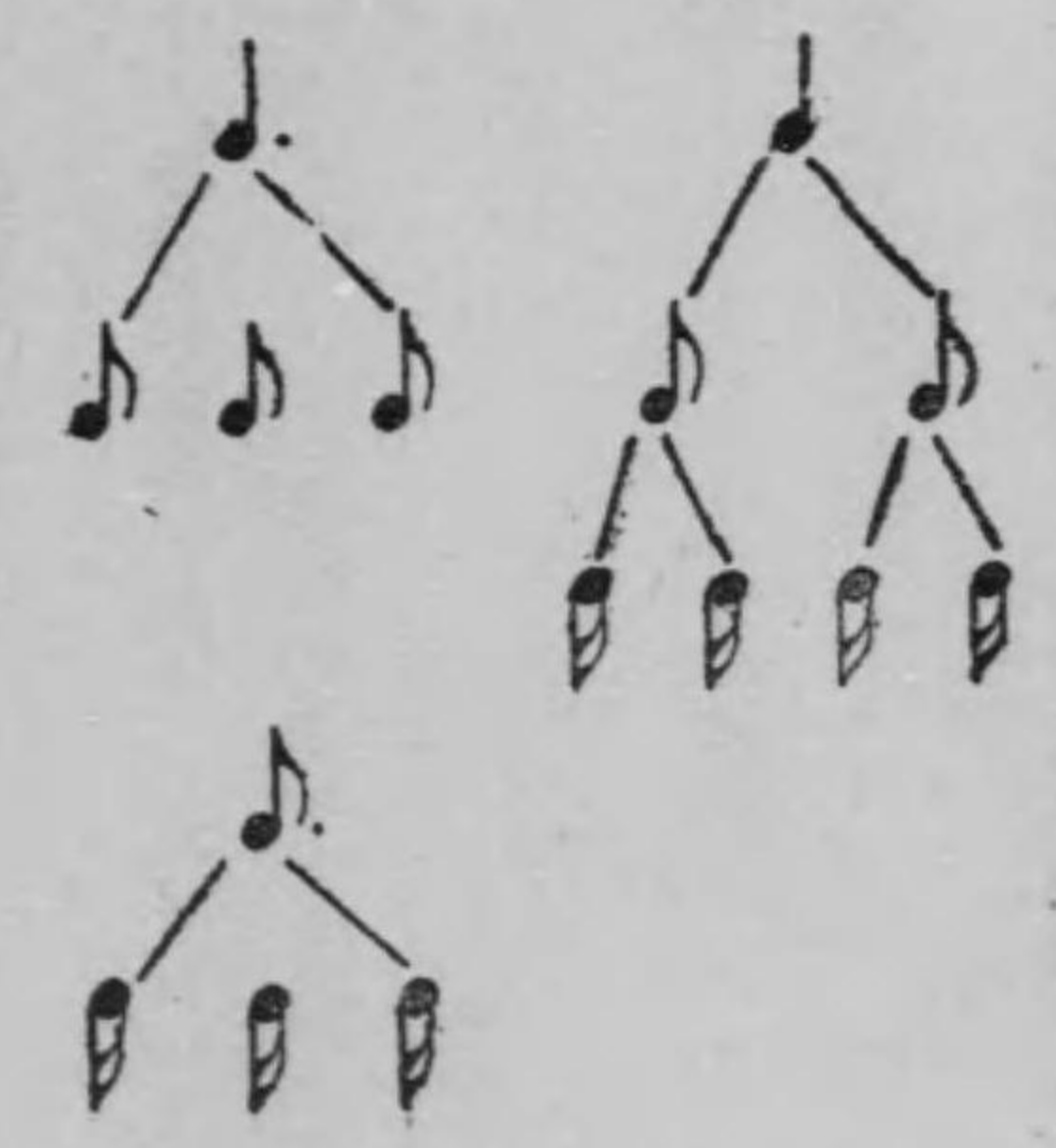
- 歌へるでせうか。 2
- (2) 八分音符を一拍とした時に十六分音符は幾つ唱ひ得るでせうか。 2
- (3) 四分音符を一拍とした時には十六分音符なら幾つ歌へませうか。
- (4) 四分音符を一拍とした時に  一つ歌ひ残りの時間を十六分音符で歌ふとすれば幾つ歌へませうか。
- (5) 四分音符を一拍とした時に  を一つ歌ひ残りの時間に十六分音符を當てるとすれば幾つ歌へるでせうか。



六

△練習

- (1) 四分音符を一拍とした時に八分音符ならば幾つ
- (2) 練習帖を出して之を書いてもらなさい。

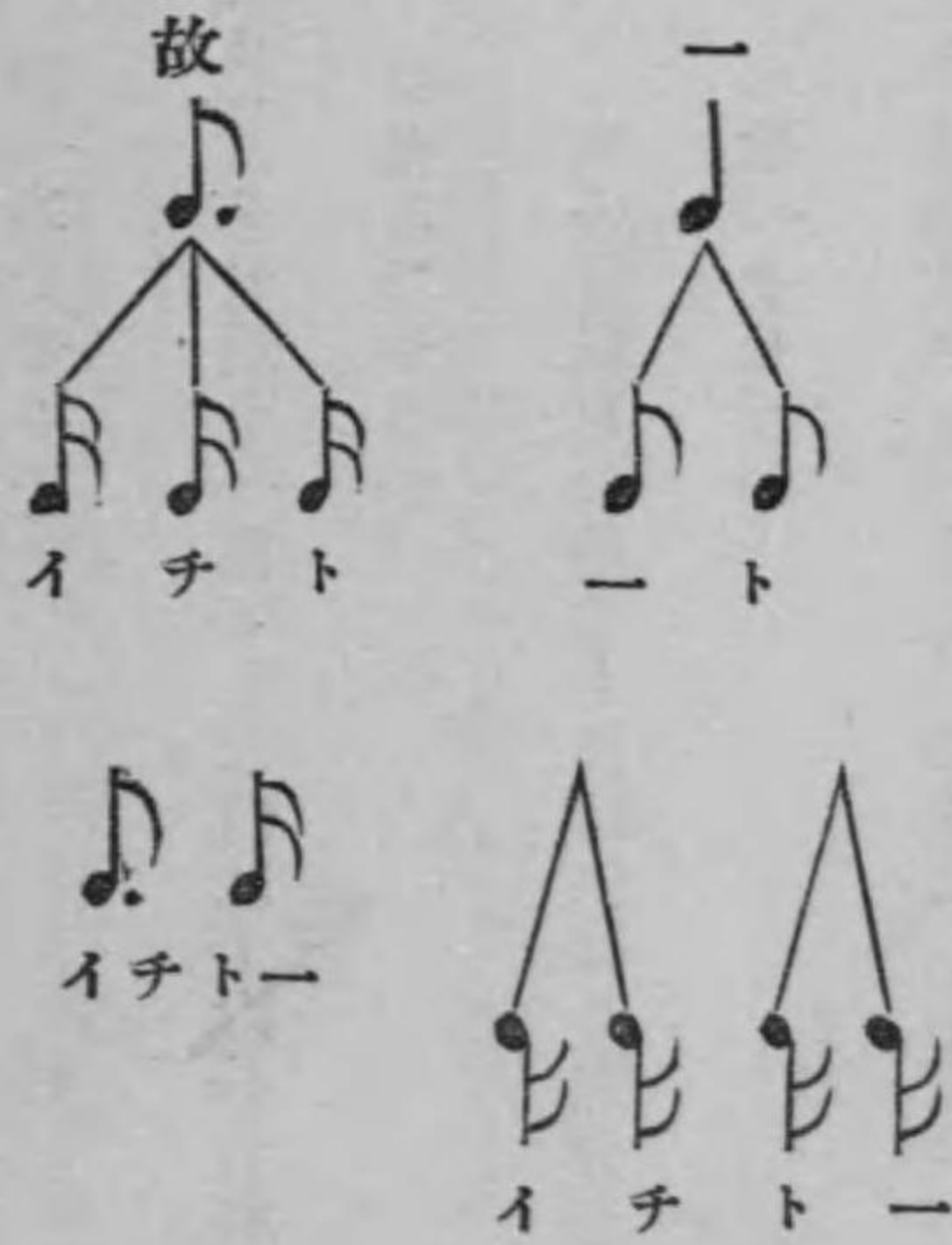


△練習 (方法は前に準ず)

□時間の呼び方の教授

△實際案

(1) 各種の音符の時間の関係だけは分りましたでせうから、今日から拍子の呼び方をお稽古ませう。



幾多の例を作つて課するこ
と。

説明しつゝ板書のこと。

(2) 楽譜練習帖を出して之を書いてごらん。

△呼節法練習

△實際案

(1) 四分音符を一拍としたらこれは何拍でせうか (バ

ー トンて指示) 一拍

これは 何拍? 半拍

これは 何拍? 半拍

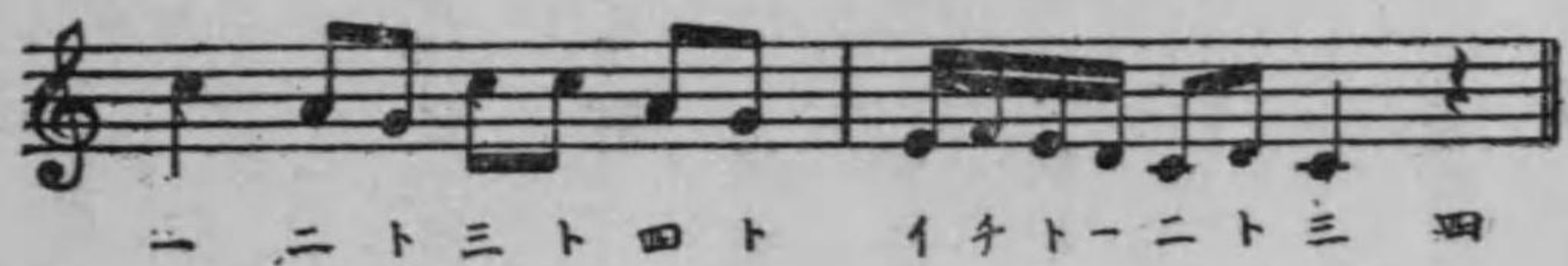
これは 何拍? 四分の一拍

.....

(2) 一小節を何拍に歌ふのでせうか。

(3) 先生が呼節して見ますから聴いて居て下さい。

□本曲は二時間に亘つて練
習す。



(4) 皆さん先生について歌つてごらん下さい。

(初めは棒讀、馴れてから旋律的に歌ふこと)

(5) 階名で二回歌つてごらん下さい。

□ 呼節すること階名で歌ふことは交互に課しその連絡をはかるべし。

一〇

△呼節法練習つゞき

(1) 此の曲を呼節してごらん下さい……(棒讀)

(2) 今度は階名で唱つて下さい(拍手しながら)

(3) 今度は旋律的に呼節して下さい。

(教師ピアノ伴奏)……練習

(4) よく歌へ出しましたから今度は曲節を味ふ様にラで歌つて見て下さい。

△復習

△呼節法練習(方法は前に準ず)

□ 本時の主眼點は(2)と(3)にあるのだ。呼節法の要領を知らしむるには(3)を最もよく徹底させなくてはならぬ。

□ 各小節の各種音符が一拍到にどれ丈づゝ唱はれる様に成り居るかを吟味せしむる事故に呼節と拍節の兩法並行して練習せしむべし。

一一

二六

△復習
呼節法練習曲三曲の復習

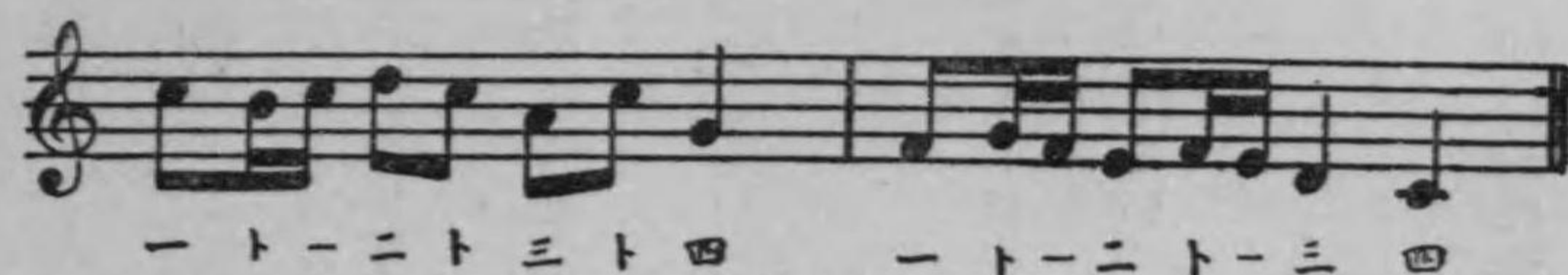
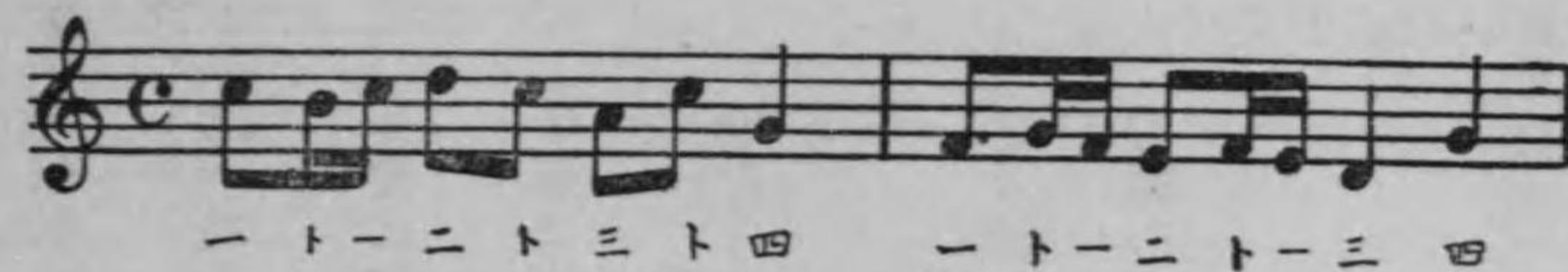
一五

一四

一三

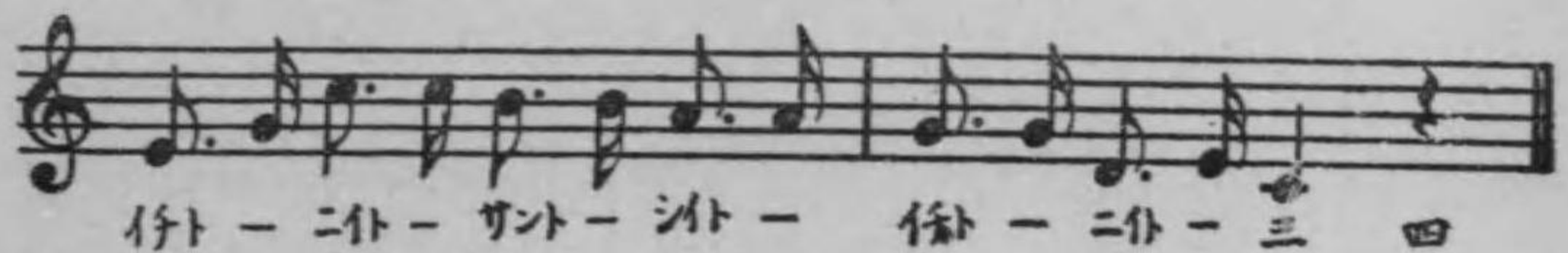
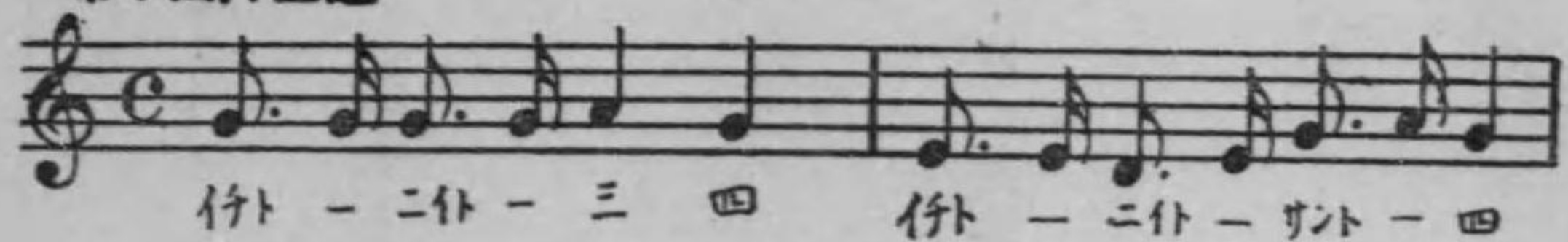
第十二.十三遍

(1)



第十四.十五遍

(2)



第三節 第三學期細案

期
週

教 授 事 項 並 に 教 授 方 案

教 授 上 の 注 意

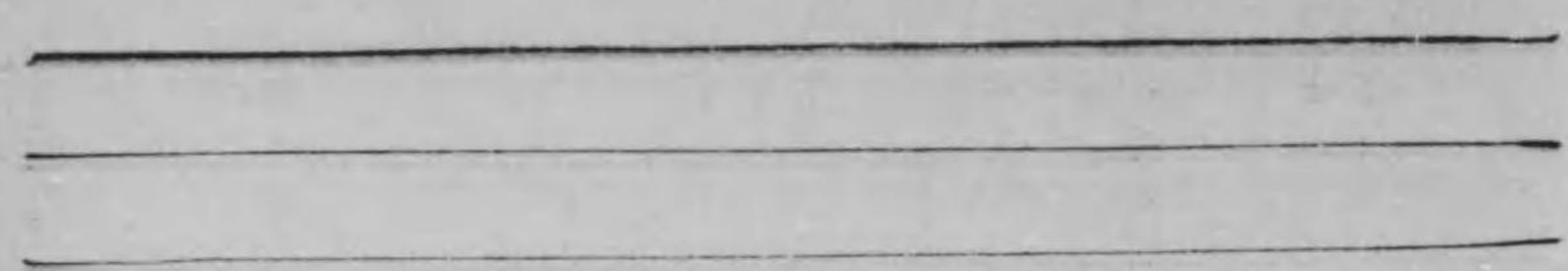
三
一

□ 讀譜並に音程(五度)練習

△取扱の形式

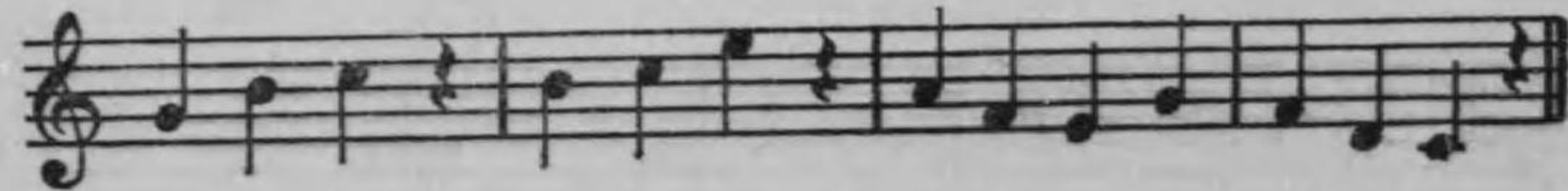
- (1) 調子の問答 (此の曲は何調でありますか)
- (2) 主調音の位置に関する問答
(何處がドになりますか)
- (3) 讀譜練習教師(バートン)にて指示しつゝ)
- (4) 拍子に関する問答(何拍子の曲ですか)
- (5) 呼節法(拍子を會得させる爲に)
- (6) 階名によつて歌はせる (主眼點)
- (7) 曲節的にア、ラ等で歌はせる。

- (3) の讀譜練習は譜を棒讀にさせる意味である。
- (6) 本時の大部分を費すべき主要部である。



第一邊

(1)

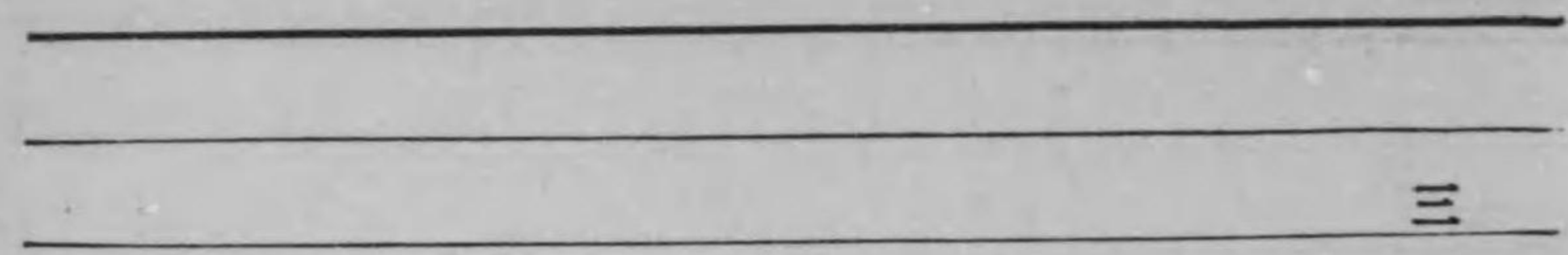


(2)



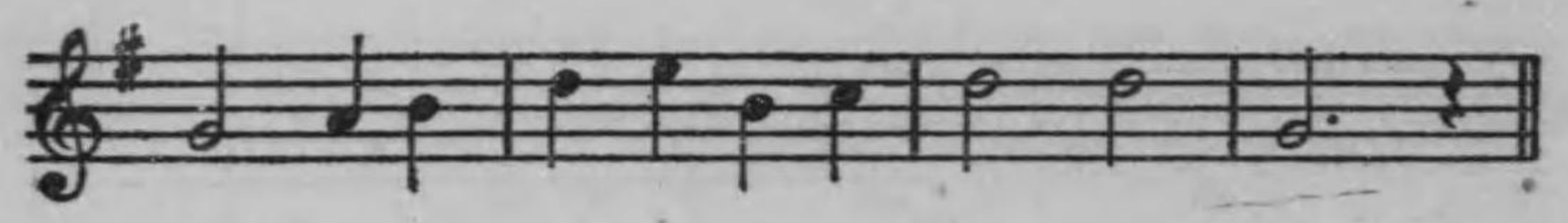
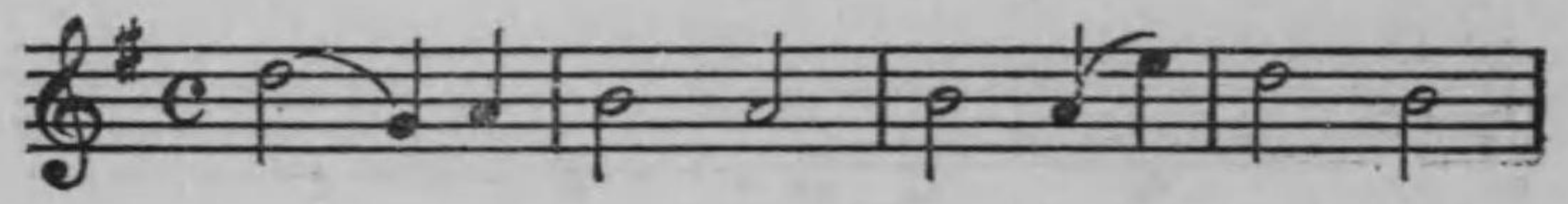
□ 新出五度音程

ド—ソ
ラ—レ
ミ—ラ

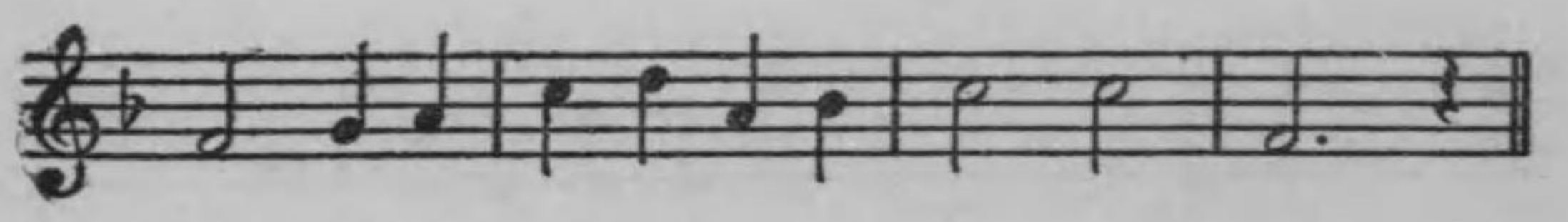
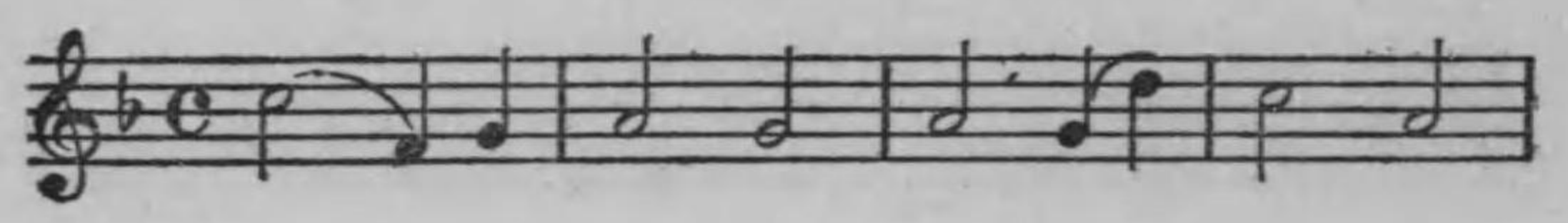


第三遍

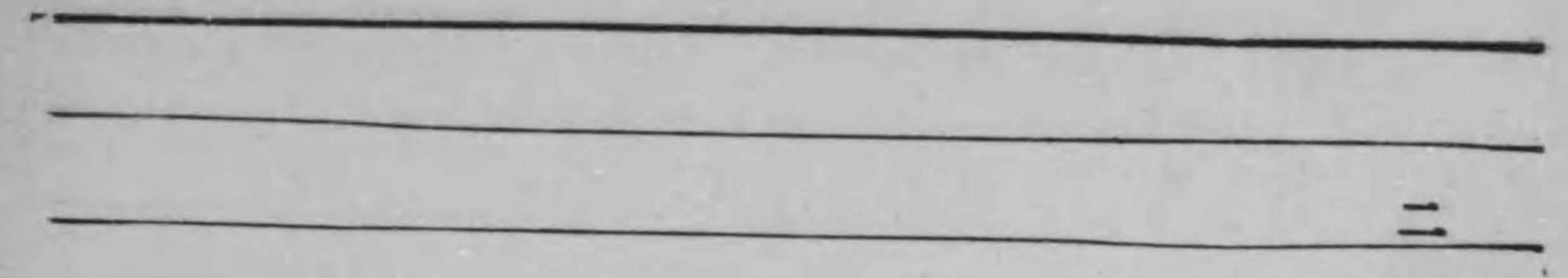
(5)



(6)



□ 新出五度音程
ソ—ド
レ—ラ

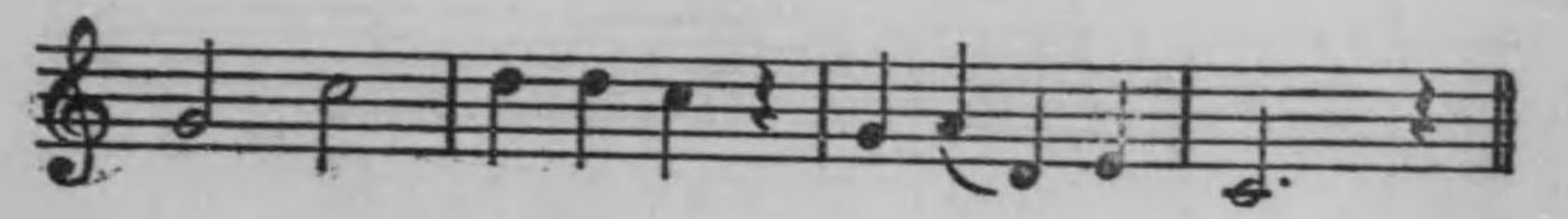
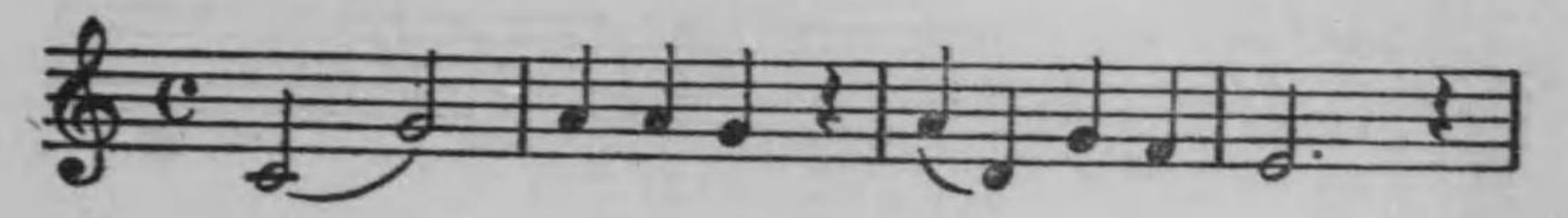


第二遍

(8)



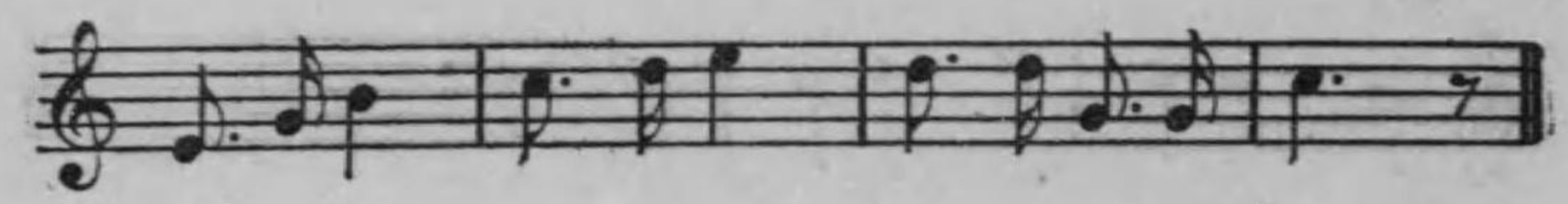
(4)



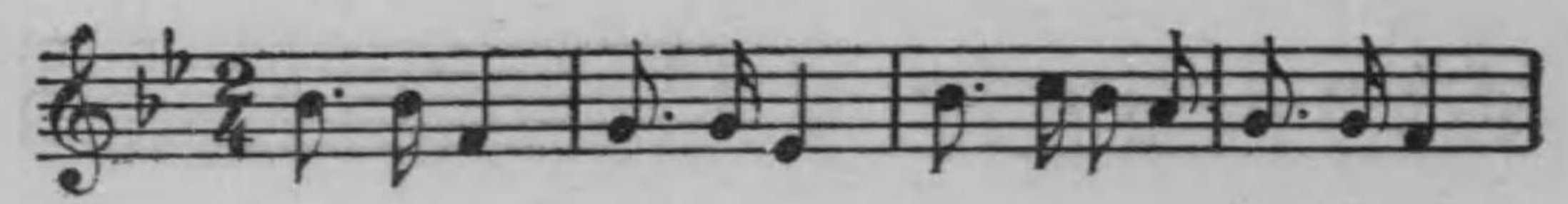
六 五

第六週

(9)



(10)



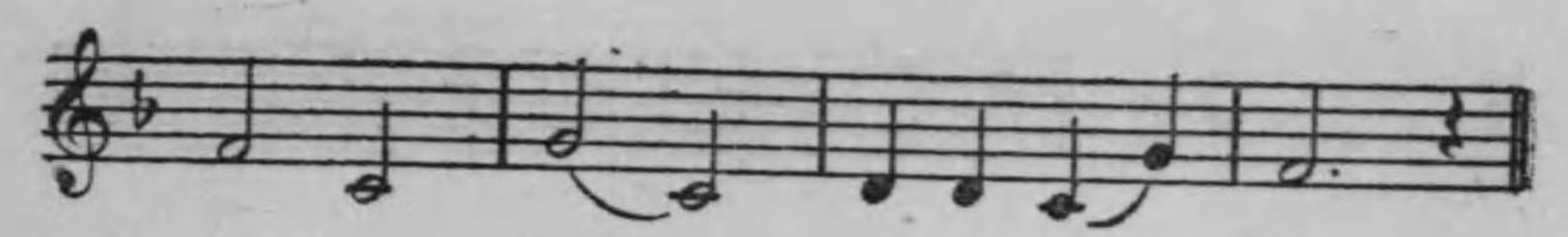
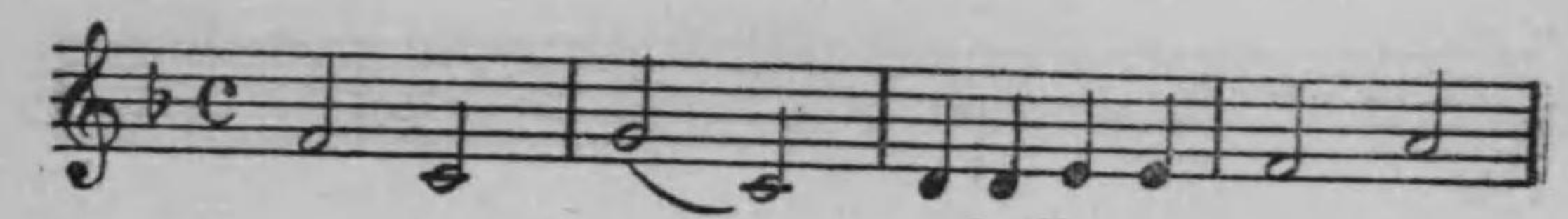
ファ—ド

□ 第五週は復習
□ 新出五度音程

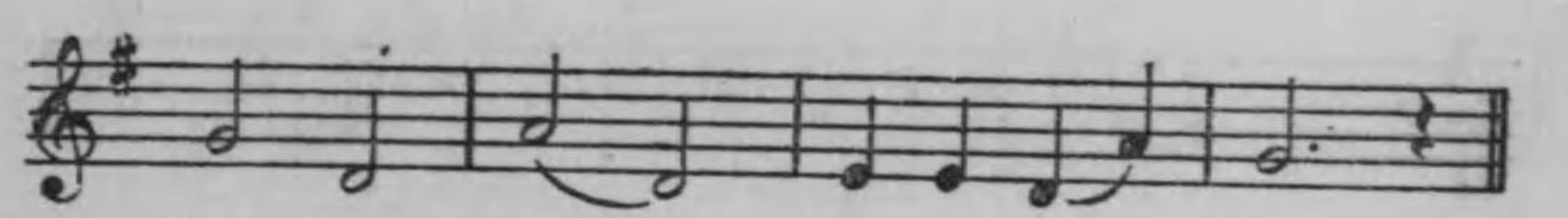
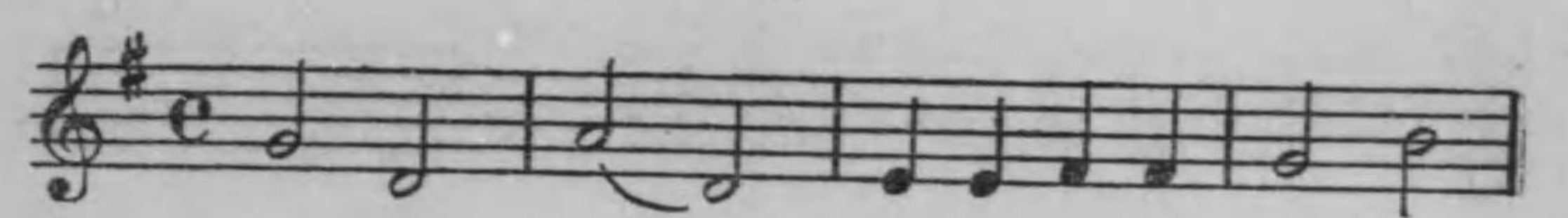
四

第四週

(7)



(8)



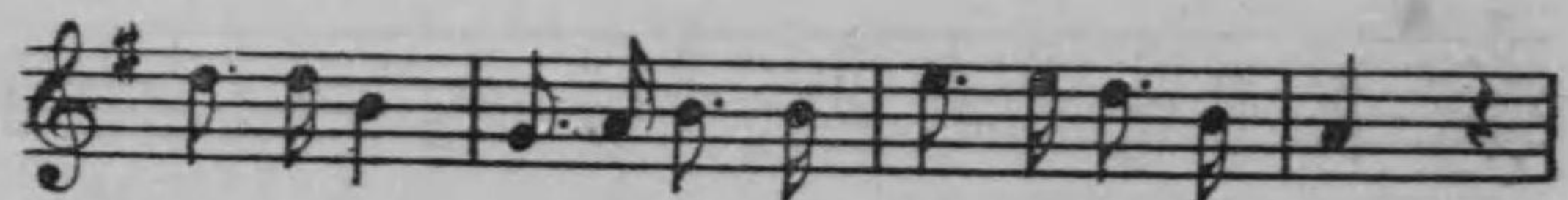
レ—ソ

ソ—レ

□ 新出五度音程

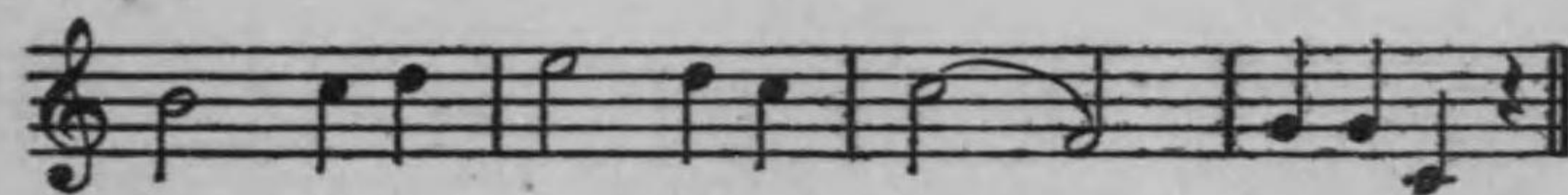
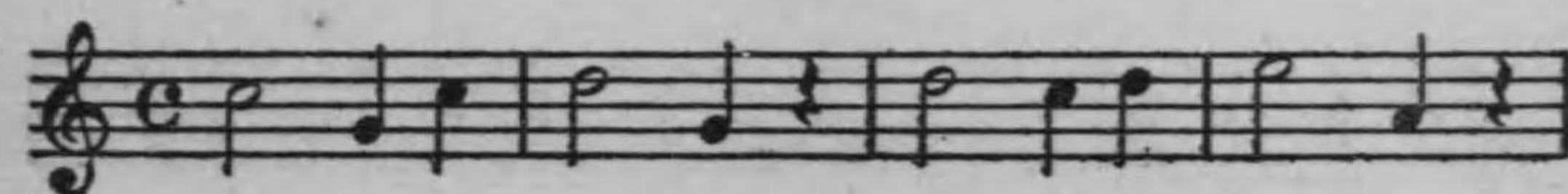
第八遍

(13)

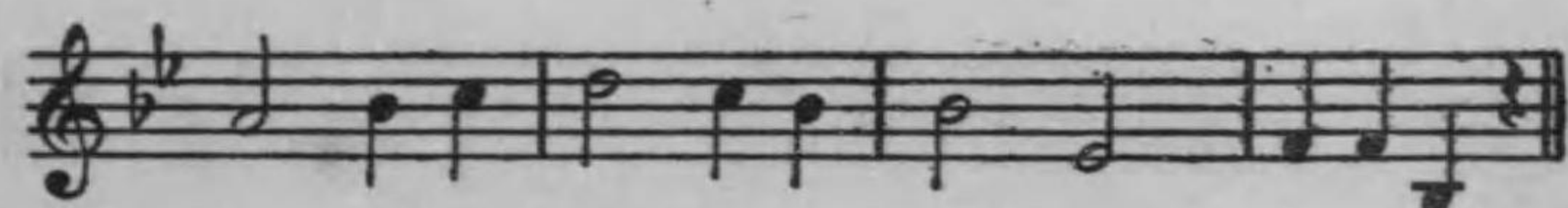


第七遍

(11)



(12)

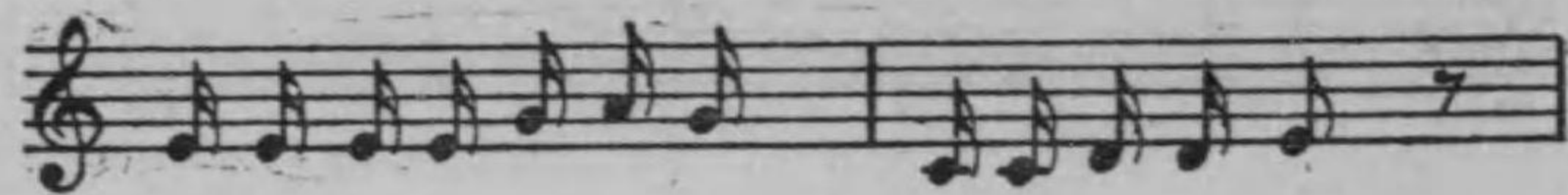


フ—フ

□ 新出五度音程

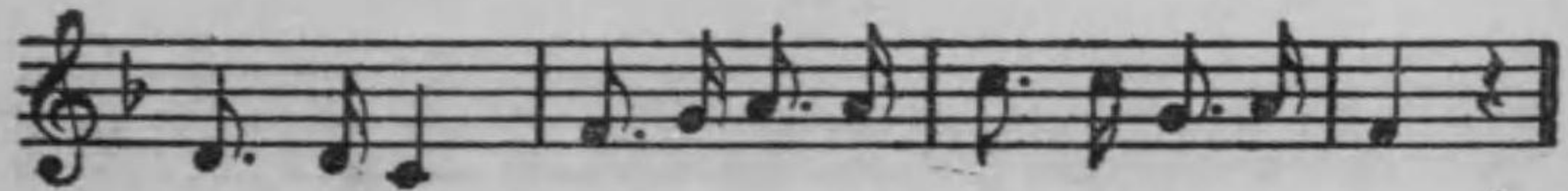
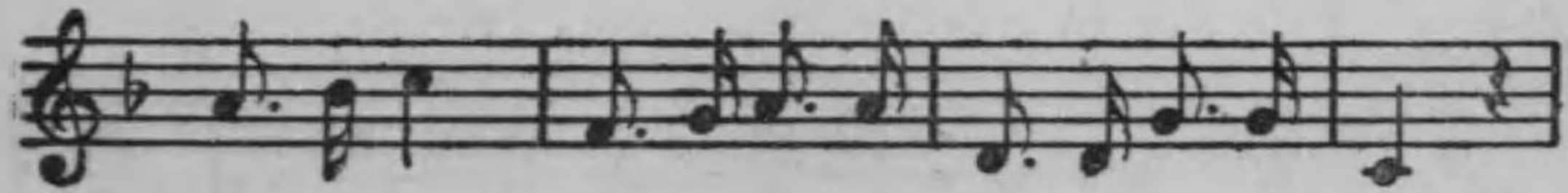
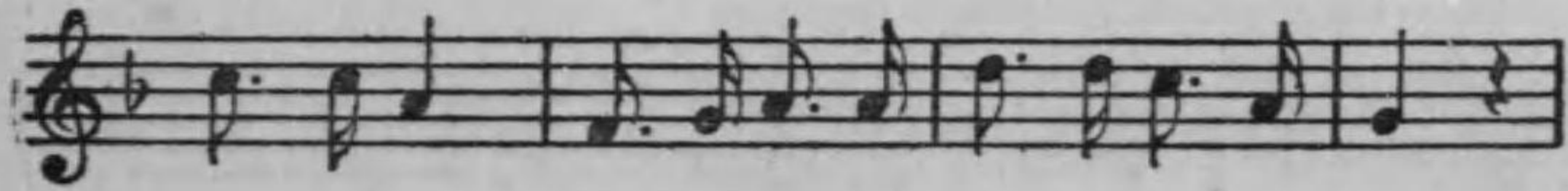
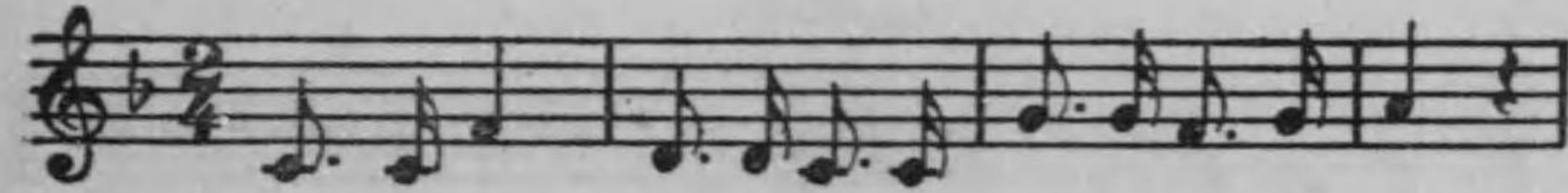
第九通

(15)



□新作の盲と聾の曲節による。

(14)



□國定の運動會の曲節による。

一
二

一
〇

△復習

第十道

(17)

□唱ひ出しが半拍子遅れる
 様なのが近頃の童謡曲節
 に澤山ある。此の點特に
 氣をつけて練習する事肝
 要。

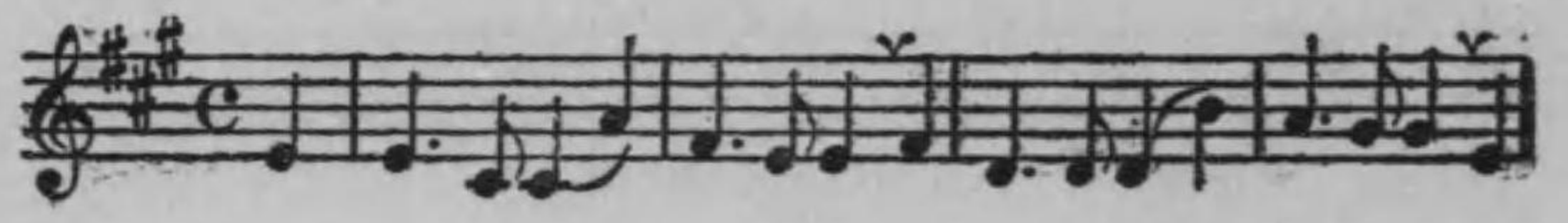
(16)

第四章 尋常科第六學年
第一節 第一學期細案

期 週	教授事項並に教授方案	教授上の注意
一	過去三ヶ年間の努力によつて最早音程や拍子の觀念は確實になり讀譜力は充分培はれて來たので普通の歌曲の本譜視唱は極く平氣に行はれますから系統的樂典教授上の本學年の任務としては六度音程の練習並に三連音符及變拍子の練習位なものであります。	
二	△既授事項の復習。	
三	△既授事項の復習。	
四	□音程練習(六度)	

五

第四五節

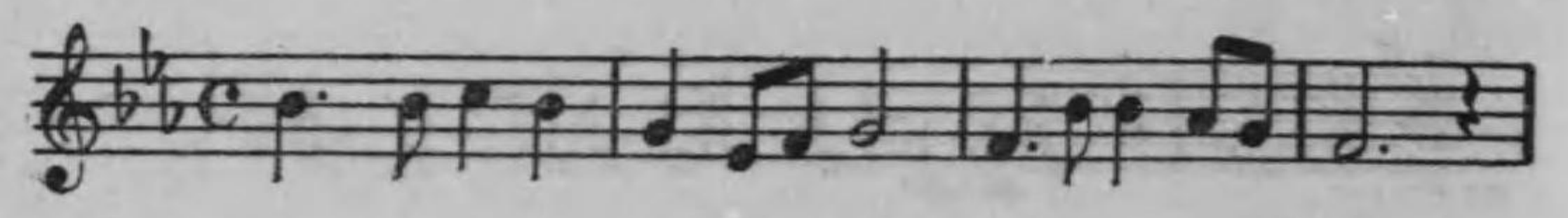


□新出六度音程
ミ—ド
ファ—レ

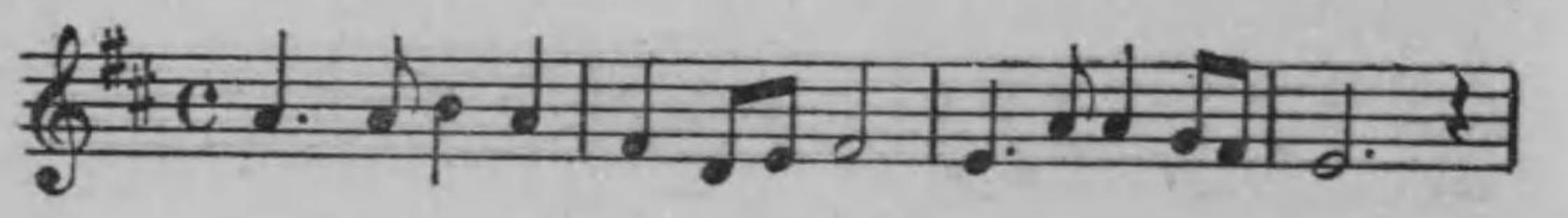
九 八

第八.九遍

(5)



(6)



□ 新出六度音程
ド—ラ
□ 尋常小學唱歌「富士山」
より。

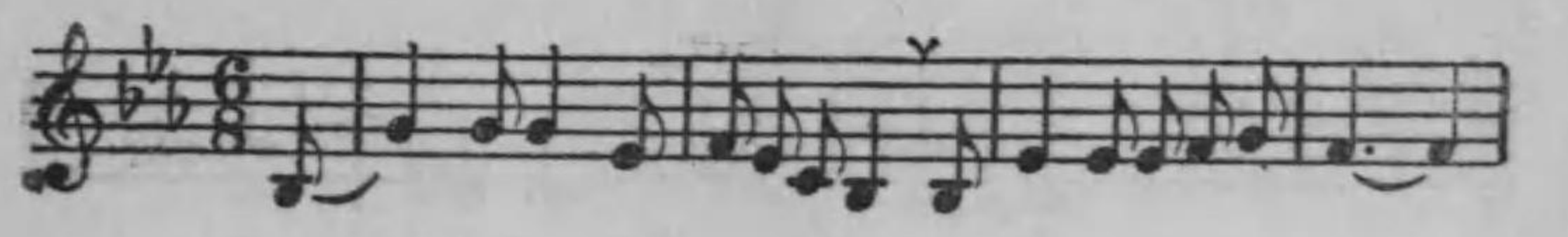
七 六

第六.七遍

(3)



(4)



□ 新出六度音程
ソ—ミ

一四
一五
一六

△練習

△復習 (五度音程中の難曲を)

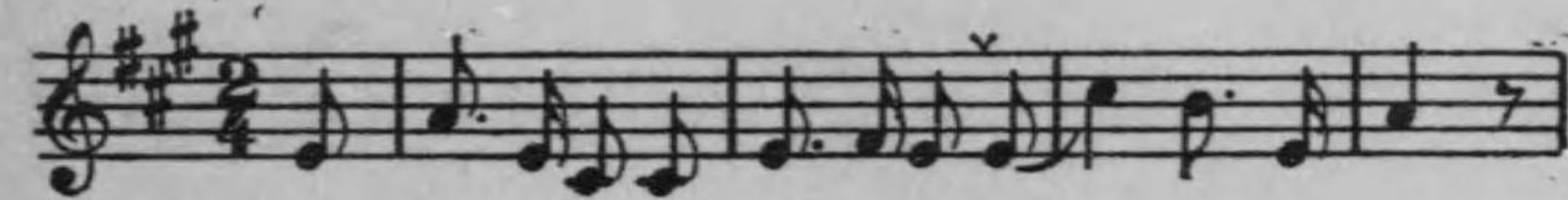
△既授事項の問答並に讀譜練習

□之に類する音程練習曲を
適當に加へられたい。

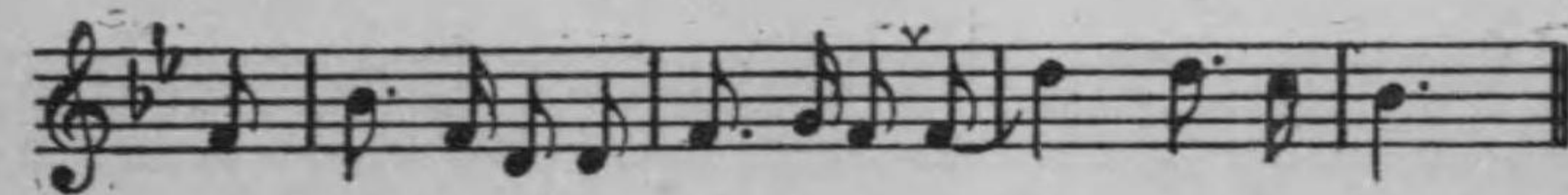
二〇
二
三

第十二十三週

(7)



(8)



第十週 第十一週は復習

□新出六度音程



ソ—ミ
・

□尋常小學唱歌「朝の歌」

より

第二節 第二學期細案

期	週	教授事項並に教授方案	教授上の注意
二	一	△既授事項の復習	
	二	△既授事項の復習	
	三	□三連音符及變拍子の教授 △實際案	
		(1) 四分音符 \bullet — 一ツ歌ふ時間に八分音符 \bullet は 幾つ歌へますか……(二ツ)	
		(2) 四分音符を一拍として一と呼節する時に八分音 符二ツを何と呼節しませうか……「イチ」トと言 ひますネ。	
		(2) ネ一拍に四ツの音符の場合には イチト——ニ	

		イト——……でしたネ(以上既授事項)	
		(4) 今迄覺えた事の外に今日は新しい少し變つた拍 子を習ひませう それは 四分音符 \bullet — 一ツ歌 ふ時間に八分音符を三ツ歌ふ事があります。一寸 理窟に合ははい様でありますが此の時には必ず八 分音符三ツを  の様に書いて通例の場合 より違ふことを表示してあります。	
		(5) だから  と書いてあるのを見たならば	

イチトニートサント 四一ト イチトニートサント 四一ト
 イチトニートサント 四一ト イチトニートサント 四一ト

それは四分音符一ツの
 時間に歌ふものと氣が
 つがなくてはなりません。
 ん。
 そして又此の音符を三
 連音符と言ふ事をも合
 せて知つておこなうて
 はなりません。

□ 變拍子の教授

△ 實際案 (前時の曲を示して)

(1) 前時教授事項の間答(三連音符について)

(2) こんな拍子を變拍子と申します。

(3) 變拍子の拍子の取り方(呼節法)はこんなに致しま

す。(板書しつゝ)

そしてイチト ニイト サント シイト……と呼

ぶ此の三ツには長短が無い様にしないではなりま

せん。

(4) 皆さん一緒に呼んでごらん下さい。

(教師バートンにて拍子をとる)

□ 此の時に音符の數だけ拍
 たぬ様にして一拍に正し
 く三ツを呼ばしむる事。

五

(5) 今度は自分で手を拍ちながら呼節してごらん下さい。

(6) 高低を考へつゝ階名で歌つてごらん下さい。

△練習

△實際案。(前時の歌曲を板書して)

(1) こんな音符を何と申しますか……(三連音符)

(2) こんな拍子を何と申しますか……(變拍子)

(3) 皆さん一緒に拍子を呼節して下さい。

(4) 此の曲は何調でありますか……(ト調)

(5) ドは何處でせうか……(第二線)

(6) 讀譜練習(數回)

□始めはゆつくり馴れるに従つて早めること。

七 六

(7) 階名で歌つて見て下さい(拍子が主眼)

……練習……

(8) アで歌つてごらん下さい。

△復習

□三連音符及變拍子の練習

△實際案(第一段)

(1) 此曲は何拍子でありますか……(四拍子)

(2) こんな拍子を特に何と申しますか……(變拍子)

(3) 一拍の中に三ツ歌ふ様になつた音符を何と申しますか……(三連音符)

か……(三連音符)

(4) 拍子を呼んでごらん下さい。

(5) 拍子をとりつゝ階名で歌つてごらん下さい。

□變拍子を歌ふ場合は相當にアクセントをつけさせること。

一四 一三 一二 一一 一〇 九 八

△同

△同

△同

△變拍子の新曲練習（取扱方法は前に準ず）

△復習

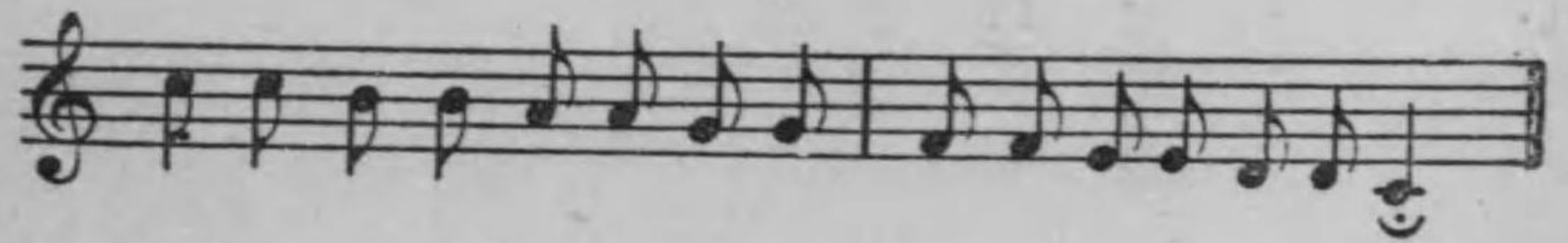
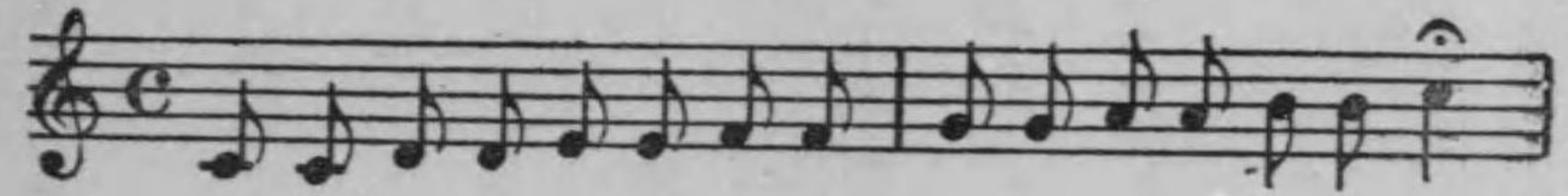
△練習（一番二番を比較させること）

△練習（主として二番を）

(1)



(2)



□必ず拍節せしむること。

□練習が出来てからは一番二番共に同速度に歌はしめて變拍子の特徴を味はしむること。

□尚メトロノームを使用して一層その歷時を正確ならしむること。

一六 一五

△既授事項の總復習
△復習

第十一、十二、十三、十四連



□極めて緩徐な速度で始め
は練習し稍出来だしてか
ら其速度を早めること。

第三節 第三學期細案

期 週

三

二 一

教授事項並に教授方案

教授上の注意

□二重唱練習についての注

意

一、重唱練習は和聲美を了得せしむるのが主眼である。

二、和聲美は各部の音程が確でなければ成立しないから此の點に注意することが肝要。

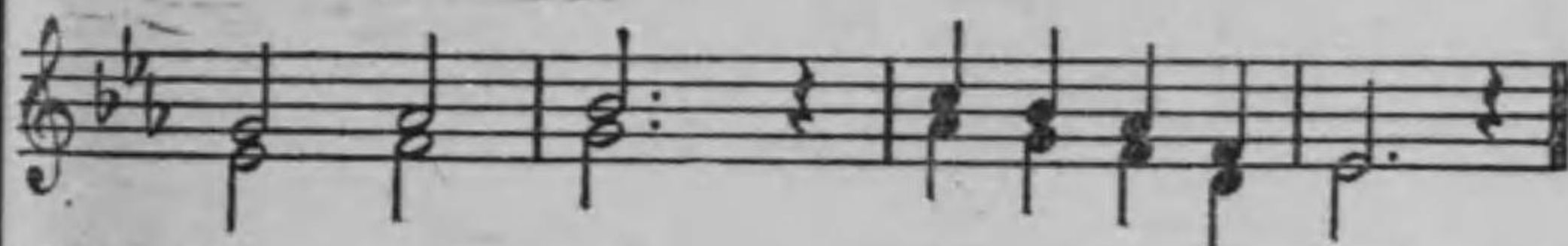
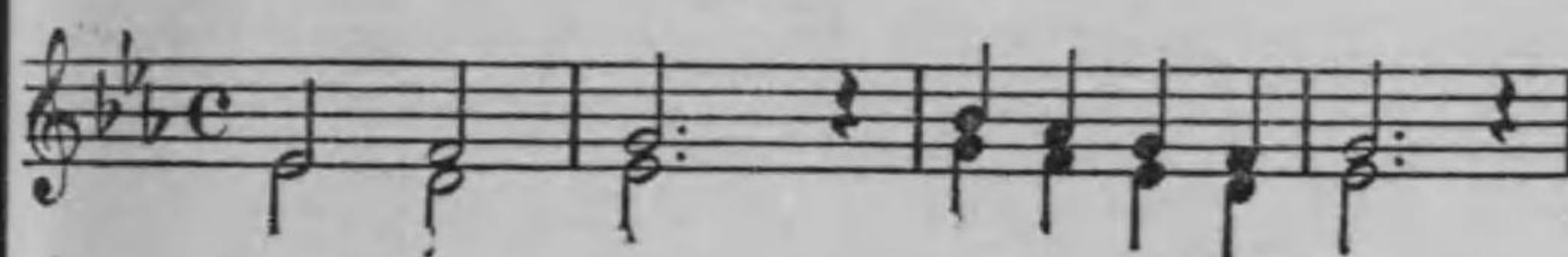
三、初歩の兒童は自分で唱ひながら和聲を味ふことが出来ないから時々幾人づゝかの兒童を交代して聴かせる事が肝要だ。

四、始めから高音部と低音

四 三

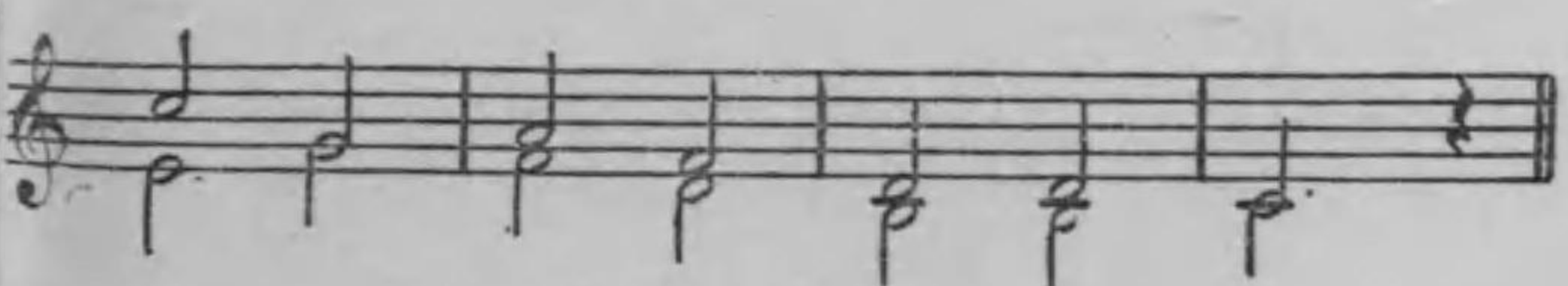
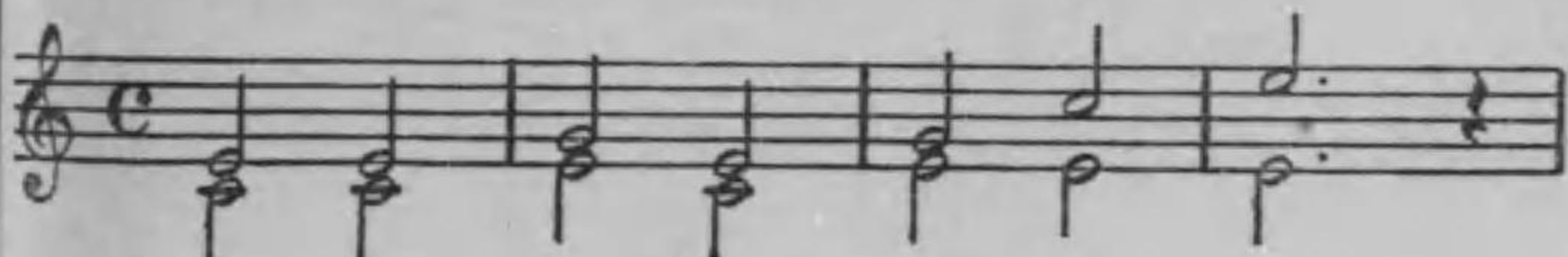
第一、二遍

(1)



第三、四遍

(2)



八 七

六 五

第五、六遍

(3)



第七、八遍

(4)

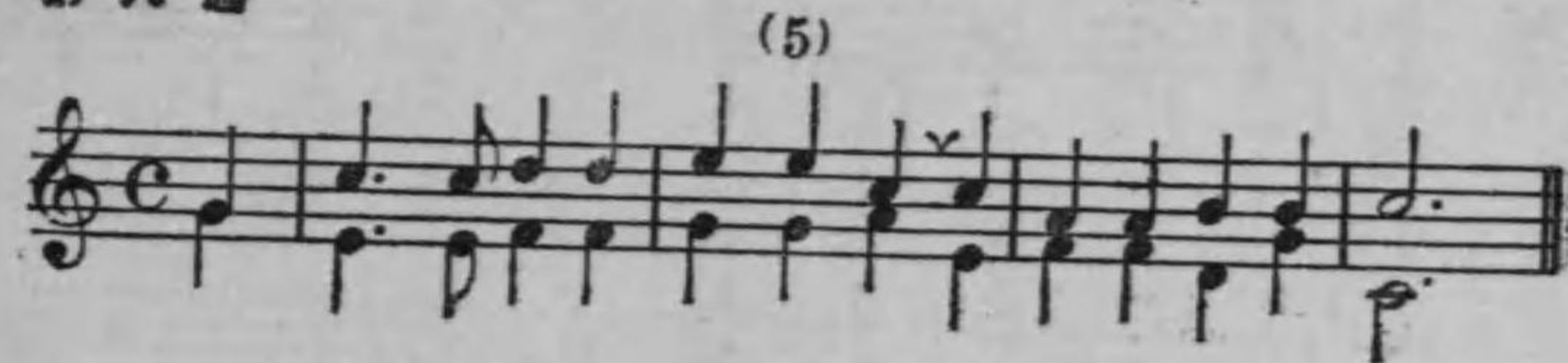


部との組を分けて置く必要はない兩部とも一齊に教えて習熟した後二組に分けて唱和さす。従つて高低兩音部を交る／＼唱はす方がよい。

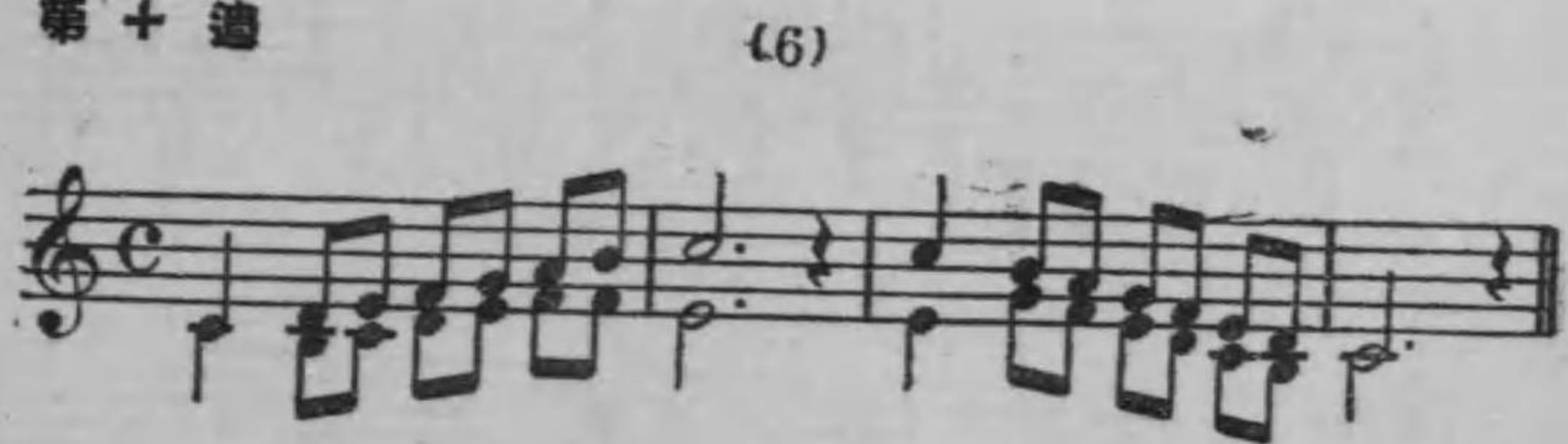
(3) 小學唱歌集の「高嶺」より、

(4) 小學唱歌集「螢の光」より、

第九 遍



第十 遍



(5) 小學唱歌集「學び」より此の材料は二部輪唱として唱はすもよろし。輪唱の場合には高音部の組は一部の最後より二部の最初に連続して唱はしめ低音部の組は高音部組が二部の初めを唱ふ時に一部初めから唱はしめて二部に移りかくして高音部より一段遅れて終るものとす。

(6) 複音々階練習は唱歌教授の基本練習時に於て高等科に至るまで常に行ふ

△復習

備考

- 小學校唱歌教材の中には五度以上の音程を使用したものはあまり澤山ありません。若しあつても其の教材に就いて臨時的に其の部分だけ練習すればそれで充分と思ひますで系統的の音程練習は之を以て(六度まで)終りとし高等科に於ては稍程度高く二度から始めます。
- 樂譜法に於きましても以上述べました事項以外の諸記號等がありますが之れも若しあつたなら其の教材について臨時に教授すれば充分であります。
- 本書の目的とする所は緒言にもある通り本譜を正確に比較的早く大變な苦勞することなく極めて自然的に覺

事。

第五章 高等科第一學年

第一節 第一學期細案

期	週	教授事項並に教授方案	教授上の注意
一	二	<input type="checkbox"/> 二度音程練習 第一二遍 (1)  第三四遍 (2) 	<input type="checkbox"/> アクセントをつけて歌はしむること。 <input type="checkbox"/> 音程練習曲の大部分はコールユープンゲンより
一	三		
二	四		
一	四		

えさす事が主となつて居るのでありますから普通の樂典の書籍等に述べられて居る順序とは其の排列が違つて居るのが當然の事と考へます。

抑々唱歌教授たるや理論でなくして實際であり理窟でなくて要領であります。が故に教授者として最も大切なることは教師の實力であります。

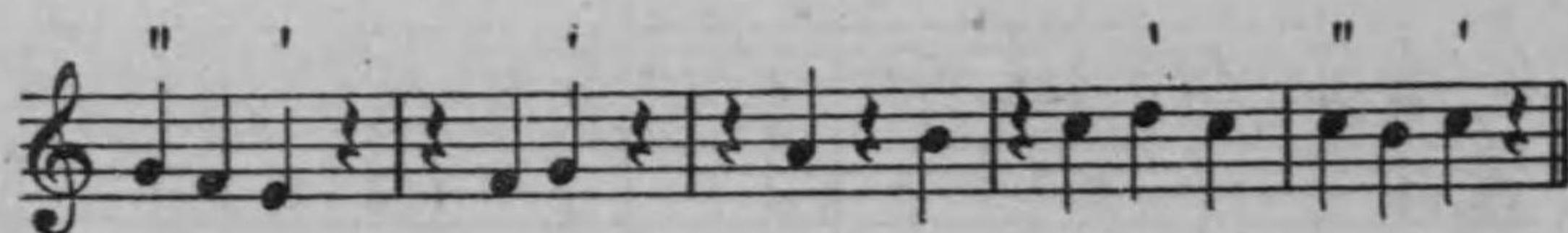
以上申述べました事柄は極めて平凡であります。が私共の努力の結晶であり研究の結果でありまして受扱方法の大綱を書き連ねたに過ぎません。から其の排列の順序や材料の多少等は運用下さる教師諸君の所に於て兒童の程度を考へつゝ自由に斟酌あらんことを望みます。

三二

〇九

第十一、十二週

(5)



第九、一〇週 復習

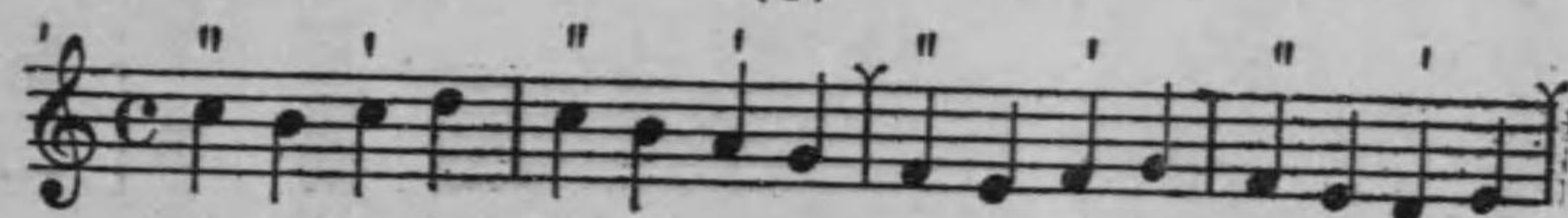
□(5) 拍子に注意
□二時間で完成しなかつた
ら十五、十六週の復習時
間に於て練習すると。

八七

六五

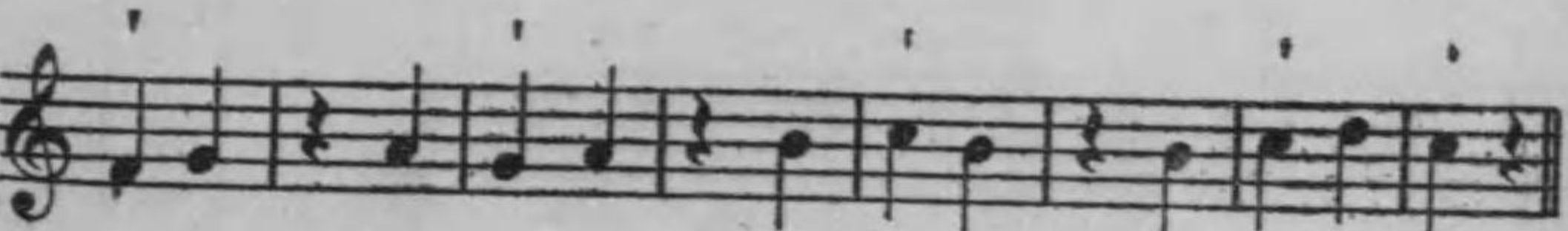
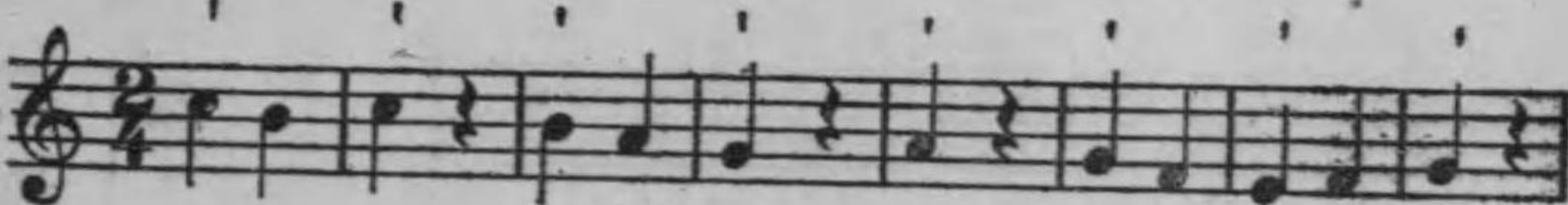
第五、六週

(3)



第七、八週

(4)



	二	期
	二	週
第一、二週 (1)	□ 三度音程	教授事項並に教授方案
		教授上の注意

第二節 第二學期細案

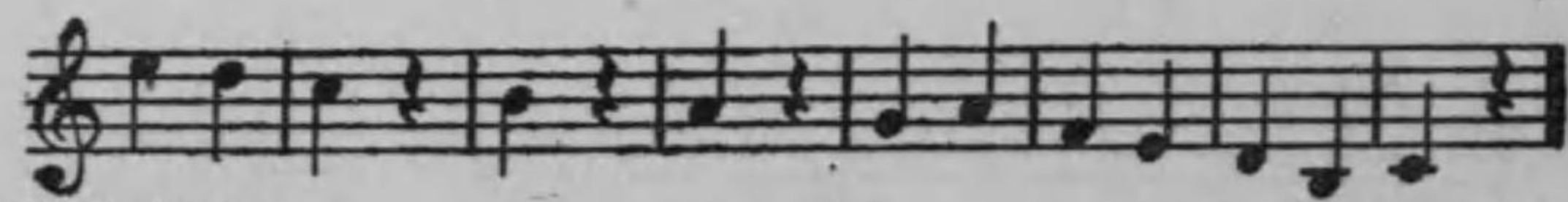
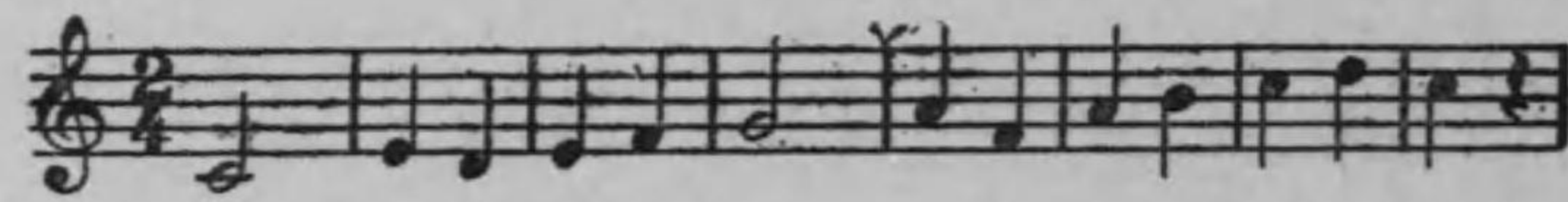
	一六	二五	一四	二三
第十三、十四週 (6)				
□ 第十五、十六週 復習				

八七

六五

第五、六連

(3)



第七、八連

(4)

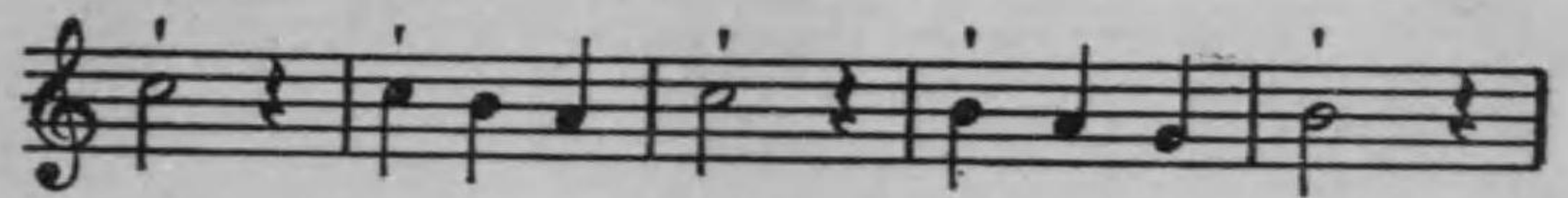
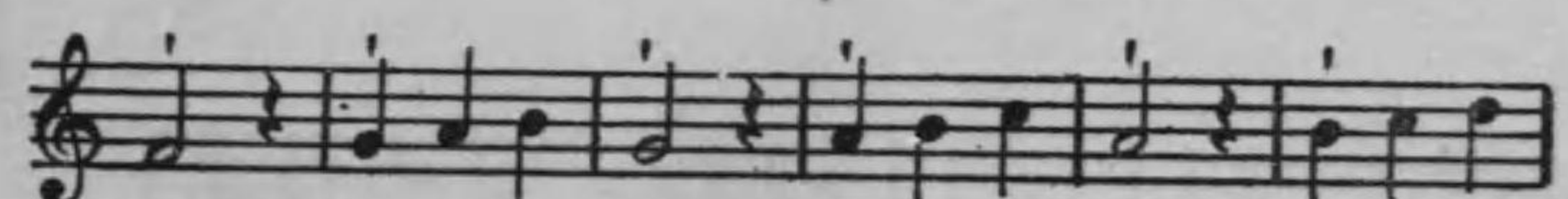
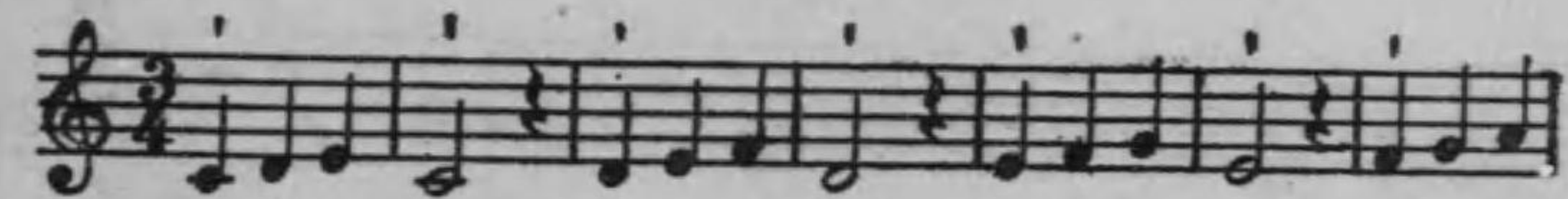


□ 結合線に就いて同じ高度の二音を結合する孤線を「*S*」と言ふ。二個の音符を合せて一個の音符の如く奏するのである。而して此の場合には次小節のアグセントが前小節に来ることに注意しなくてはならぬ。

四三

第三、四連

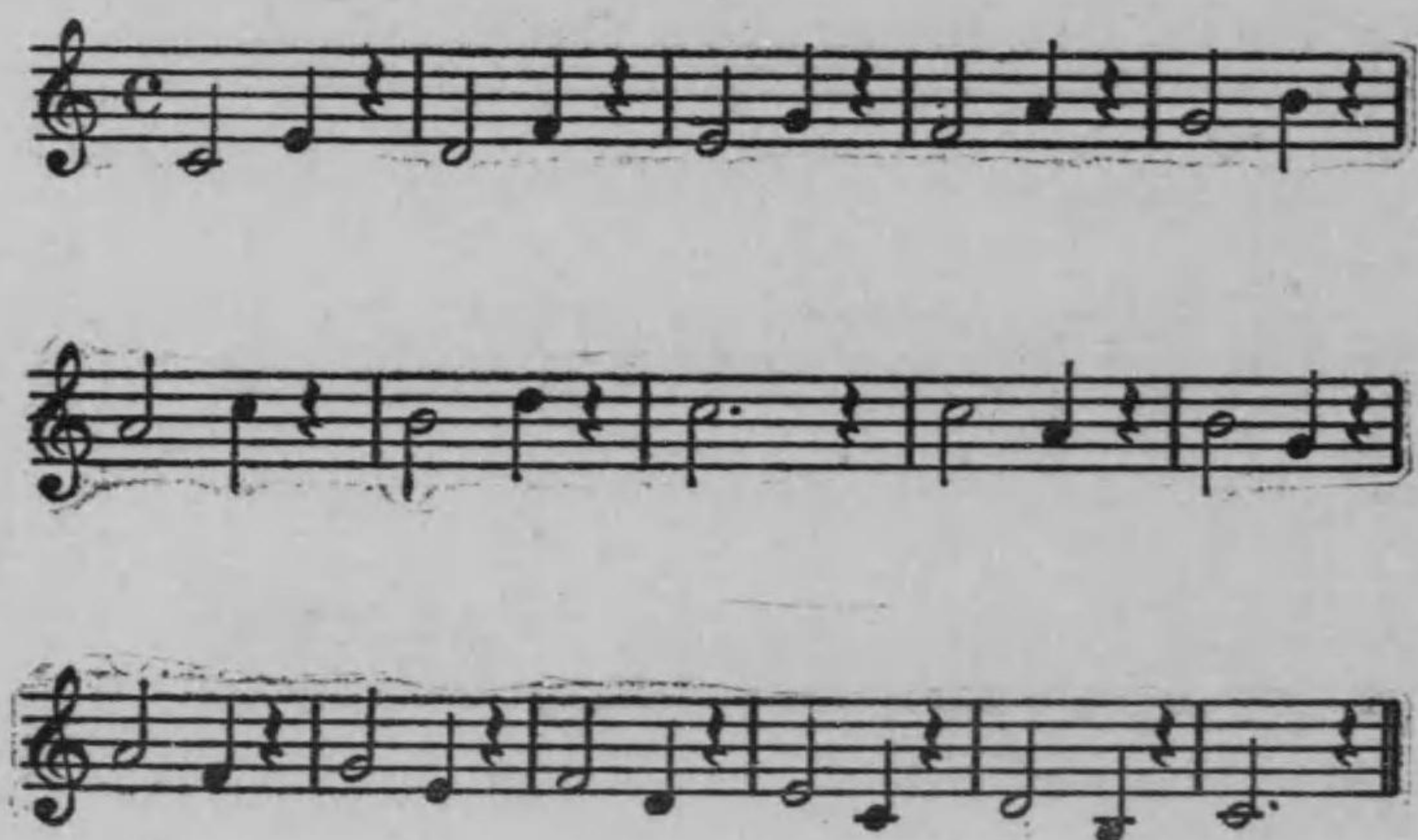
(2)



一六五 一四三

第十三、十四週

(6)



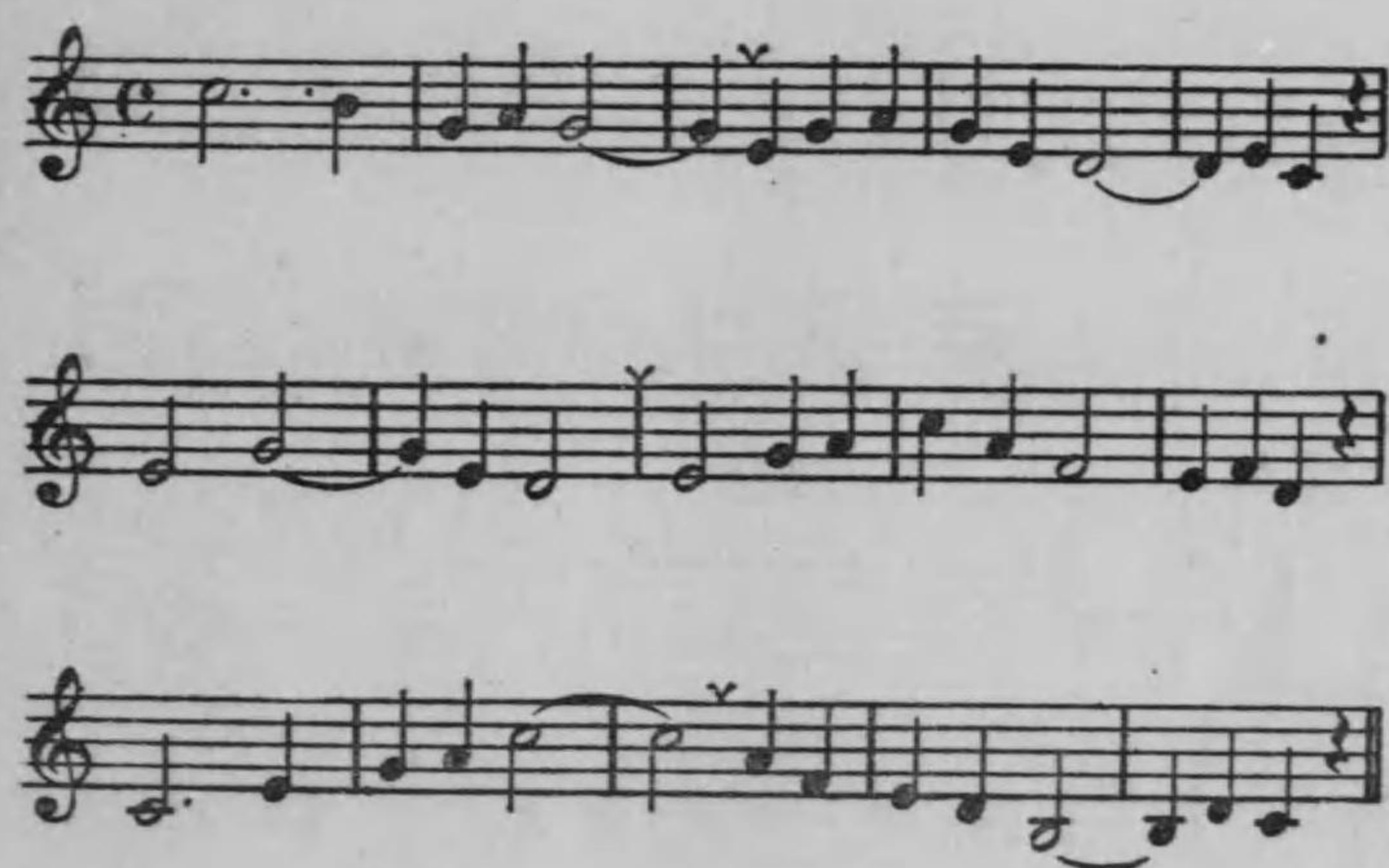
□第十五、十六週 復習

□(6)暗誦材料
□著者の暗誦材料と稱する
曲は基本的のものであつ
て特によく練習するは勿
論殆ど毎時間音階演習に
準じて歌はしめんとする
ものである。
(以下之に準ず)

三二 一〇九

第十一、十二週

(5)



□第九、一〇週

第三節 第三學期細案

期 週 教授事項並に教授方案 教授上の注意

三 二 一

□四度音程

第一、二週

(1)

教授上の注意

□増四度音程は極めて六つかしいものであつて小学校の歌曲にはあまり見ない音程であるからある程度までの練習でよい。

四 三

第三、四週

(2)